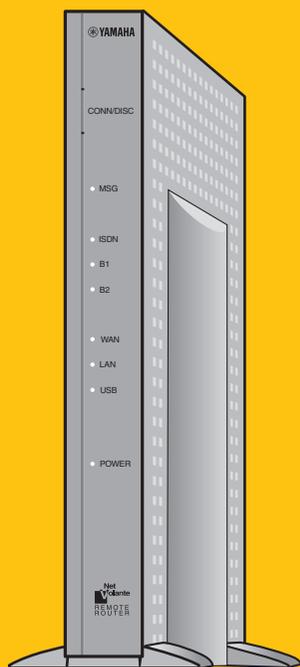


RTA 55i

ブロードバンド&ISDNルータ/TA

**第1章**
ルータを準備する**第2章**
CATV(ケーブルテレビ)で
常時接続する**第3章**
ADSL接続する**第4章**
フレッツ・ADSL
接続する**第5章**
Bフレッツ接続する**第6章**
必要なときだけ
電話をかけて接続する
(ISDN端末型ダイヤルアップ)**第7章**
ISDN回線で
常時接続する
(フレッツ・ISDN)**第8章**
その他の情報

設定マニュアル

本機をお使いになる前に本書をよくお読みになり、正しく設置や設定を行ってください。本書中の警告や注意を必ず守り、正しく安全にお使いください。本書はなくさないように、大切に保管してください。


はじめに
お読みください

付属マニュアル のご案内

本機の機能を十分に活用していただくために、下記のマニュアルを用意致しました。目的にあわせてマニュアルをお選びください。



設定マニュアル（本書）

本機を使い始めるときに読むマニュアルです。

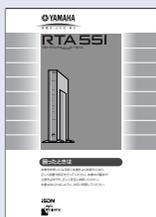
設置のしかたや設定のしかただけでなく、CATV/ADSLなどのブロードバンドルータとしての基本的な使いかたについて説明しています。



活用マニュアル

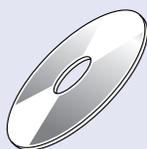
本機の機能を活用するために読むマニュアルです。

電話、FAX、ISDNルータ、ターミナルアダプタ(TA)としての代表的な使いかたについて、その解説と設定方法を説明しています。



困ったときは

本機のトラブル発生時の対策や、サポート窓口のご案内について、まとめて説明しています。



コマンドリファレンス（PDF形式）

コマンドを使って高度な設定を行いたいときに読むマニュアルです。

本機のコンソールコマンドについて解説しています。

① マークのマニュアルは付属のCD-ROMにPDF形式で収録しており、お読みになるにはAcrobat Readerが必要です。先にCD-ROMのAcrobat Readerをインストールしてください。詳しくは活用マニュアル（別冊）の「Acrobat Readerで説明書を読む」（188ページ）をご覧ください。

- 本書の記載内容を一部または全部を無断で転載することを禁じます。
- 本書の記載内容は将来予告なく変更されることがあります。
- 本製品を使用した結果発生した情報の消失等の損失については、当社では責任を負いかねます。保証は本製品の物損の範囲に限ります。予めご了承ください。

重要な お知らせ

プロバイダ契約について

本機をルータとしてお使いになる前（または新たにプロバイダ契約を行う前）に、必ずルータ経由による複数パソコンの同時接続が、プロバイダによって禁止されていないかどうかご確認ください。プロバイダによっては、禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。禁止されている場合は、プロバイダと別途必要な契約を行うか、同時接続を禁止していない他のプロバイダと契約してください。

通信料金について

本機をダイヤルアップルータとしてお使いになる場合には、自動発信の機能をよくご理解の上ご使用ください。本機をパソコンやLANに接続した場合、本機はパソコンのソフトウェア（電子メールソフトウェアやWebブラウザなど）が送信するデータや、LAN上を流れるデータの宛先を監視します。LAN外の宛先があると、あらかじめ設定された内容に従って自動的に回線への発信を行います。

そのため、設定間違いや回線切断忘れがあった場合、ソフトウェアや機器が定期送信バケットを発信していた場合には、予想外の電話料金やプロバイダの接続料金がかかる場合があります。

とどき通信記録や累積料金を調べて、意図しない発信がないか、また累積料金が適当であるかどうかご確認ください。また、本機の設定やリビジョンアップなどの最新情報を得るために、定期的にNetVolanteシリーズのホームページ (<http://NetVolante.jp/>) をご覧になることを強くおすすめいたします。

以下の場合に、予想外の通信料金がかかっている場合があります

- 本機を使い始めたとき
- 本機のプロバイダ接続設定を変更したとき
- MP接続を設定したとき
- パソコンのダイヤルアップネットワーク設定を変更したとき（TA機能利用時）
- RealPlayerソフトウェアをインストールしたとき
- パソコンに新しいソフトウェアをインストールしたとき
- ネットワークに新しいパソコンやネットワーク機器、周辺機器などを接続したとき
- 本機のファームウェアをリビジョンアップしたとき
- その他、いつもと違う操作を行ったり、通信の反応に違いを感じたときなど

次のページにつづく→

ご注意

- プロバイダ契約を解除／変更した場合は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定 (TA接続利用のみ) の両方を削除または再設定してください。削除しないままお使いになると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- MP接続に対応していないプロバイダに対して、MP接続の設定や発信は絶対に行わないでください。意図しない料金を請求される場合があります。
- プロバイダ側の状態 (アクセスポイントの変更、メンテナンス、障害など) によって、予想外の通信料金がかかる場合があります。プロバイダからの告知情報には常にご注意ください。

セキュリティ対策と本機の ファイアウォール機能について

インターネットに接続すると、世界中のホームページを閲覧したり、電子メールで自由に情報を交換したりすることができ、とても便利です。しかし同時に、お使いのパソコンに対する世界中からの不正アクセスの危険にさらされることとなります。

特にインターネットに常時接続したり、サーバなどを公開したりする場合には、その危険性を理解して、必要なセキュリティ対策を行う必要があります。本機にはそのためのファイアウォール機能を装備していますが、不正アクセスの手段や抜け道 (セキュリティホール) は、日夜新たに発見されており、それを防ぐ完璧な手段はありません。 インターネット接続には、常に危険がともなうことをご理解いただくとともに、常に新しい情報を入し、自己責任でセキュリティ対策を行うことを強くおすすめいたします。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会 (VCCI) の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

RTA55ilは「外国為替および外国貿易管理法」に基づいて規制される戦略物資 (または役務) に該当します。このため、日本国外への持ち出しには、日本国政府の事前の許可が必要となる場合があります。

目次

付属マニュアルのご案内	2
重要なお知らせ	3
本書の表記について	7
安全にお使いいただくために	8
使用上のご注意	10

第1章

ルータを準備する

ネットボランチRTA55iでできること	12
ルータを設置する	14
LANカード/HUBを用意する	15
インターネットへの接続方法を選ぶ	16

第2章

CATV(ケーブルテレビ)で 常時接続する

CATV(ケーブルテレビ)接続とは?	18
ルータにCATV回線を接続する	20
電源を接続する	22
ルータにパソコンを接続する	24
パソコンに付属ソフトウェアをインストールする ..	27
パソコンのネットワーク設定を変更する	31
インターネットに接続する	36

第3章

ADSL接続する

ADSL接続とは?	44
ルータにADSL回線を接続する	46
電源を接続する	22
ルータにパソコンを接続する	50
パソコンに付属ソフトウェアをインストールする ..	53
パソコンのネットワーク設定を変更する	57
インターネットに接続する	62

第4章

フレッツ・ADSL接続する

フレッツ・ADSL接続とは?	70
ルータにADSL回線を接続する	72
電源を接続する	74
ルータにパソコンを接続する	76
パソコンに付属ソフトウェアをインストールする ..	79
パソコンのネットワーク設定を変更する	83
インターネットに接続する	88

第5章

Bフレッツ接続する

Bフレッツ接続とは?	96
ルータに光ファイバ回線を接続する	98
電源を接続する	100
ルータにパソコンを接続する	102
パソコンに付属ソフトウェアをインストールする ..	105
パソコンのネットワーク設定を変更する	109
インターネットに接続する	114

第6章

必要なときだけ 電話をかけて 接続する

(ISDN端末型ダイヤルアップ)

ISDN端末型ダイヤルアップとは?	122
ルータにISDN回線を接続する	125
本機のDSUを使ってISDN回線に接続する	126
他のISDN機器のDSUを使って ISDN回線に接続する	127
バックアップ電池を取り付ける	128
電源を接続する	130
ルータに電話機やFAXを接続する	132
接続する	132
正しく接続できているか確認する	133
TELポートの設定を変更する	135
ルータにパソコンを接続する	136
パソコンに付属ソフトウェアをインストールする	139
パソコンのネットワーク設定を変更する	143
インターネットに接続する	148

第7章

ISDN回線で 常時接続する (フレッツ・ISDN)

フレッツ・ISDN接続とは?	158
ルータにISDN回線を接続する	161
本機のDSUを使ってISDN回線に接続する	162
他のISDN機器のDSUを使って ISDN回線に接続する	163
バックアップ電池を取り付ける	164
電源を接続する	166
ルータに電話機やFAXを接続する	168
接続する	168
正しく接続できているか確認する	169
TELポートの設定を変更する	171
ルータにパソコンを接続する	172
パソコンに付属ソフトウェアをインストールする	175
パソコンのネットワーク設定を変更する	179
インターネットに接続する	184

第8章

その他の情報

手動でネットワーク設定を変更する	194
Windows 95/98/Meの場合	194
Windows 2000の場合	196
WindowsXPの場合	198
Mac OS 8.x~9.xの場合	201
Mac OS Xの場合	202
RTAssistを活用する	203
本機を使いこなすために	208

本書の表記 について

マークの意味

本書では、本機を安全にお使いいただくため、守っていただきたい事項に次のマークを表示していますので、必ずお読みください。



警告

人体に危険を及ぼしたり、装置に大きな損害を与える可能性があることを示しています。必ず守ってください。



注意

機能停止を招いたり、各種データを消してしまう可能性があることを示しています。十分注意してください。

略称について

本書ではそれぞれの製品について、以下のように記載しています。

- YAMAHA RTA55i:本機
- Microsoft® Windows®:Windows
- Microsoft® Windows 95®:Windows95
- Microsoft® Windows 98®:Windows98
- Microsoft® Windows 98 Second Edition®:Windows98SE
- Microsoft® Windows NT®:WindowsNT
- Microsoft® Windows 2000®:Windows2000
- Microsoft® Windows Millennium Edition®:WindowsMe
- Microsoft® Windows XP® :WindowsXP
- INSネット64:ISDN
- 10BASE-T(100BASE-TX) ケーブル:LANケーブル

設定例について

本書に記載されているIPアドレスやドメイン名、URLなどの設定例は、説明のためのものです。実際に設定するときは、必ずプロバイダから指定されたものをお使いください。

商標について

- イーサネットは富士ゼロックス社の登録商標です。
- Apple、Macintosh、MacOSは米国Apple社の登録商標および商標です。
- Microsoft、Windowsは米国Microsoft社の米国およびその他の国における登録商標です。
- Adobe、Acrobatは米国AdobeSystems社の登録商標です。
- INSネット64は日本電信電話株式会社の登録商標です。
- Stac LZSは米国Hi/fn社の登録商標です。
- 本製品は、RSA Security Inc.のRSA® BSAFE™ WirelessCoreソフトウェアを搭載しております。RSAはRSA Security Inc.の登録商標です。BSAFEはRSA Security Inc.の米国及びその他の国における登録商標です。RSA Security Inc. All rights reserved.



安全にお使い いただくために

本機を安全にお使いいただくために、下記のご注意をよくお読みになり、必ず守ってお使いください。

警告

- 本機は家庭および一般小規模オフィス向けの製品であり、人の生命や高額財産などを扱うような高度な信頼性を要求される分野に適応するようには設計されていません。誤って本機を使用した結果、発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機から発煙や異臭がするとき、内部に水分や薬品類が入ったとき、およびACアダプタや電源コードが発熱しているときは、直ちに電源スイッチを切ってACアダプタをコンセントから抜き、バックアップ電池を取りはずしてください。そのまま使用を続けると、火災や感電のおそれがあります。
- 濡れた手でACアダプタや電源コードを触らないでください。感電や故障のおそれがあります。
- 電源コードを傷付けたり、無理に曲げたり、引っ張ったりしないでください。火災や感電、故障、ショート、断線の原因となります。
- ACアダプタは必ず本機に付属のもの（P9V1.1A）をお使いください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- 付属のACアダプタは日本国内用AC100V（50/60Hz）の電源専用です。他の電源で使用すると、火災や感電、故障の原因となります。
- 安全のため、ACアダプタは容易に外すことのできるコンセントに接続してください。
- 本機を落下させたり、強い衝撃を与えたりしないでください。内部の部品が破損し、感電や火災、故障の原因となります。
- 本機を分解したり、改造したりしないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- 本機の通風口を塞いだ状態で使用しないでください。火災や感電、故障の原因となります。
- 電源を入れたまま、USBケーブル以外のケーブル類を接続しないでください。感電や故障、本機および接続機器の破損の恐れがあります。
- 乾電池は逆向きに入れたり、充電したり、ショート（短絡）させたりしないでください。破裂や液漏れの恐れがあります。
- 電池を破棄する場合には、端子にテープなどを貼って絶縁してください。他の金属と接触すると発熱や破裂などの原因となります。
- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- メーカーや種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 長時間使用しない場合は、電池を取り外してください。

- 電池から漏れた液が目に入った場合は、こすらずにすぐに大量のきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。失明等の障害のおそれがあります。
- 電池から漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合は、すぐに大量のきれいな水で洗ってください。化学やけどなどの障害の恐れがあります。
- 電池から漏れた液が口に入った場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。
- アナログポートやISDNポート、USBポートに指や異物を入れないでください。感電や故障、ショートの原因となります。

注意

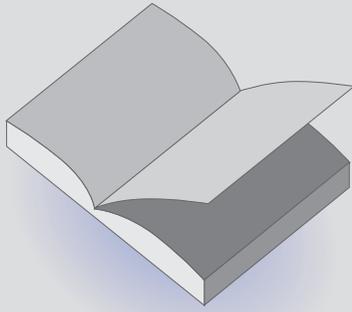
- 直射日光や暖房器等の風が当たる場所、温度や湿度が高い場所には、置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- 極端に低温の場所や温度差が大きい場所、結露が発生しやすい場所で使用しないでください。故障や動作不良の原因となります。結露が発生した場合は、ACアダプタをコンセントから抜き、乾燥させるか、充分室温に慣らしてから使用してください。
- ほこりが多い場所や油煙が飛ぶ場所、腐蝕性ガスがかかる場所、磁界が強い場所に置かないでください。故障や動作不良の原因となります。
- 本機を他の機器と重ねて置かないでください。熱がこもり、火災や故障の原因となることがあります。
- 近くに雷が発生したときは、ACアダプタやケーブル類を取り外し、使用をお控えください。落雷によって火災や故障の原因となることがあります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。アース接続は必ず、ACアダプタをコンセントにつなぐ前に行ってください。又、アース接続をはずす場合は、必ずACアダプタをコンセントから切り離してから行ってください。
- 停電後や長時間電源を切っていた場合には、電池を交換することをお勧めします。また、停電等が発生しなかった場合でも、1年間を目安に電池を交換することをお勧めします。電池から液が漏れて火災やけが、周囲を汚損する原因となることがあります。
- 本機を修理や移動等の理由により輸送する場合には、必ず本機の設定を保存し、電池をすべて外した状態にしてください。輸送中に電池から液が漏れて、火災やけが、周囲を汚損する原因となることがあります。電池の液漏れによる修理は、保証期間中であっても実費を請求させていただきます。

使用上の ご注意

- ダイヤルアップルータはプロバイダ接続のために自動的に電話をかける機能を持った装置であり、本機にも自動的に電話をかける機能があります。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめ製品の機能や動作をよく理解した上でご使用ください。本機の使用方法や設定を誤って使用した結果発生したあらゆる損失について、当社では一切その責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- メール確認や転送を設定すると定期的にインターネットへ自動接続を行うので、その度に通話料金やプロバイダ接続料金がかかります。あらかじめご理解いただいた上で、この機能を設定およびご使用ください。
- 自動接続が設定されている場合に、「かんたん設定ページ」の[ネットボランチホームページ]をクリックするとインターネットへ自動接続します。それに伴った通話料金やプロバイダ接続料金がかかりますので、あらかじめご理解いただいた上で、この機能をご使用ください。
- 本機のアナログポートにはモデムを接続して使用することができますが、モデムの最高通信速度で接続できるとは限りません。モデムの通信速度は、その時の通信回線の環境や相手先の機器との相性によって決まりますので、モデムの最高性能よりも遅い速度でしか接続できない場合があります。
- 本機のご使用にあたり、周囲の環境によっては電話、ラジオ、テレビなどに雑音が入る場合があります。この場合は本機の設置場所、向きを変えてみてください。
- 本機を譲渡する際は、マニュアル類も同時に譲渡してください。
- 本機を廃棄する場合には不燃物ゴミとして廃棄してください。または、お住まいの自治体の指示に従ってください。

第 1 章

ルータを 準備する



ネットボランチRTA55iの主な特徴や、必要な別売り品などを説明します。

ネット ボランチ RTA55iで できること

本機は、ブロードバンドルータ、ダイヤルアップルータ、アナログポート、DSU、TAの機能をすべて内蔵した、多機能ルータです。ISDNのダイヤルアップ接続からCATV／ADSL接続、専用線接続まで、さまざまなインターネット接続方法に対応できます。より高速な回線で接続したいときにも、本機の設定変更のみで対応できます。

ブロードバンド&ISDN対応

CATVやADSLなどのブロードバンド回線用モデムに接続できるWANポートに加えて、従来のISDNダイヤルアップルータ機能を装備しています。「インターネットはCATV回線で接続し、電話はISDN回線」という環境でお使いの場合でも、本機1台で対応できます。

ご注意

ISDN回線以外では、本機のインターネット電話以外の電話機能は利用できません。

ファイアウォール機能

静的／動的の2種類のフィルタによるパケットフィルタリング機能で、外部からの不正アクセスに対してセキュリティを強化できます。不正アクセスや攻撃を検出した場合にお知らせする、不正アクセス検知機能も搭載しています。

TA(ターミナルアダプタ)機能搭載

Windows98SE/Me/2000/XP、Mac OS9/MacOSXのパソコンから、本機をUSB接続のISDN TAや、ブロードバンドTA(PPPoE方式のみ対応)として使用できます。手動で接続／切断を制御できるので、常時接続回線契約をしても、セキュリティ面で心配なときに便利です。また、本機はWindows98/Me/2000/XPの仮想プライベートネットワーク機能を使ったLAN-TA機能を搭載しているため、LAN上のWindowsパソコンから、本機を仮想TAとして使用することもできます。

インターネット電話機能

通話の相手先もRTA55iを使用している場合には、インターネット経由の会話(インターネット電話)を楽しめます。インターネット経由で通話するため、プロバイダへの通信料以外の通話料金はかかりません。

メール着信確認／メール着信転送機能

登録したメールアドレスへのメール着信を通知するメール着信確認機能を搭載しているため、パソコンの電源を入れなくても、メール着信の有無を確認できます。メール着信を確認するだけでなく、着信したメールを携帯電話やPHSの電子メールなどの他のメールアドレスに転送できる、メール着信転送機能も搭載しています。

LANポートのないパソコンでも、USBポート経由でアクセス可能

USBポートに接続したパソコンをLANに接続できる擬似LAN機能を搭載しているため、LANボードを装着できないパソコンでも、USB経由でLANへアクセスできます。

かんたん設定

付属のユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」でパソコンのネットワーク設定を自動的に行えます。本機は設定のためのホームページ「RTA55iかんたん設定ページ」を内蔵しているため、本機の基本的な設定はパソコンのWebブラウザで変更できます。

充実のNetVolanteホームページ

NetVolanteシリーズのホームページ (<http://NetVolante.jp/>) では、NetVolanteシリーズの最新情報や機能の設定方法、FAQ、リビジョンアッププログラムなど、NetVolanteを活用するための情報を満載しています。本機の「かんたん設定ページ」画面左上の[ネットボランチホームページ]をクリックするだけでアクセスできます。

また、ヤマハルータRTシリーズホームページ (<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>) では、RTシリーズルータを使った高度な活用例や詳しい解説がご覧いただけます。

その他多機能ルータとして便利な機能を装備

- 停電時には、乾電池によるバックアップ電源でTEL1ポートを使用でき、ライフラインとしての電話回線を確保できます (ISDN回線使用時のみ)。
- TELポートは2ポート装備しているので、今まで使っていた電話やFAX、モデムなどを接続できます。サブアドレスやフレックスホン、ナンバー・ディスプレイ、i・ナンバー、ダイヤルインなどのISDNサービスにも対応しています。また、Lモードにも対応しています。
- 64/32kbit/s PIAFS対応ダイヤルアップサーバ機能を搭載しているため、PHS電話機で外出先からLANにアクセスできます (PIAFS 32k、64kbit/sに対応。64kbit/sはギャランティーモードとベストエフォートモードの両方に対応)。
- LAN上のパソコンからFAXモデムなしでFAXを送受信できる、Windows用FAXソフトウェア「RVS-COM 2000」に対応しています (利用するには別途「RVS-COM 2000」が必要です)。なお、RVS-COM 2000R2には対応していません。
- ご購入後に新しい機能が追加されても、本機内蔵ソフトウェアのリビジョンアップ (バージョンアップ) を行うことで、最新の機能が利用できます。

ルータを 設置する

本機には脱着可能なスタンドが付属しています。設置場所に合わせて、縦置きでも、横置きでも設置できます。

ご注意

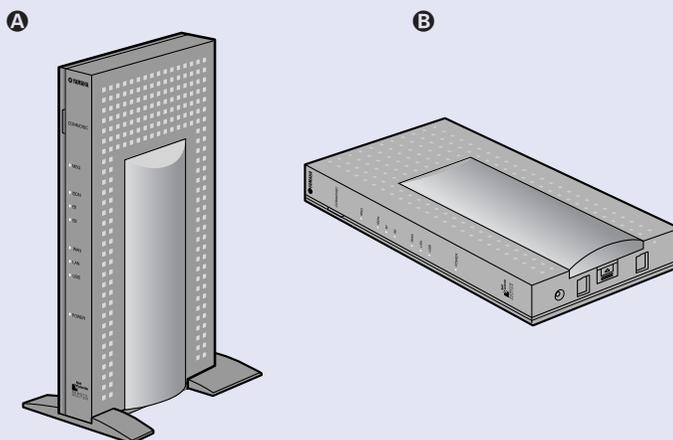
- 風通しのよい場所を選び、換気口をふさがないように設置してください。
- 放熱する機器の上には乗せないでください。

A 縦置きの場合

スタンドを取り付けて設置します。

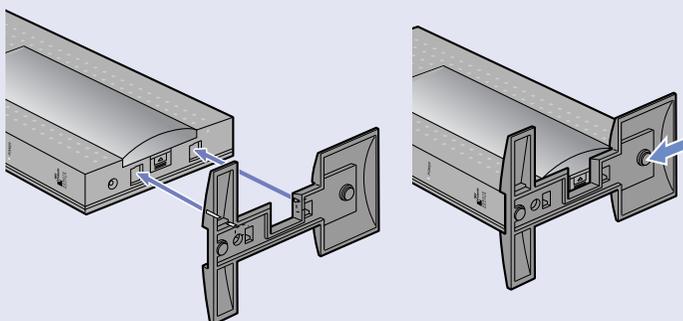
B 横置きの場合

スタンドを取りはずして設置します。



スタンドを取り付ける

ルータ本体を持ち、スタンドの突起をルータ本体底面の穴に合わせて差し込みます。

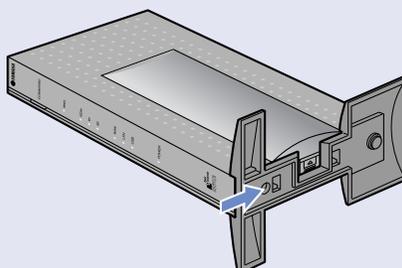


1—足の細長い方が前側になるように差し込んでください。

2—スタンドを図の方向にスライドさせてロックします。

スタンドを取りはずす

ルータ本体を持ち、底面のスタンドを図の方向にスライドさせて取りはずします。



LANカード ／HUBを 用意する

本機をLAN接続で使う場合は、パソコンにLANポート(10BASE-Tまたは100BASE-TXポート)が必要です。お使いのパソコンにLANポートがない場合は、本機の設置を始める前に、10BASE-T(100BASE-TX)対応のLANボードまたはLANカード(PCカード)を取り付けて、LANポートを増設してください。

本機を設置する前に、あらかじめLANボードやLANカードの取扱説明書をご覧ください。正常に動作することを確認してください。正常に動作しない場合は、あらかじめLANボードやLANカードの問題を解決してから、本機を設置してください。

本機に5台以上のパソコンをLANケーブルで接続したいときは

市販の10BASE-T(100BASE-TX)対応のHUBまたはスイッチングHUBが必要になります。

デスクトップ型やタワー型パソコンの場合

デスクトップ型やタワー型パソコンの場合は、拡張スロットにLANボードを取り付けます。拡張スロットには、PCIやISAなどの種類があるので、お使いのパソコンの取扱説明書をご覧ください。対応したLANボードを取り付けてください。

購入時のチェックポイント

- 対応OS(Windows95/98/Me/2000/XP、MacOSなど)
- スロットの種類(PCI、ISA、Cバス、Nubusなど)
- コネクタの種類(10BASE-Tまたは10BASE-T/100BASE-TXのもの)

ノート型パソコンの場合

ノート型パソコンの場合は、PCカードスロットにLANカードを取り付けます。

PCカードスロットの規格や添付ソフトの種類があるので、お使いのパソコンに対応したPCカード型LANカードを取り付けてください。

購入時のチェックポイント

- 対応OS(Windows95/98/Me/2000/XP、MacOSなど)
- PCカードスロットの種類(CardBus、PCMCIA Type I/Type II/Type III)
- コネクタの種類(10BASE-Tまたは10BASE-T/100BASE-TXのもの)

インターネットへの 接続方法を選ぶ

本機はさまざまな回線接続方法に対応しています。接続方法によって必要な回線契約やプロバイダ（インターネット接続業者）との接続契約が異なりますので、接続方法に合わせて説明をご覧ください。

CATVで
インターネットへ常時接続する →17ページ

ADSLで
インターネットへ常時接続する →43ページ

フレッツ・ADSLで
インターネットへ常時接続する →69ページ

Bフレッツで
インターネットへ常時接続する →95ページ

ISDN回線で
必要なときだけ
インターネットへ接続する →121ページ

フレッツ・ISDNで
インターネットへ常時接続する →157ページ

専用線で
(OCNエコノミーやADSL)
インターネットへ常時接続する
→「活用マニュアル」148、154ページ

ご注意

- プロバイダ契約を解除／変更した場合は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（TA接続利用のみ）の両方を削除または再設定してください。削除しないままお使いになると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 本機をルータとしてお使いになる前（または新たにプロバイダ契約を行う前）に、必ずルータ経由による複数パソコンの同時接続が、プロバイダによって禁止されていないかどうかご確認ください。プロバイダによっては、禁止もしくは別の契約が必要な場合があります。契約に違反して本機を使用すると、予想外の料金を請求される場合があります。禁止されている場合は、プロバイダと別途必要な契約を行うか、同時接続を禁止していない他のプロバイダと契約してください。

第2章

CATV

(ケーブルテレビ)

で常時接続する



CATV接続は、電話回線を使わずにCATVのアンテナ線でインターネットへ常時接続する方法です。

CATV

通常ADSL接続
ADSL
フレッツ・ADSL接続

フレッツ接続
OPTICAL

タイムシェアリング接続
ISDN
フレッツ・ISDN接続

CATV(ケーブルテレビ) 接続とは?

CATV接続は、電話回線を使わずにCATVのアンテナ線でインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域にインターネット接続サービスを提供しているCATV業者があり、以下の条件を満たしていれば利用できます。お申し込みについては、お住まいの地域のCATV業者にお問い合わせください。

ご注意

- 本機に接続するケーブルモデムを別途ご用意いただく必要があります。詳しくはCATV業者にお問い合わせください。
- CATVでインターネットに接続する場合、本機をCATVのアンテナ線に直接接続することはできません。必ずケーブルモデムに接続してください。

必要な条件

- お住まいの地域にCATV業者があり、インターネット接続サービスを提供していること。
- お住まいの建物のアンテナ設備が、CATVインターネット接続に対応できること。
- CATV業者がルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

必要な契約

- 「ルータを使用した複数台接続可能なCATVインターネット接続」契約 (CATV業者と契約)

設定を行うためには、CATV業者から通知される以下の情報が必要です

契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

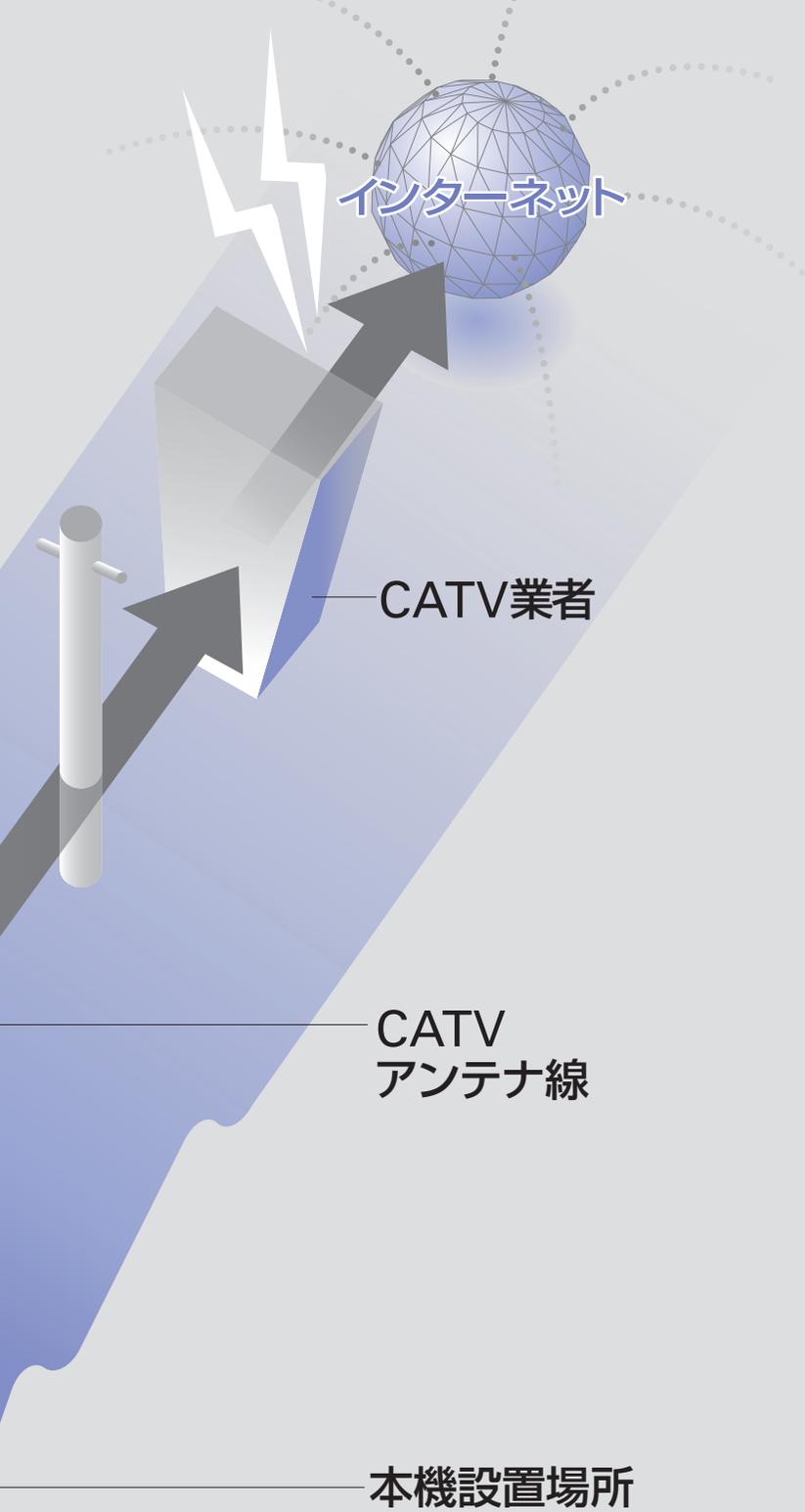
- ネームサーバアドレス (DNSサーバアドレス)
- IPアドレス • ネットマスク
- デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

ご注意

CATV業者から通知されるIPアドレスが下記のプライベートIPアドレスの範囲に含まれる時は、ファイアウォールでのセキュリティフィルタの設定変更が必要な場合があります (41ページ)。

- 10.0.0.0～10.255.255.255
- 172.16.0.0～172.31.255.255
- 192.168.0.0～192.168.255.255





インターネット

CATV業者

CATV
アンテナ線

本機設置場所

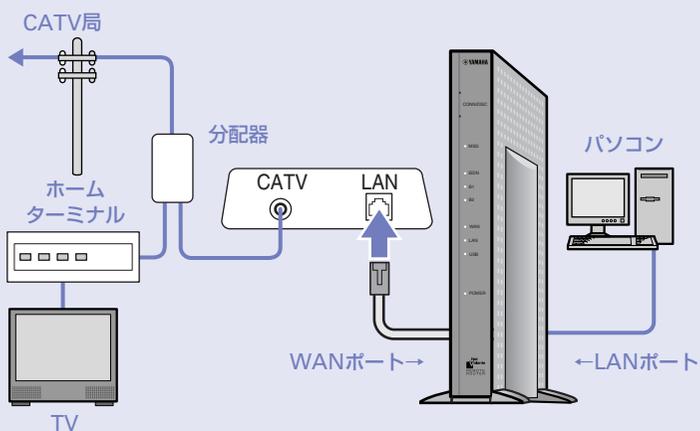
準備1

ルータに
CATV回線を
接続する

CATVで接続する場合は、本機のWANポートに以下の方法でケーブルモデムを接続します。ケーブルモデムの設置は、ご自分で設置する場合と、業者が行う場合とがあります。各業者の指示に従って設置してください。

ご注意

CATVでインターネットに接続する場合、本機をCATVのアンテナ線に直接接続することはできません。必ず、ケーブルモデムに接続してください。



接続する

必要なもの

LANケーブル:本機のWANポートとケーブルモデムを接続します。ケーブルモデムの種類に合わせて、ストレートタイプまたはクロスタイプのLANケーブルをご用意ください(ケーブルモデムに付属している場合もあります)。

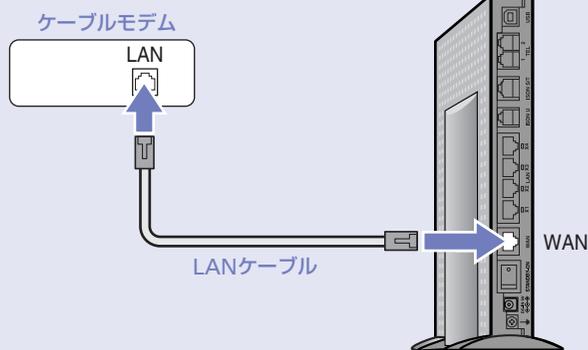
ご注意

ケーブルモデムとパソコンをストレートケーブルで接続するように指定されている場合は、ケーブルモデムと本機のWANポートもストレートケーブルで接続します。逆に、ケーブルモデムとパソコンをクロスケーブルで接続するように指示されている場合は、クロスケーブルで本機と接続してください。

ケーブルモデムのLANポートと、本機のWANポートをLANケーブルで接続する。

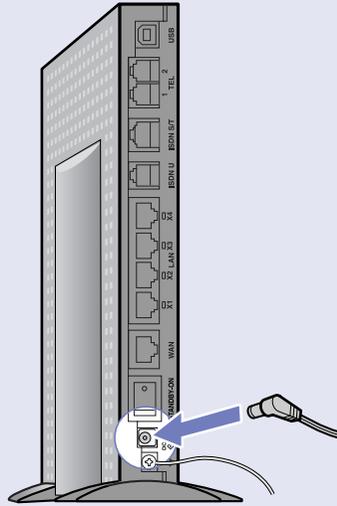
ご注意

ISDN回線を別途接続しない場合は、TELポート間の内線通話や本機のインターネット電話機能以外で、TELポートにアナログ機器(電話機、FAX、モデムなど)を接続して使うことはできません。



3

付属のACアダプタ (P9V1.1A) のコネクタを本機の電源コネクタに接続する。

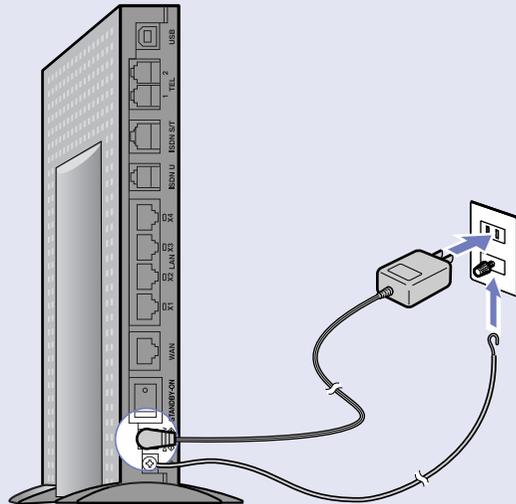


4

アースコードをアース端子へ、付属のACアダプタをコンセントに接続する。

ACアダプタを取りはずす際は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

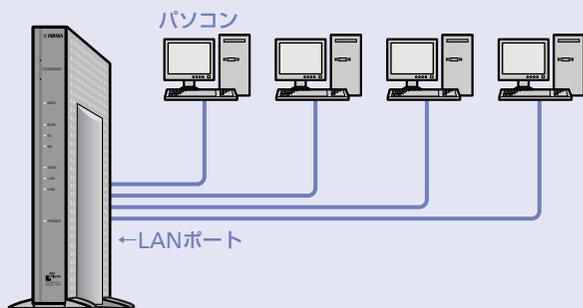


準備 3

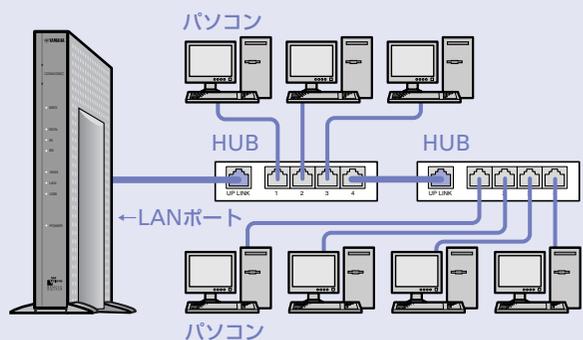
ルータに
パソコンを
接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに追加したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

4台までのパソコンを接続する場合の例



5台以上のパソコンを接続する場合の例



ご注意

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

- 本機のDHCP機能:OFF
- 本機のIPアドレス:指定されたIPアドレスに設定するか、またはDHCPクライアントとして設定する。

必要なもの

- LANケーブル:パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T/100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。本機にはストレートタイプのケーブル(3m)が1本付属しています。
- HUB:5台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた、10BASE-T/100BASE-TX対応のHUB(またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

1

本機の電源を切る。

2

パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

A パソコンを本機に直接接続する例

本機のLANポートに接続します。

B 5台以上のパソコンを接続する例

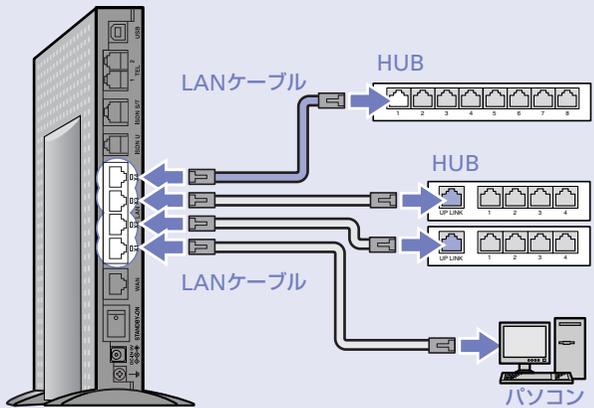
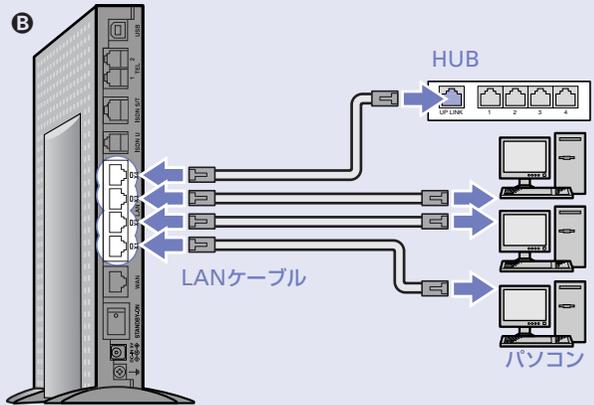
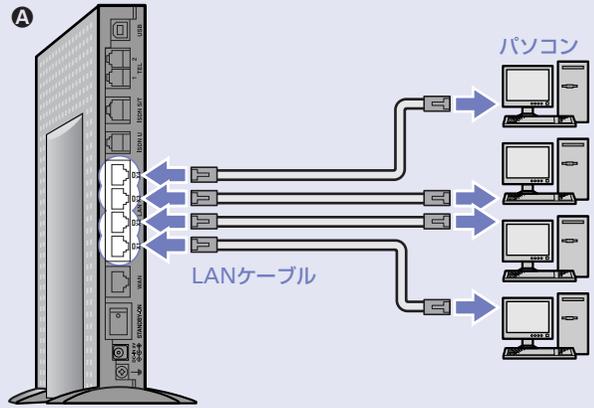
HUBの場合は、UPLINK(カスケード)ポートを接続します。

HUBにUPLINK(カスケード)ポートがない場合やUPLINKポートが空いていない場合は

HUBのポートと本機のLANポートを、市販のLANケーブルで接続してください。

ご注意

HUBは10BASE-Tの場合4段(階層)まで、10/100BASE-TX混在の場合2段(階層)までしかUPLINK(カスケード)接続できません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

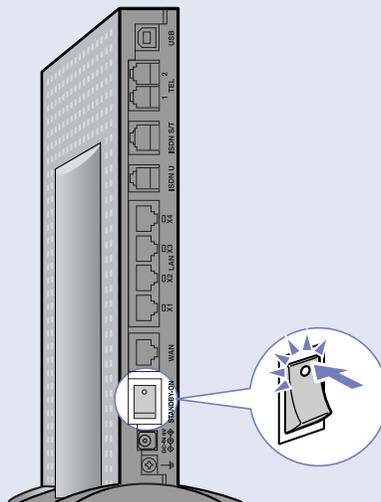


次のページにつづく→

3

本機の電源を入れる。

ランプが何回か点滅した後、POWERランプが点灯します。



4

パソコンやHUBの電源を入れ、本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅することを確認する。

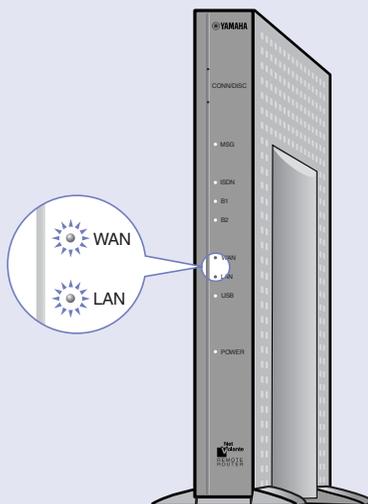
本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

ご注意

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は、「準備4 パソコンに付属ソフトウェアをインストールする」(次ページ)および「準備5 パソコンのネットワーク設定を変更する」(31ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。



準備 4

パソコンに
付属ソフト
ウェアを
インストール
する

本機には、パソコン側で本機に必要な設定をまとめて行ったり、パソコンから本機のインターネット接続／切断の操作をパソコンから行うために、以下のソフトウェアが付属CD-ROMに収録されています。

- RTA55i/パソコンセットアップ:パソコンのネットワーク機能を設定します。
- RTAssist:パソコンから本機のインターネット接続／切断を操作します。

これらのソフトウェアは簡単に設定や操作を行うためのものであり、本機を使用する上で必須のものではありません。ただし、本書ではこれらのソフトウェアを使って、パソコンの設定の方法を説明しています。ネットワーク機器の操作や設定に慣れていない方は、次ページ以降の説明にしたがって、設定操作の前にこれらのソフトウェアをインストールすることをおすすめいたします。



Windows95/98/
Me/2000/XPの場合

……28ページ



MacOSの場合

……30ページ

ご注意

- インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。
- Windows 2000/XPの場合は、管理者 (Administrators) でログインしてから、インストールを行ってください。

Windows 95/98/Me/2000/XPの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstPCSU]アイコンをダブルクリックする。

2

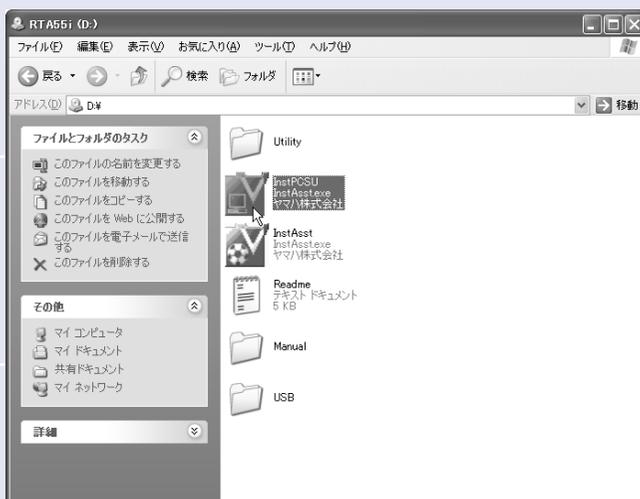
画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了]をクリックする。

これで、「RTA55iパソコンセットアップ」のインストールは完了です。



RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstAsst] アイコンをダブルクリックする。

2

画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了] をクリックする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



MacOSの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属のCD-ROMからRTA55iパソコンセットアップを直接起動できるため、パソコンへのインストール作業は不要です。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」をインストールします。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTAssist」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ]フォルダ内の[RTAssist]フォルダをハードディスクにコピーする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



準備5

パソコンの ネットワーク 設定を 変更する

LANケーブルで接続したパソコンからインターネットに接続するには、まずパソコンのネットワーク設定を変更する必要があります。インストールした「RTA55iパソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。USBケーブルで接続する場合は、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 USB接続機能を活用する」(69ページ)をご覧ください。複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで同様に設定を行ってください。

ご注意

- 以下の説明は、Windows 95/98/Me/2000/XPおよびMacOS8.1以降(Mac OS Xを除く)の環境で、RTA55iパソコンセットアップを使って設定するためのものです。上記以外の環境でお使いの場合は、同等の設定を手動で行ってください(194ページ)。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前に、LANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- 設定を始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるため、作業中のデータが消失することがあります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RTA55iパソコンセットアップが正しく動作しないことがあります。その場合は、手動でネットワークの設定を変更してください(194ページ)。

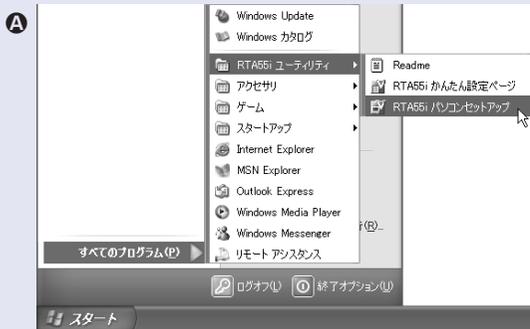
ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1

RTA55iパソコンセットアップを起動する。

㊤Windows95/98/Me/2000/XPの場合

[スタート] ボタンをクリックして、[プログラム] - [RTA55iユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ] をクリックする。



㊦Macintoshの場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ]フォルダ内の、[パソコンセットアップ]アイコンをダブルクリックする。



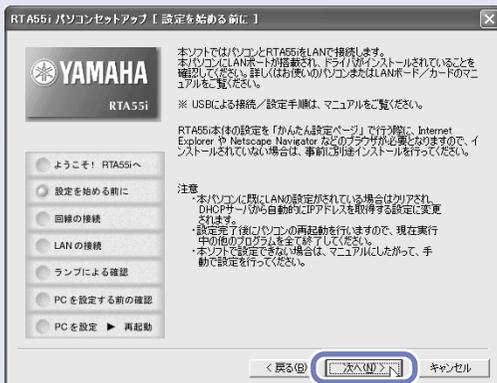
2

[次へ] をクリックする。



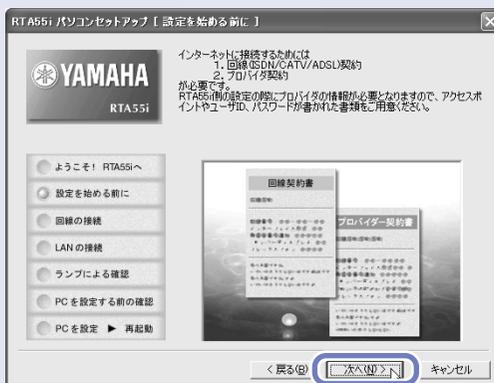
3

メッセージの内容を確認してから、[次へ] をクリックする。



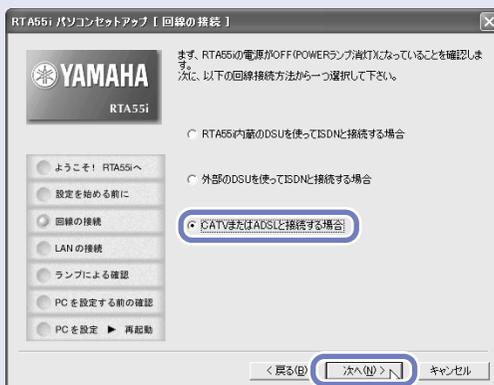
4

プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認してから、[次へ]をクリックする。



5

[CATVまたはADSLと接続する場合]を選んでから、[次へ]をクリックする。



6

接続した回線の種類と、本機后面のスイッチの設定を確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備1 ルータにCATV回線を接続する」(20ページ)をご覧ください。



次のページにつづく→

7

本機のLANポートにLANケーブルが接続されていることを確認してから、**[次へ]**をクリックする。

問題がある場合は**[キャンセル]**をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備3 ルータにパソコンを接続する」(24ページ)をご覧ください。



8

本機の電源やランプの表示を確認してから、**[次へ]**をクリックする。

問題がある場合は**[キャンセル]**をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。

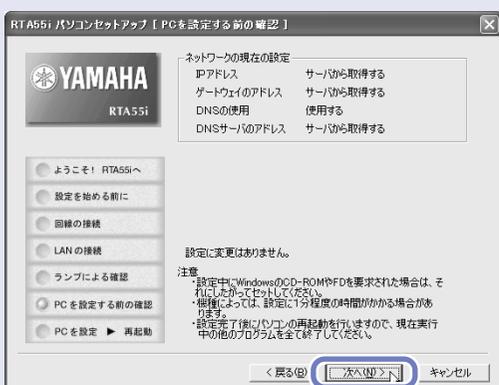


9

設定内容を確認してから、**[次へ]**をクリックする。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンの環境によっては、OS(Windows、MacOS)のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

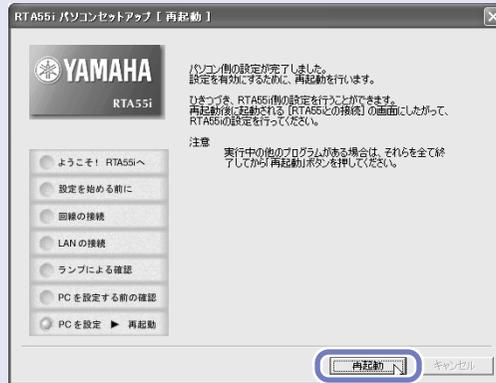
お使いのパソコンの環境によっては、ネットワーク設定の完了後に再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。



10

再起動のメッセージが表示された場合は、**[再起動]**をクリックする。

パソコンが再起動します。



11

「RTA55iと接続」画面が表示されたら、**[開く]**をクリックする。

Webブラウザが自動的に起動して、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されたら、パソコンの設定は完了です。他のパソコンも同様に設定してください。



2台目以降のパソコンを設定している場合は「RTA55iと接続」が表示されたら、**[中止]**をクリックします。

インターネット に接続する

本機の「かんたん設定ページ」画面で端末型ダイヤルアップの接続先を設定して、インターネットに接続します。

設定する前に

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは「活用マニュアル」(別冊)の「第7章 ファイアウォール機能を使う」(114ページ)をご覧ください。

プロバイダの設定資料を用意してください

設定するには、CATV業者から通知される以下の情報が必要です。

- ネームサーバアドレス (DNSサーバアドレス)
- IPアドレス
- ネットマスク
- デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を変更するには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使用します(お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます)。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

Windows95/98/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降(6.0以降を除く)のWebブラウザが必要です。Windows95以降にはInternet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。

ご注意

お使いのWindows95のバージョンによっては、インストールされているWebブラウザがInternet Explorer 3.0の場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

MacOSの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降(6.0を除く)のWebブラウザが必要です。MacOS8.1以降には、Internet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

設定する

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。RTA55iパソコンセットアップで引き続き設定する場合は、手順4から始めてください。

1

本機の電源が入っていることを確認する。

2

パソコンでWebブラウザを起動して、[ファイル]メニューから[開く]を選ぶ。

3

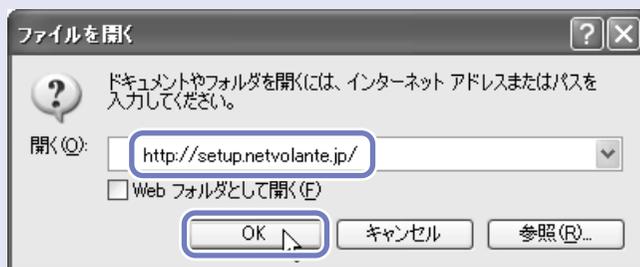
「<http://setup.netvolante.jp/>」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。

初めて開いたときは、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。2度目以降は、手順5へ進んでください。

ヒント

「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されないときは、本機とパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。



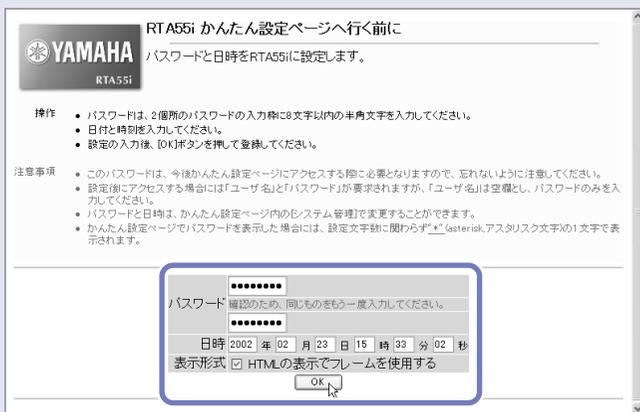
4

本機の管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定してから[OK]をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。

管理パスワードは半角英数字8文字までで、好みに合わせて決めてください(例:RTA55i00、yamaha55など)。

ご注意

管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。



次のページにつづく→

5

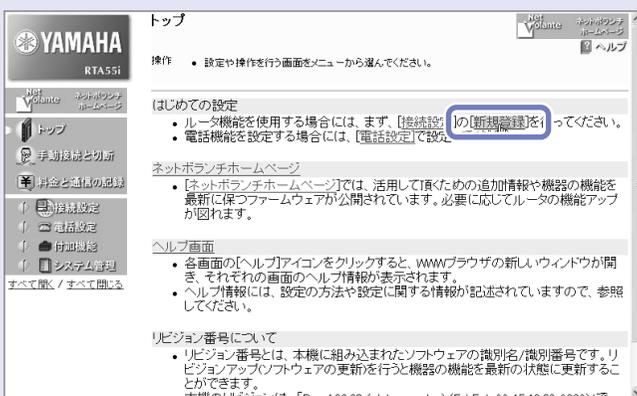
[ユーザー名] 欄を空欄にしたまま、[パスワード] 欄にルータの管理パスワードを入力して、[OK] をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。



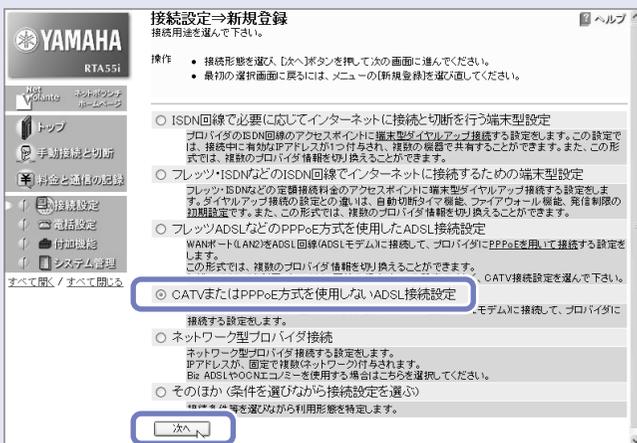
6

[新規登録] をクリックする。



7

[CATVまたはPPPoE方式を使用しないADSL接続設定] を選んでから、[次へ] をクリックする。



8

CATV業者の設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

プロバイダ名

接続先がわかるような名前を入力します。

WANポートのIPアドレス設定

WANポートに割り当てて、IPアドレスの取得方法を選びます。

- **自動で設定する:**自動取得する場合があります。
- **手動で設定する:**CATV業者から、IPアドレスが指定されている場合を選びます。

IPアドレス設定

IPアドレスがCATV業者から指定されている場合に入力します。

ネットマスク

ネットマスクがCATV業者から指定されている場合に入力します。

デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

デフォルト・ゲートウェイ・アドレスがCATV業者から指定されている場合に入力します。

ご注意

本機の工場出荷状態では、LAN側のネットワークアドレスとして「192.168.0.0/24」を使用します。WAN側とLAN側のネットワークアドレスが同じ場合は、本機のIPアドレスを変更して、LAN側のネットワークアドレスを変更してください。詳しくは別冊の「活用マニュアル」の「本機のIPアドレスを変更する」(134ページ)をご覧ください。



接続設定⇒新規登録⇒イーサネット(WANポート)によるプロバイダ接続
 操作 ● 設定する場合は、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

プロバイダ情報	
プロバイダ名	CATV 半角32文字以内
WANポートのIPアドレス設定	
<input checked="" type="radio"/> 自動で設定する(DHCPクライアントを使用する)	
DHCPクライアントの識別名	(省略可能)
<input type="radio"/> 手動で設定する	
IPアドレス	00.00.00.00 IPアドレス半角入力
ネットマスク	255.255.255.0 (24ビット) マスクビット数
デフォルト・ゲートウェイ・アドレス	00.00.00.00 IPアドレス半角入力
DNS関連	
DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する
プライマリDNSサーバアドレス	00.00.00.00 指定する場合半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	00.00.00.00 (省略可能)
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="既定値に戻す"/>	

DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合を選びます。
- **接続時に自動取得する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合を選びます。

プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

セカンダリDNSサーバアドレス

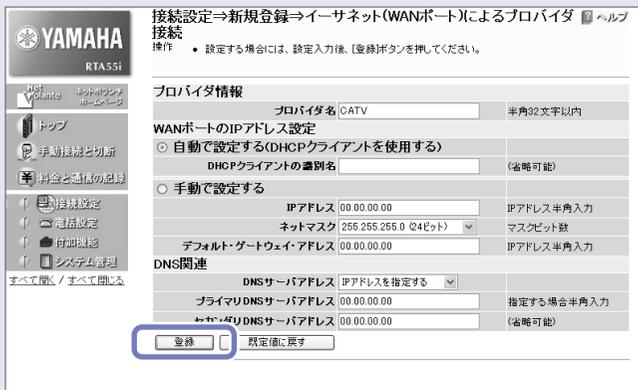
DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

次のページにつづく→

9

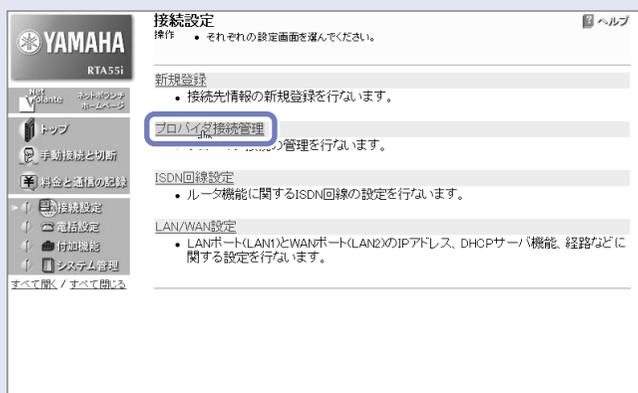
入力が終わったら、[登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。



10

[プロバイダ接続管理]をクリックする。



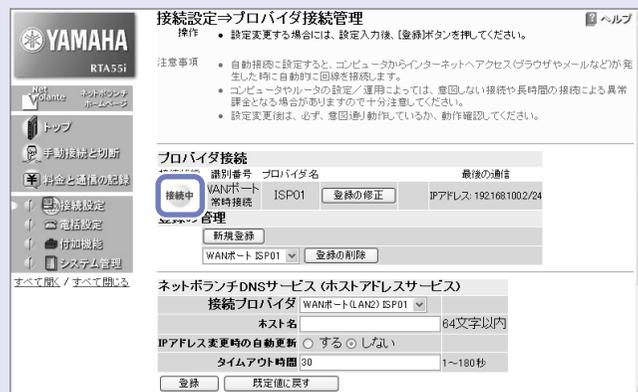
11

左側に「接続中」が表示されていることを確認する。

左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。インターネットへ接続中は、本機のWANランプが点滅します。

🔗 接続できない場合は

手順8で設定した、[WANポートのIPアドレス設定] (39ページ)の[IPアドレス]や[ネットマスク]の設定が間違っている可能性があります。[登録の修正]をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しなが設定内容を確認してください。



12

画面左上の「ネットボランチホームページ」をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は正しく行われています。

表示されない場合は

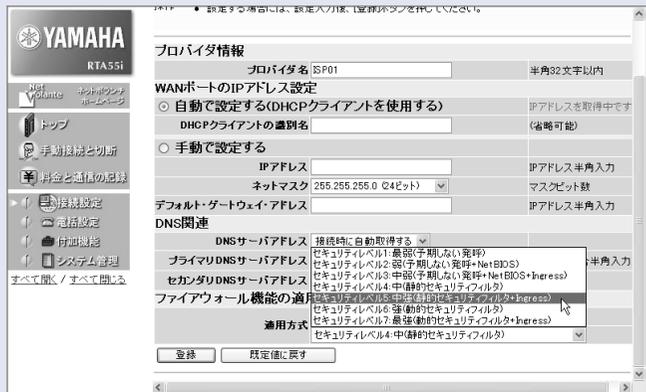
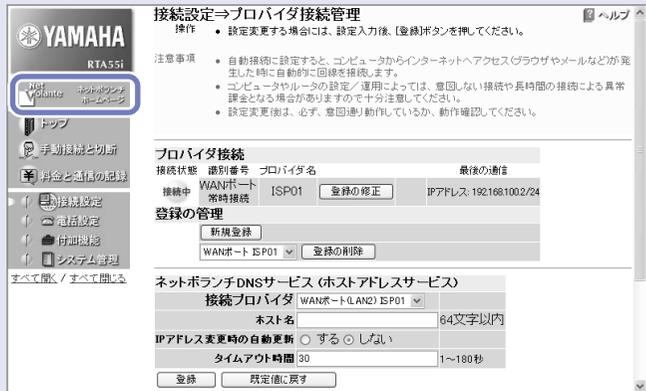
DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。

「登録の修正」をクリックして、設定内容をもう1度確認してください。

また、本機のファイアウォール機能によって接続が制限されている場合もありますので、「登録の修正」をクリックして、「ファイアウォール機能の適用」欄でセキュリティレベルを変更してください。

これでインターネットへの接続設定は終了しました!

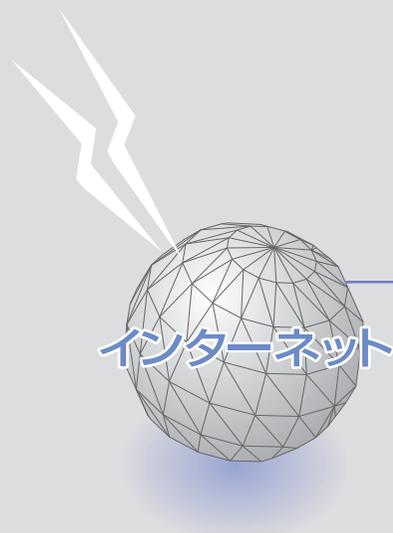
本機はLAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると、自動的にインターネットへ接続します。



第3章

ADSL

接続する



ADSL接続は、一般回線の銅線を使い、ADSL業者のネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。

PPPoE方式を使用したADSL接続の場合は、「第4章 フレッツ・ADSL接続する」(69ページ)をご覧ください。

CATV

通常ADSL接続
フレッツ・ADSL接続

ADSL

Bフレッツ接続

OPTICAL

タイムシェアリング接続
フレッツ・ISDN接続

ISDN

ADSL接続とは?

ADSL接続は、一般回線の銅線を使い、ADSL業者のネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していて、以下の条件を満たしていれば利用できます。

ご注意

- 本機に接続するスプリッタやADSLモデムを、別途ご用意いただく必要があります。詳しくはADSL接続対応プロバイダにお問い合わせください。
- ADSLの特性上、お住まいの地域によってはADSL接続が利用できない場合があります。詳しくはADSL接続対応プロバイダにお問い合わせください。
- ADSLでインターネットに接続する場合、本機をADSLの一般回線に直接接続することはできません。必ずADSLモデムに接続してください。

必要な条件

- お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していること。
- 電話局からお宅までの配線が、ADSL接続に対応していること（ADSL接続の可否は、プロバイダにご確認ください）。
- LAN接続のADSLモデムが使えること（USB接続のADSLモデムは不可）。
- プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

必要な契約

- 一般回線契約（45ページ）
- 「ADSL接続（LAN接続タイプ）」契約（ADSL接続対応のプロバイダと契約）

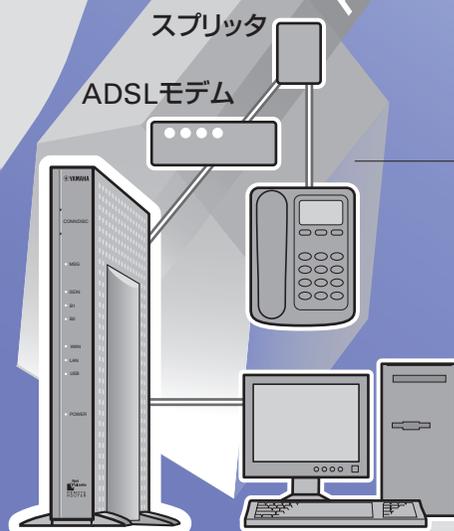
設定を行うためには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です

契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- ユーザID（アカウント名）*
- パスワード*

ご注意

*印のついている項目は、本機ではなく、本機と組み合わせて使用するADSLモデム側に設定してください。
詳しくは、プロバイダから支給された資料、またはお使いのADSLモデムの取扱説明書をご覧ください。



回線契約についてのご注意

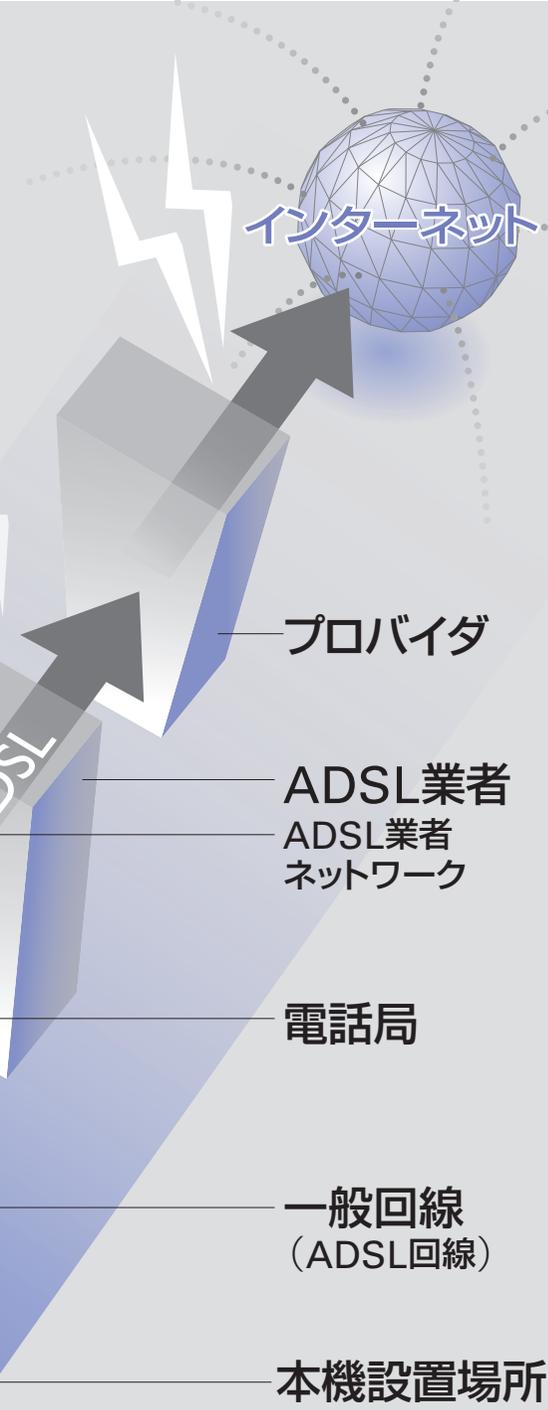
ADSL接続をする場合は、**一般回線（アナログ回線）が必要です。**

一般回線をお使いの場合は、そのまま利用できます。すでにISDN回線をお使いの場合は、一般回線に戻すか、または一般回線を別途増設する必要があります。

また回線環境によっては、ADSL接続が利用できない場合もあります。利用の可否については、ADSL接続対応プロバイダにご相談の上、回線環境をご確認ください。

ご注意

一般回線の場合は、絶対に本機のUポートやTELポートへ回線を接続しないでください。一般回線では、本機のTELポートや電話機能を使用することはできません。



インターネット

プロバイダ

ADSL業者
ADSL業者
ネットワーク

電話局

一般回線
(ADSL回線)

本機設置場所

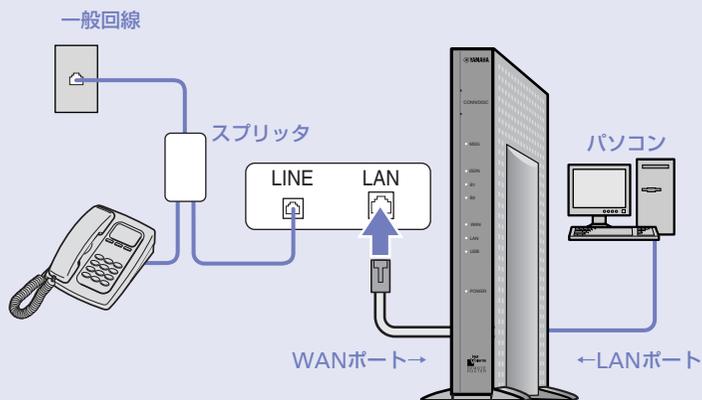
準備1

ルータに
ADSL回線
を接続する

ADSLで接続する場合は、本機のWANポートに以下の方法でADSLモデムを接続します。ADSLモデムの設置は、ご自分で設置する場合と、業者が行う場合があります。各業者の指示に従って設置してください。

ご注意

ADSLでインターネットに接続する場合、本機をADSL用の一般回線に直接接続することはできません。必ず、ADSLモデム(ADSL回線)に接続してください。



接続する

必要なもの

LANケーブル:本機のWANポートとADSLモデムを接続します。
ADSLモデムの種類に合わせて、ストレートタイプまたはクロスタイプのLANケーブルをご用意ください(ADSLモデムに付属している場合もあります)。

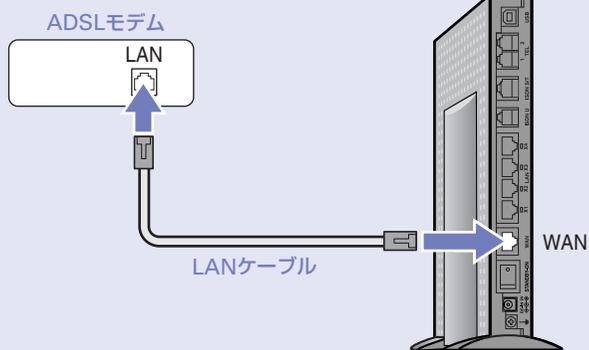
ご注意

ADSLモデムとパソコンをストレートケーブルで接続するように指定されている場合は、ADSLモデムと本機のWANポートもストレートケーブルで接続します。逆に、ADSLモデムとパソコンをクロスケーブルで接続するように指示されている場合は、クロスケーブルで本機と接続してください。

ADSLモデムのLANポートと、本機のWANポートをLANケーブルで接続する。

ご注意

ISDN回線を別途接続しない場合は、TELポート間の内線通話や本機のインターネット電話機能以外で、TELポートにアナログ機器(電話機、FAX、モデムなど)を接続して使うことはできません。



準備 2

電源を
接続する

アースコードを接続してから、付属のACアダプタ (P9V1.1A) をコンセントに接続します。

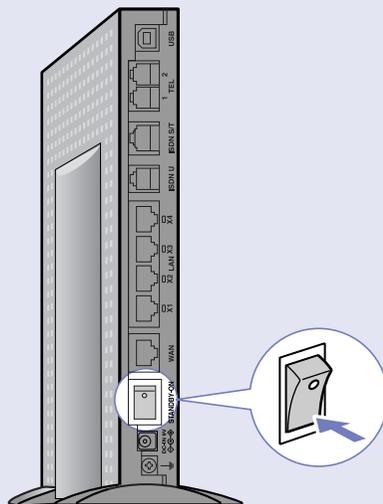
ご注意

- ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

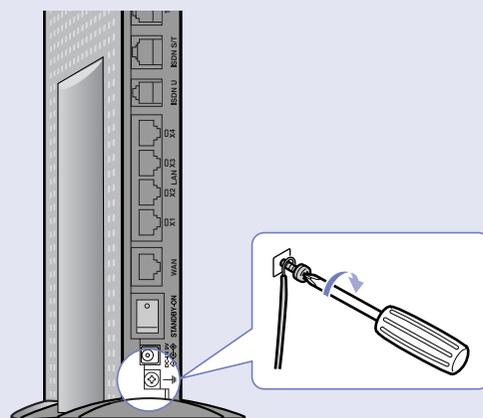
必要なもの

- **アースコード**: 設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。
- **ACアダプタ**: 本機に付属のACアダプタ (P9V1.1A) をご使用ください。

1
STANDBY-ON (電源) スイッチが「STANDBY」(スタンバイ)になっていることを確かめる。

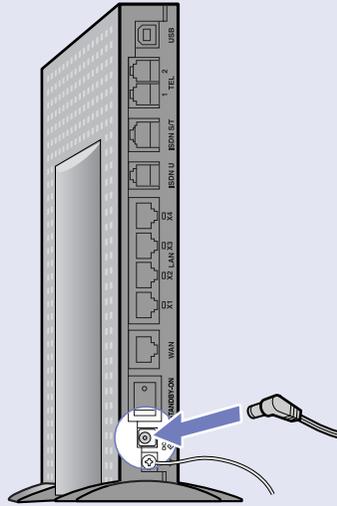


2
アース端子のネジを ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。



3

付属のACアダプタ (P9V1.1A) のコネクタを本機の電源コネクタに接続する。

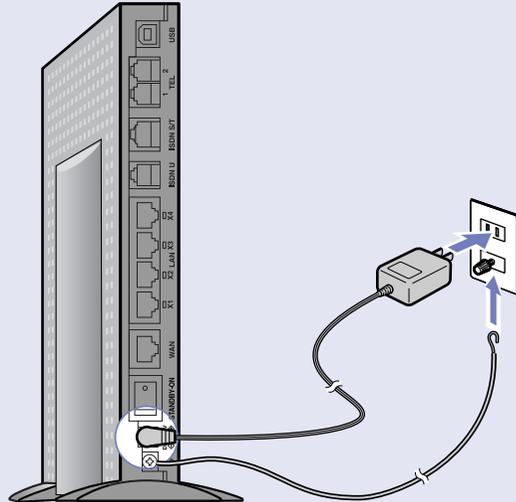


4

アースコードをアース端子へ、付属のACアダプタをコンセントに接続する。

ACアダプタを取りはずす際は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

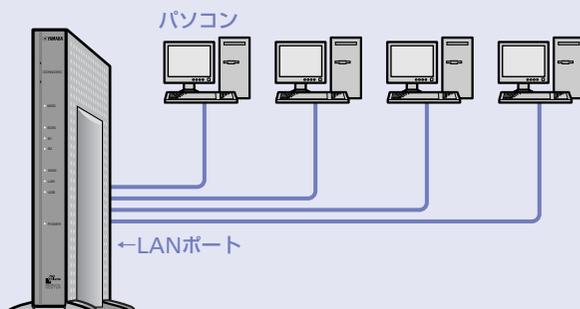


準備 3

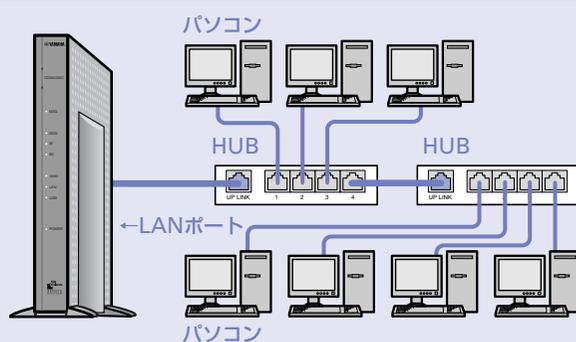
ルータに
パソコンを
接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに追加したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

4台までのパソコンを接続する場合の例



5台以上のパソコンを接続する場合の例



ご注意

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

- 本機のDHCP機能:OFF
- 本機のIPアドレス:指定されたIPアドレスに設定するか、またはDHCPクライアントとして設定する。

必要なもの

- LANケーブル:パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T/100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。本機にはストレートタイプのケーブル(3m)が1本付属しています。
- HUB:5台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた、10BASE-T/100BASE-TX対応のHUB(またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

1

本機の電源を切る。

2

パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

A パソコンを本機に直接接続する例

本機のLANポートに接続します。

B 5台以上のパソコンを接続する例

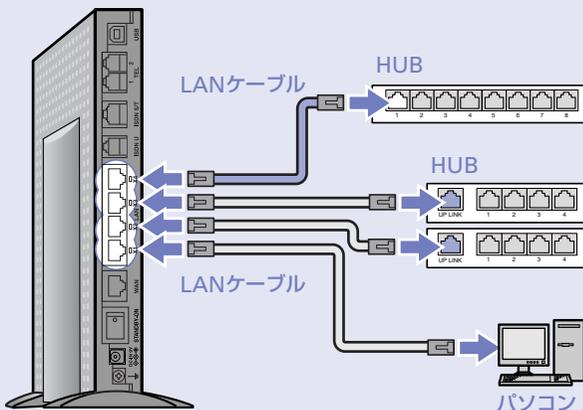
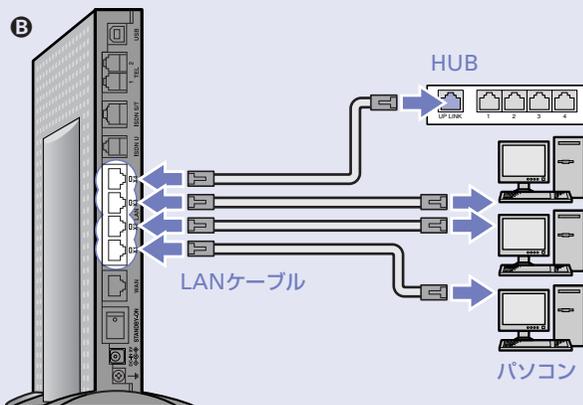
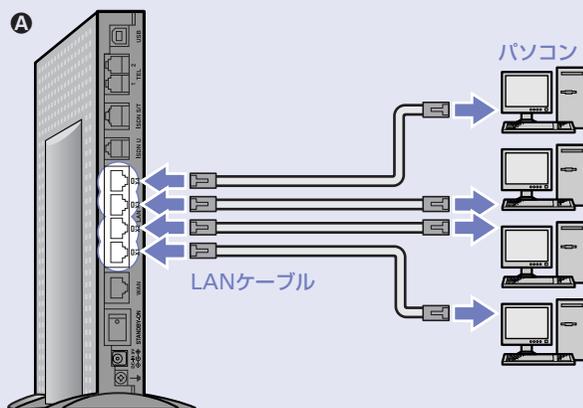
HUBの場合は、UPLINK(カスケード)ポートを接続します。

HUBにUPLINK(カスケード)ポートがない場合やUPLINKポートが空いていない場合は

HUBのポートと本機のLANポートを、市販のLANケーブルで接続してください。

ご注意

HUBは10BASE-Tの場合4段(階層)まで、10/100BASE-TX混在の場合2段(階層)までしかUPLINK(カスケード)接続できません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

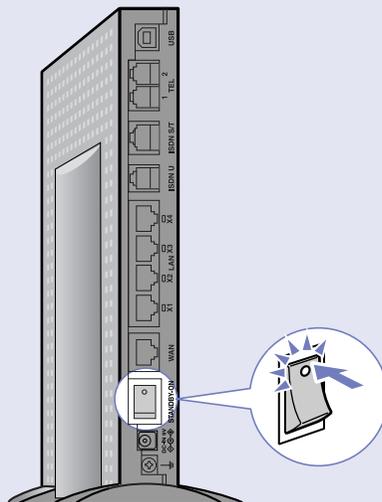


次のページにつづく→

3

本機の電源を入れる。

ランプが何回か点滅した後、POWERランプが点灯します。



4

パソコンやHUBの電源を入れ、本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅することを確認する。

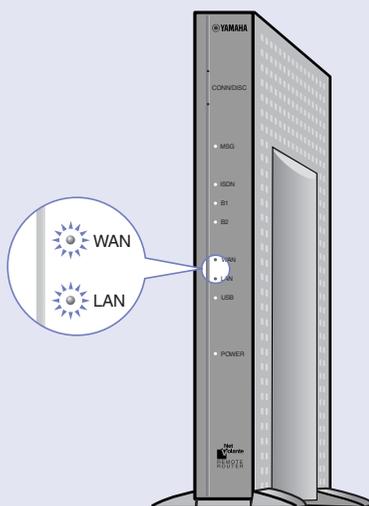
本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

ご注意

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は、「準備4 パソコンに付属ソフトウェアをインストールする」(次ページ)および「準備5 パソコンのネットワーク設定を変更する」(57ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。



準備 4

パソコンに
付属ソフト
ウェアを
インストール
する

本機には、パソコン側で本機に必要な設定をまとめて行ったり、パソコンから本機のインターネット接続／切断の操作をパソコンから行うために、以下のソフトウェアが付属CD-ROMに収録されています。

- RTA55i/パソコンセットアップ:パソコンのネットワーク機能を設定します。
- RTAssist:パソコンから本機のインターネット接続／切断を操作します。

これらのソフトウェアは簡単に設定や操作を行うためのものであり、本機を使用する上で必須のものではありません。ただし、本書ではこれらのソフトウェアを使って、パソコンの設定の方法を説明しています。ネットワーク機器の操作や設定に慣れていない方は、次ページ以降の説明にしたがって、設定操作の前にこれらのソフトウェアをインストールすることをおすすめいたします。



Windows95/98/
Me/2000/XPの場合

……54ページ



MacOSの場合

……56ページ

ご注意

- インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。
- Windows 2000/XPの場合は、管理者 (Administrators) でログインしてから、インストールを行ってください。

Windows 95/98/Me/2000/XPの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1
付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstPCSU] アイコンをダブルクリックする。

2
画面の指示に従って操作する。
ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3
インストールが終わったら、[完了]をクリックする。
これで、「RTA55iパソコンセットアップ」のインストールは完了です。



RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstAsst] アイコンをダブルクリックする。

2

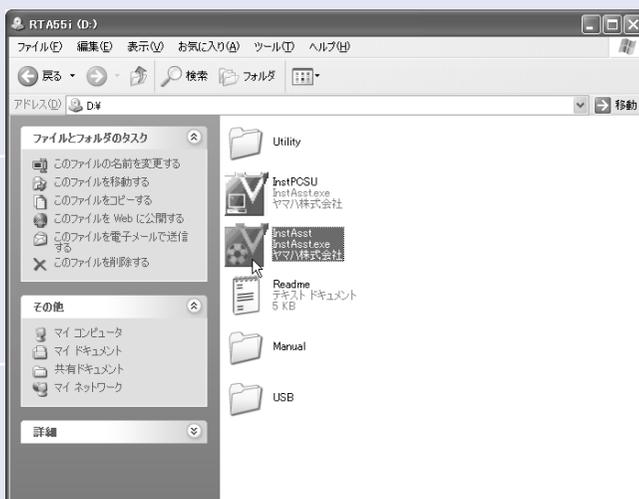
画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了] をクリックする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



MacOSの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属のCD-ROMからRTA55iパソコンセットアップを直接起動できるため、パソコンへのインストール作業は不要です。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」をインストールします。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTAssist」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ]フォルダ内の[RTAssist]フォルダをハードディスクにコピーする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



準備5

パソコンの ネットワーク 設定を 変更する

LANケーブルで接続したパソコンからインターネットに接続するには、まずパソコンのネットワーク設定を変更する必要があります。インストールした「RTA55iパソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。USBケーブルで接続する場合は、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 USB接続機能を活用する」(69ページ)をご覧ください。複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで同様に設定を行ってください。

ご注意

- 以下の説明は、Windows 95/98/Me/2000/XPおよびMacOS8.1以降(Mac OS Xを除く)の環境で、RTA55iパソコンセットアップを使って設定するためのものです。上記以外の環境でお使いの場合は、同等の設定を手動で行ってください(194ページ)。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前に、LANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- 設定を始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるため、作業中のデータが消失することがあります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RTA55iパソコンセットアップが正しく動作しないことがあります。その場合は、手動でネットワークの設定を変更してください(194ページ)。

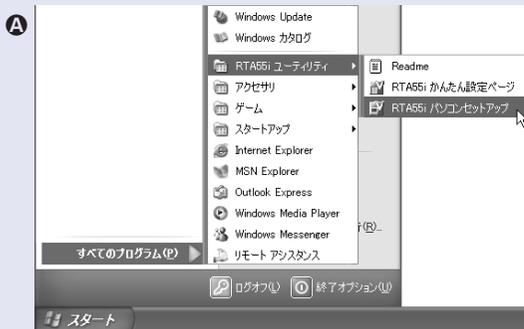
ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1

RTA55iパソコンセットアップを起動する。

㊤Windows95/98/Me/2000/XPの場合

[スタート] ボタンをクリックして、[プログラム] - [RTA55iユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ] をクリックする。



㊦Macintoshの場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ] フォルダ内の、[パソコンセットアップ] アイコンをダブルクリックする。



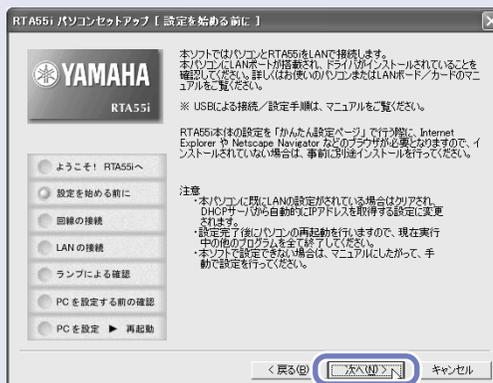
2

[次へ] をクリックする。



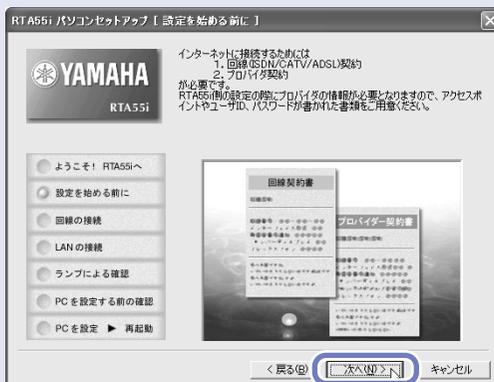
3

メッセージの内容を確認してから、[次へ] をクリックする。



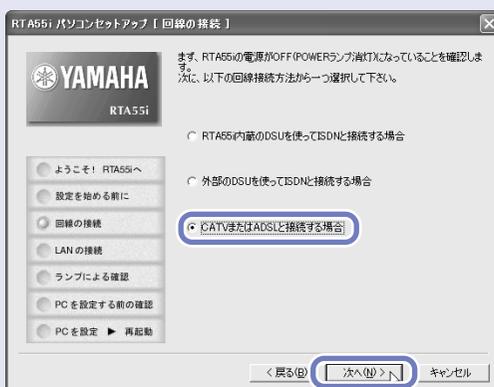
4

プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認してから、「次へ」をクリックする。



5

[CATVまたはADSLと接続する場合]を選んでから、「次へ」をクリックする。



6

接続した回線の種類と、本機後面のスイッチの設定を確認してから、「次へ」をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備1 ルータにADSL回線を接続する」(46ページ)をご覧ください。



次のページにつづく→

7

本機のLANポートにLANケーブルが接続されていることを確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備3 ルータにパソコンを接続する」(50ページ)をご覧ください。



8

本機の電源やランプの表示を確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。

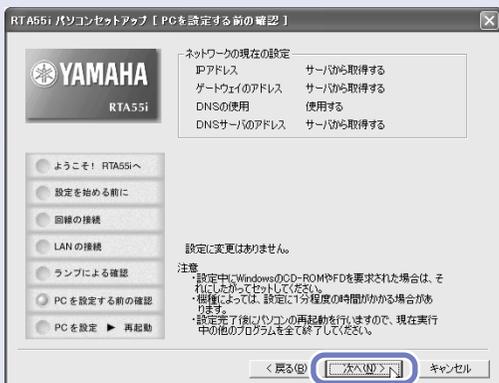


9

設定内容を確認してから、[次へ]をクリックする。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンの環境によっては、OS(Windows、MacOS)のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

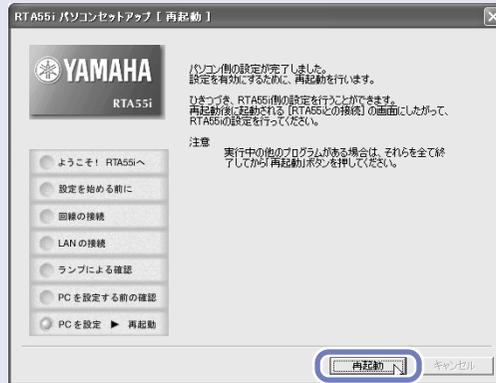
お使いのパソコンの環境によっては、ネットワーク設定の完了後に再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。



10

再起動のメッセージが表示された場合は、**[再起動]**をクリックする。

パソコンが再起動します。



11

「RTA55iと接続」画面が表示されたら、**[開く]**をクリックする。

Webブラウザが自動的に起動して、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されたら、パソコンの設定は完了です。他のパソコンも同様に設定してください。



2台目以降のパソコンを設定している場合は「RTA55iと接続」が表示されたら、**[中止]**をクリックします。

インターネット に接続する

本機の「かんたん設定ページ」画面で端末型ダイヤルアップの接続先を設定して、インターネットに接続します。

設定する前に

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは「活用マニュアル」(別冊)の「第7章 ファイアウォール機能を使う」(114ページ)をご覧ください。
- 使用するADSLモデムのIPアドレスが192.168.0.1/24に設定されている場合は、以下の設定を始める前に、本機のIPアドレスを変更(例:192.168.1.1など)する必要があります。本機のIPアドレスを変更する手順について詳しくは、「活用マニュアル」(別冊)の「本機のIPアドレスを変更する」(134ページ)をご覧ください。

プロバイダの設定資料を用意してください

設定するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。

- ネームサーバアドレス(DNSサーバアドレス)
- ユーザID(アカウント名)
- パスワード

ご注意

ユーザIDとパスワードは、お使いのADSLモデムの取扱説明書などをご覧になり、ADSLモデムに設定してください。

Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を変更するには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使用します(お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます)。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

Windows95/98/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降(6.0以降を除く)のWebブラウザが必要です。Windows95以降にはInternet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。

ご注意

お使いのWindows95のバージョンによっては、インストールされているWebブラウザがInternet Explorer 3.0の場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

MacOSの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降(6.0を除く)のWebブラウザが必要です。MacOS8.1以降には、Internet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

設定する

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。RTA55iパソコンセットアップで引き続き設定する場合は、手順4から始めてください。

1

本機の電源が入っていることを確認する。

2

パソコンでWebブラウザを起動して、[ファイル]メニューから[開く]を選ぶ。

3

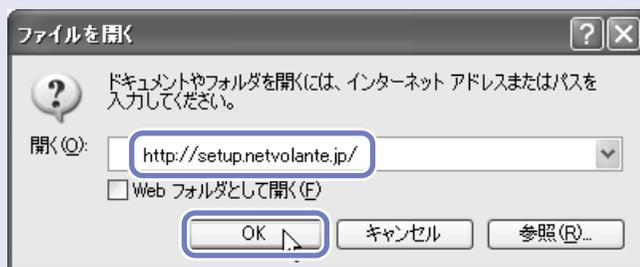
「<http://setup.netvolante.jp/>」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。

初めて開いたときは、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。2回目以降は、手順5へ進んでください。

ヒント

「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されないときは、本機とパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。



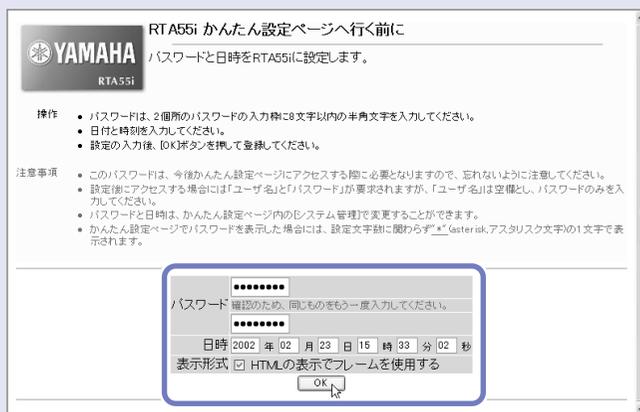
4

本機の管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定してから[OK]をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。

管理パスワードは半角英数字8文字までで、好みに合わせて決めてください
(例: RTA55i00、yamaha55など)。

ご注意

管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。



次のページにつづく→

5

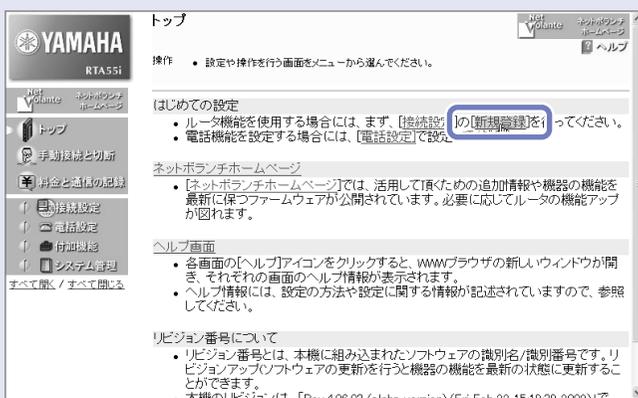
[ユーザー名] 欄を空欄にしたまま、
[パスワード] 欄にルータの管理パ
スワードを入力して、[OK] をクリッ
クする。

「トップ」画面が表示されます。



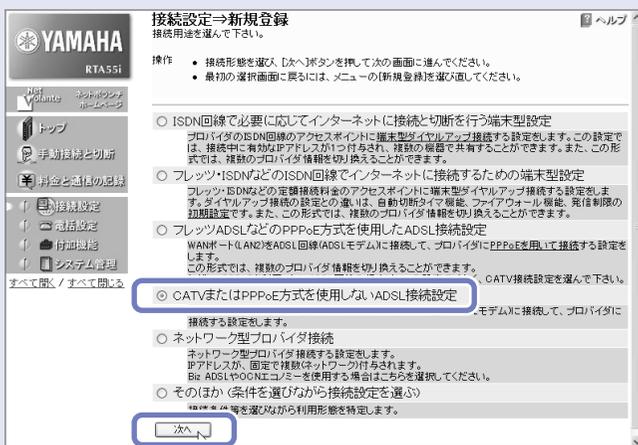
6

[新規登録] をクリックする。



7

[CATVまたはPPPoE方式を使用
しないADSL接続設定] を選んでか
ら、[次へ] をクリックする。



8

プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

プロバイダ名

接続先がわかるような名前を入力します。

WANポートのIPアドレス設定

WANポートに割り当てて、IPアドレスの取得方法を選びます。

- **自動で設定する:**自動取得する場合に選びます。
- **手動で設定する:**プロバイダから、IPアドレスが指定されている場合に選びます。

IPアドレス設定

IPアドレスがプロバイダから指定されている場合に入力します。

ネットマスク

ネットマスクがプロバイダから指定されている場合に入力します。

デフォルト・ゲートウェイ・アドレス

デフォルト・ゲートウェイ・アドレスがプロバイダから指定されている場合に、入力します。



接続設定⇒新規登録⇒イーサネット(WANポート)によるプロバイダヘルプ接続
 ● 設定する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

プロバイダ情報	
プロバイダ名	ADSL 半角32文字以内
WANポートのIPアドレス設定	
<input type="radio"/> 自動で設定する(DHCPクライアントを使用する)	
DHCPクライアントの識別名	(省略可能)
<input type="radio"/> 手動で設定する	
IPアドレス	00.00.00.00 IPアドレス半角入力
ネットマスク	255.255.255.0 (24ビット) マスクビット数
デフォルト・ゲートウェイ・アドレス	00.00.00.00 IPアドレス半角入力
DNS関連	
DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する
プライマリDNSサーバアドレス	00.00.00.00 指定する場合半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	00.00.00.00 (省略可能)
<input type="button" value="登録"/> <input type="button" value="既定値に戻す"/>	

DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選びます。
- **接続時に自動取得する:**プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合に選びます。

プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

セカンダリDNSサーバアドレス

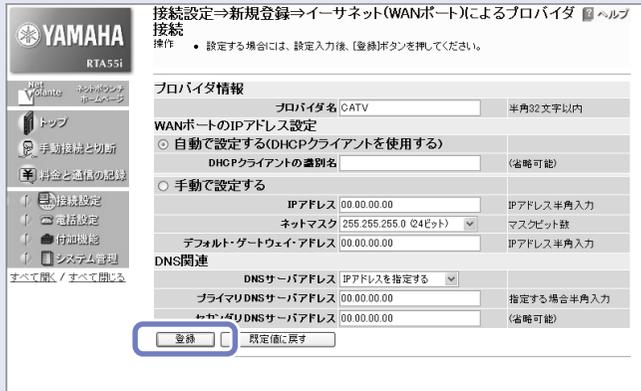
DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

次のページにつづく→

9

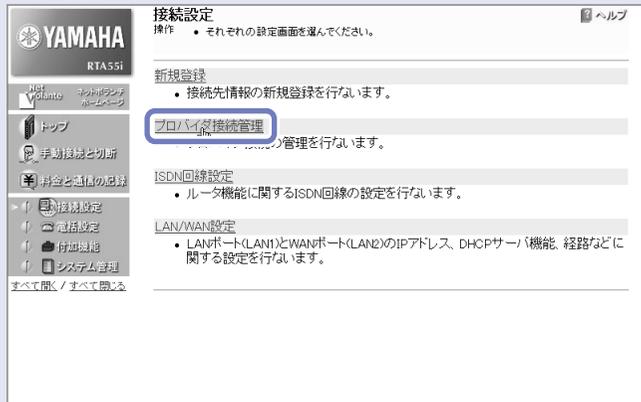
入力が終わったら、「登録」をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。



10

「プロバイダ接続管理」をクリックする。



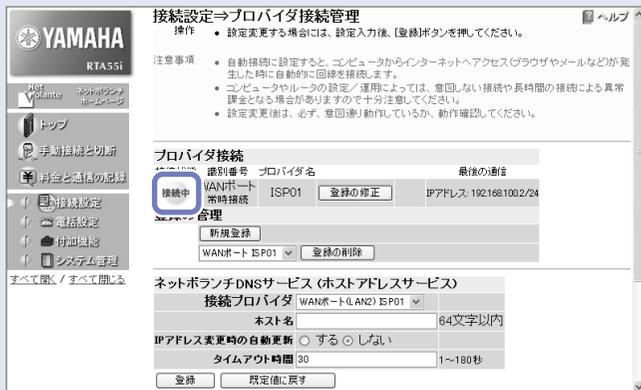
11

左側に「接続中」が表示されていることを確認する。

左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。インターネットへ接続中は、本機のWANランプが点滅します。

🔗 接続できない場合は

手順8で設定した、[WANポートのIPアドレス設定] (65ページ)の[IPアドレス]や[ネットマスク]の設定が間違っている可能性があります。[登録の修正]をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直ししながら設定内容を確認してください。



12

画面左上の「ネットボランチホームページ」をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は正しく行われています。

表示されない場合は

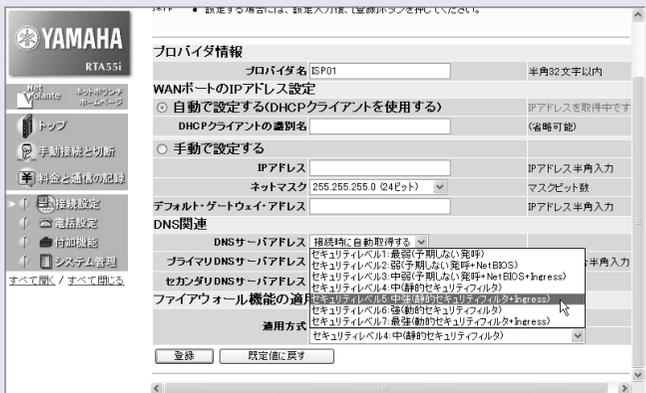
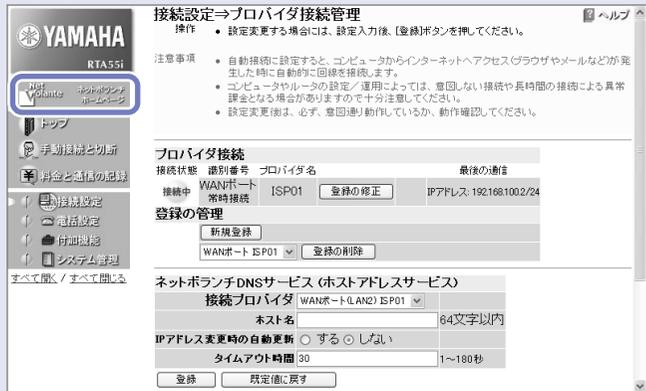
DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。

[登録の修正]をクリックして、設定内容をもう1度確認してください。

また、本機のファイアウォール機能によって接続が制限されている場合もありますので、[登録の修正]をクリックして、「ファイアウォール機能の適用」欄でセキュリティレベルを変更してください。

これでインターネットへの接続設定は終了しました!

本機はLAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると、自動的にインターネットへ接続します。



第 4 章

フレッツ・
ADSL
接続する

フレッツ・ADSL接続は、一般回線の銅線を使い、NTTのネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。PPPoE方式以外のADSL接続の場合は、「第3章 ADSL接続する」(43ページ)をご覧ください。

USBケーブルで本機とパソコンを接続して、ブロードバンドTA接続でインターネットに接続することもできます。詳しくは、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 USB接続機能を活用する」(69ページ)をご覧ください。

CATV

通常ADSL接続 フレッツ・ADSL接続

ADSL

Bフレッツ接続

OPTICAL

ダイヤルアップ接続 フレッツ・ISDN接続

ISDN

フレッツ・ADSL 接続とは?

フレッツ・ADSL接続は、一般回線の銅線を使い、NTTのネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していて、以下の条件を満たしていれば利用できます。

ご注意

- 本機に接続するスプリッタやADSLモデムを別途ご用意いただく必要があります。詳しくはNTTにお問い合わせください。
- ADSLの特性上、お住まいの地域によってはADSL接続が利用できない場合があります。詳しくはNTTにお問い合わせください。
- ADSLでインターネットに接続する場合、本機をADSLの一般回線に直接接続することはできません。必ずADSLモデムに接続してください。

必要な条件

- お住まいの地域の電話局がADSL接続に対応していること。
- 電話局からお宅までの配線が、ADSL接続に対応していること（ADSL接続の可否は、NTTにご確認ください）。
- LAN接続のADSLモデムが使えること（USB接続のADSLモデムは不可）。
- プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

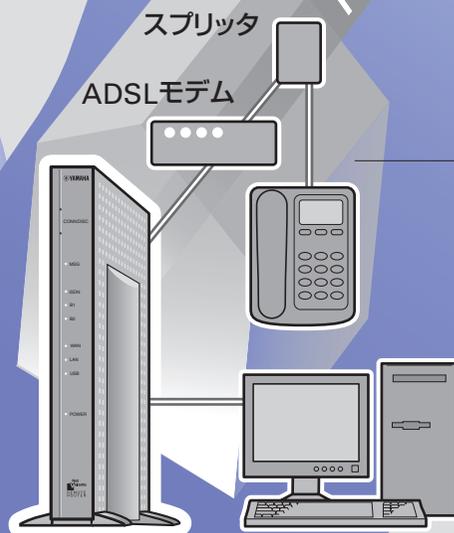
必要な契約

- 一般回線契約（71ページ）
- 「フレッツ・ADSL」契約（NTTと契約）
- 「フレッツ・ADSL接続（LAN接続タイプ）」契約（フレッツ・ADSL接続対応のプロバイダと契約）

設定を行うためには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です

契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- ユーザID
- パスワード



回線契約についてのご注意

ADSL接続をする場合は、一般回線（アナログ回線）が必要です。

一般回線をお使いの場合は、そのまま利用できます。すでにISDN回線をお使いの場合は、一般回線に戻すか、または一般回線を別途増設する必要があります。

また回線環境によっては、ADSL接続が利用できない場合もあります。利用の可否については、ADSL接続対応プロバイダにご相談の上、回線環境をご確認ください。

ご注意

一般回線の場合は、絶対に本機のUポートやTELポートへ回線を接続しないでください。一般回線では、本機のTELポートや電話機能を使用することはできません。

インターネット

プロバイダ

NTT
NTTネットワーク

電話局

一般回線
(フレッツ・ADSL回線)

本機設置場所

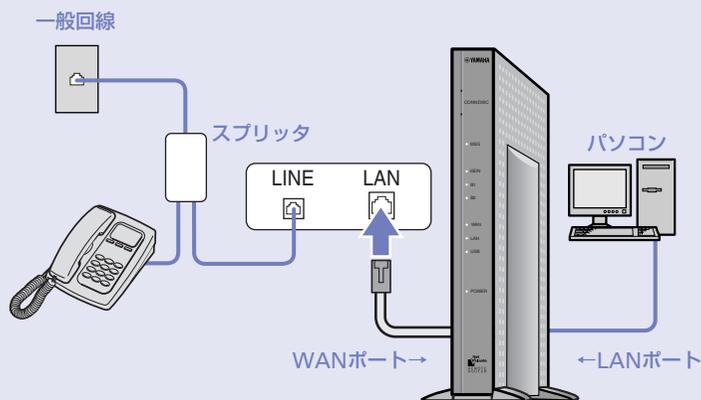
準備1

ルータに
ADSL回線
を接続する

ADSLで接続する場合は、本機のWANポートに以下の方法でADSLモデムを接続します。ADSLモデムの設置は、ご自分で設置する場合と、業者が行う場合があります。各業者の指示に従って設置してください。

ご注意

ADSLでインターネットに接続する場合、本機をADSL用の一般回線に直接接続することはできません。必ず、ADSLモデム(ADSL回線)に接続してください。



接続する

必要なもの

LANケーブル:本機のWANポートとADSLモデムを接続します。
ADSLモデムの種類に合わせて、ストレートタイプまたはクロスタイプのLANケーブルをご用意ください(ADSLモデムに付属している場合もあります)。

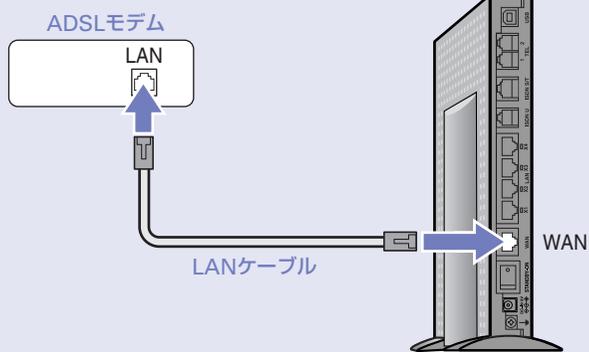
ご注意

ADSLモデムとパソコンをストレートケーブルで接続するように指定されている場合は、ADSLモデムと本機のWANポートもストレートケーブルで接続します。逆に、ADSLモデムとパソコンをクロスケーブルで接続するように指示されている場合は、クロスケーブルで本機と接続してください。

ADSLモデムのLANポートと、本機のWANポートをLANケーブルで接続する。

ご注意

ISDN回線を別途接続しない場合は、TELポート間の内線通話や本機のインターネット電話機能以外で、TELポートにアナログ機器(電話機、FAX、モデムなど)を接続して使うことはできません。



準備 2

電源を
接続する

アースコードを接続してから、付属のACアダプタ (P9V1.1A) をコンセントに接続します。

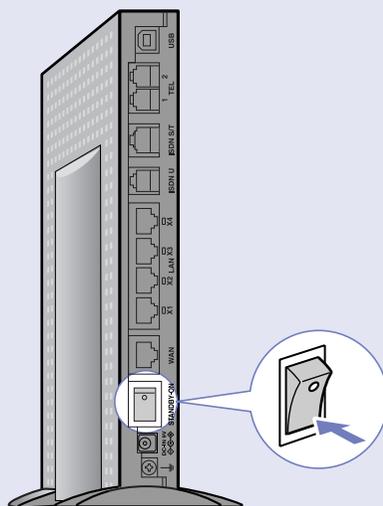
ご注意

- ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

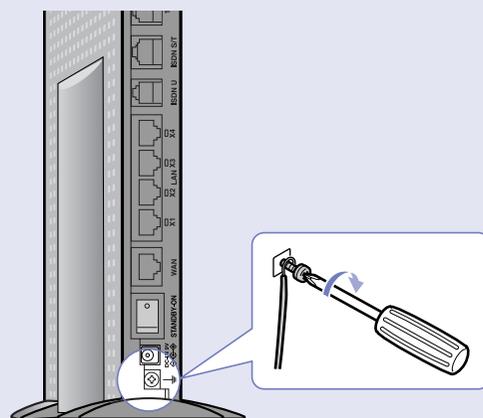
必要なもの

- **アースコード**: 設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。
- **ACアダプタ**: 本機に付属のACアダプタ (P9V1.1A) をご使用ください。

1
STANDBY-ON (電源) スイッチが「STANDBY」(スタンバイ) になっていることを確かめる。

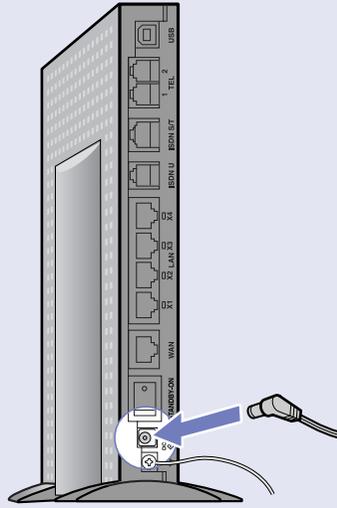


2
アース端子のネジを ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。



3

付属のACアダプタ (P9V1.1A) のコネクタを本機の電源コネクタに接続する。

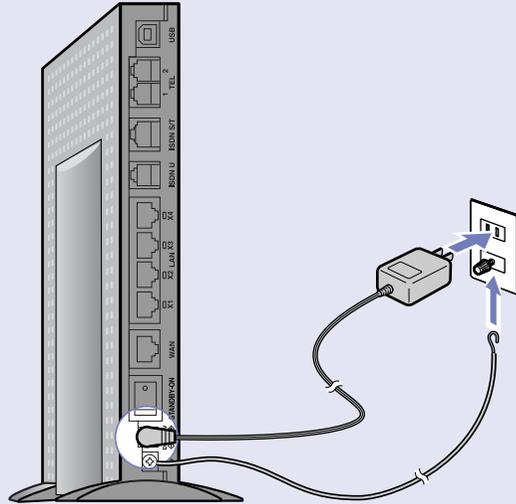


4

アースコードをアース端子へ、付属のACアダプタをコンセントに接続する。

ACアダプタを取りはずす際は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

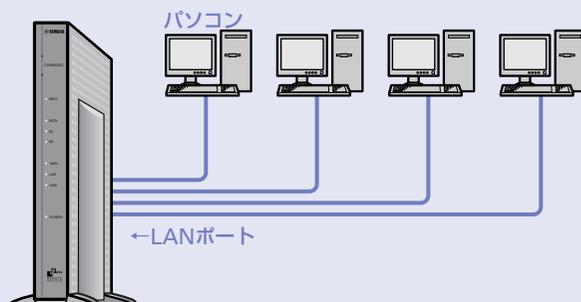


準備 3

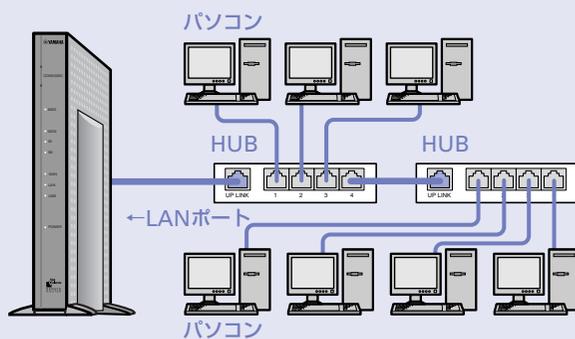
ルータに
パソコンを
接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに追加したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

4台までのパソコンを接続する場合の例



5台以上のパソコンを接続する場合の例



ご注意

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

- 本機のDHCP機能:OFF
- 本機のIPアドレス:指定されたIPアドレスに設定するか、またはDHCPクライアントとして設定する。

必要なもの

- LANケーブル:パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T/100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。本機にはストレートタイプのケーブル(3m)が1本付属しています。
- HUB:5台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた、10BASE-T/100BASE-TX対応のHUB(またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

1

本機の電源を切る。

2

パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

A パソコンを本機に直接接続する例

本機のLANポートに接続します。

B 5台以上のパソコンを接続する例

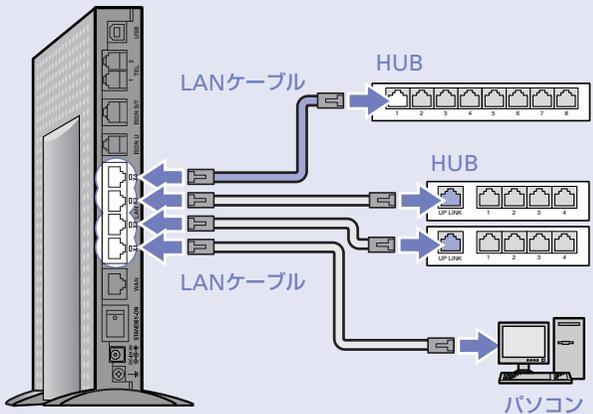
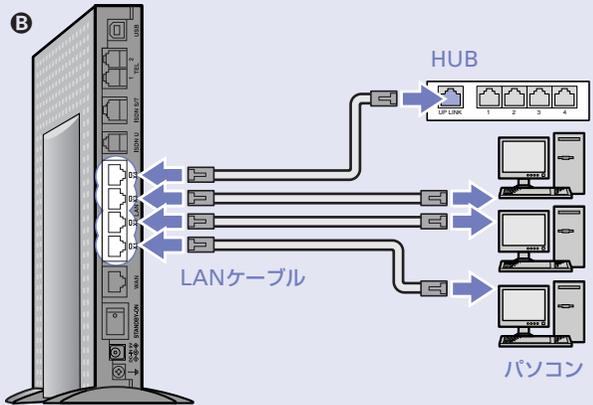
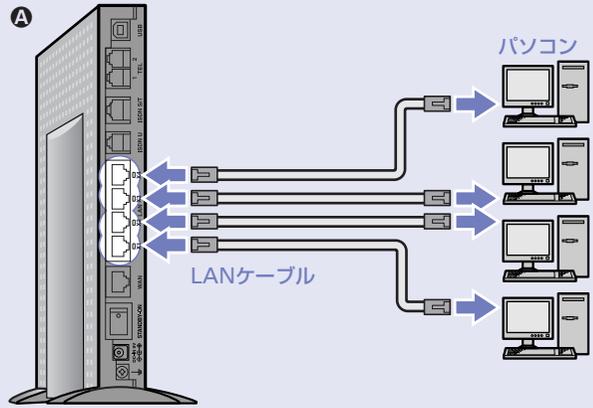
HUBの場合は、UPLINK(カスケード)ポートを接続します。

HUBにUPLINK(カスケード)ポートがない場合やUPLINKポートが空いていない場合は

HUBのポートと本機のLANポートを、市販のLANケーブルで接続してください。

ご注意

HUBは10BASE-Tの場合4段(階層)まで、10/100BASE-TX混在の場合2段(階層)までしかUPLINK(カスケード)接続できません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

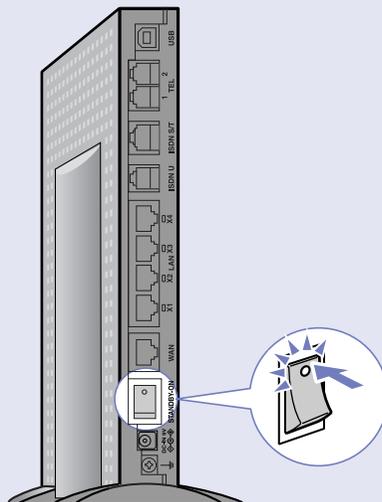


次のページにつづく→

3

本機の電源を入れる。

ランプが何回か点滅した後、POWERランプが点灯します。



4

パソコンやHUBの電源を入れ、本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅することを確認する。

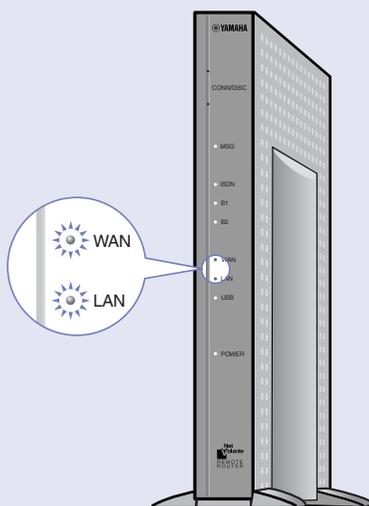
本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

ご注意

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は、「準備4 パソコンに付属ソフトウェアをインストールする」(次ページ)および「準備5 パソコンのネットワーク設定を変更する」(83ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。



準備 4

パソコンに
付属ソフト
ウェアを
インストール
する

本機には、パソコン側で本機に必要な設定をまとめて行ったり、パソコンから本機のインターネット接続／切断の操作をパソコンから行うために、以下のソフトウェアが付属CD-ROMに収録されています。

- RTA55i/パソコンセットアップ:パソコンのネットワーク機能を設定します。
- RTAssist:パソコンから本機のインターネット接続／切断を操作します。

これらのソフトウェアは簡単に設定や操作を行うためのものであり、本機を使用する上で必須のものではありません。ただし、本書ではこれらのソフトウェアを使って、パソコンの設定の方法を説明しています。ネットワーク機器の操作や設定に慣れていない方は、次ページ以降の説明にしたがって、設定操作の前にこれらのソフトウェアをインストールすることをおすすめいたします。

 **Windows95/98/
Me/2000/XPの場合**80ページ

 **MacOSの場合**82ページ

ご注意

- インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。
- Windows 2000/XPの場合は、管理者 (Administrators) でログインしてから、インストールを行ってください。

Windows 95/98/Me/2000/XPの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstPCSU] アイコンをダブルクリックする。

2

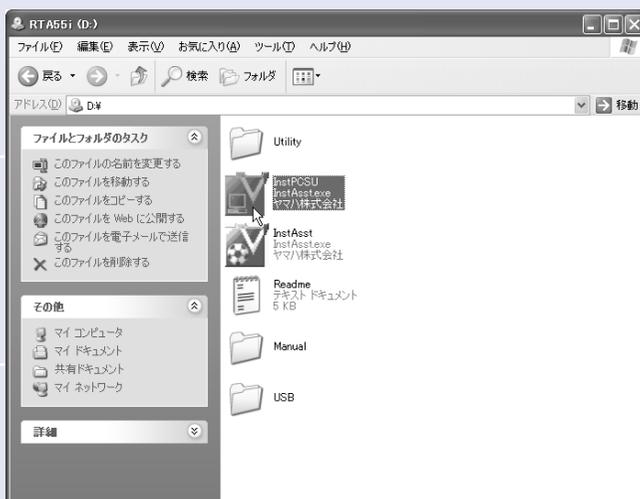
画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了] をクリックする。

これで、「RTA55iパソコンセットアップ」のインストールは完了です。



RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstAsst] アイコンをダブルクリックする。

2

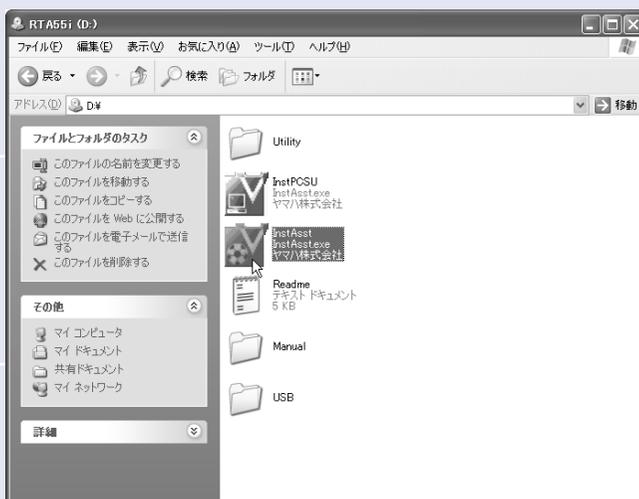
画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了] をクリックする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



MacOSの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属のCD-ROMからRTA55iパソコンセットアップを直接起動できるため、パソコンへのインストール作業は不要です。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」をインストールします。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTAssist」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ]フォルダ内の[RTAssist]フォルダをハードディスクにコピーする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



準備5

パソコンの ネットワーク 設定を 変更する

LANケーブルで接続したパソコンからインターネットに接続するには、まずパソコンのネットワーク設定を変更する必要があります。インストールした「RTA55iパソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。USBケーブルで接続する場合は、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 USB接続機能を活用する」(69ページ)をご覧ください。複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで同様に設定を行ってください。

ご注意

- 以下の説明は、Windows 95/98/Me/2000/XPおよびMacOS8.1以降(Mac OS Xを除く)の環境で、RTA55iパソコンセットアップを使って設定するためのものです。上記以外の環境でお使いの場合は、同等の設定を手動で行ってください(194ページ)。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(ブロードバンドTA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前に、LANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- 設定を始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるため、作業中のデータが消失することがあります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RTA55iパソコンセットアップが正しく動作しないことがあります。その場合は、手動でネットワークの設定を変更してください(194ページ)。

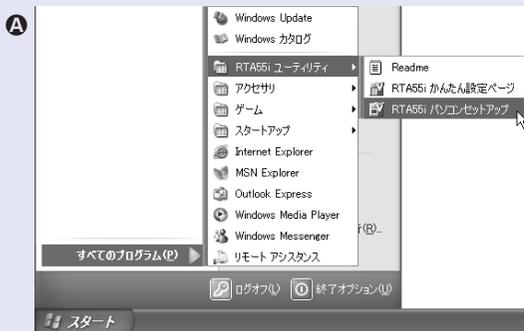
ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1

RTA55iパソコンセットアップを起動する。

㊤Windows95/98/Me/2000/XPの場合

[スタート] ボタンをクリックして、[プログラム] - [RTA55iユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ] をクリックする。



㊦Macintoshの場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ] フォルダ内の、[パソコンセットアップ] アイコンをダブルクリックする。



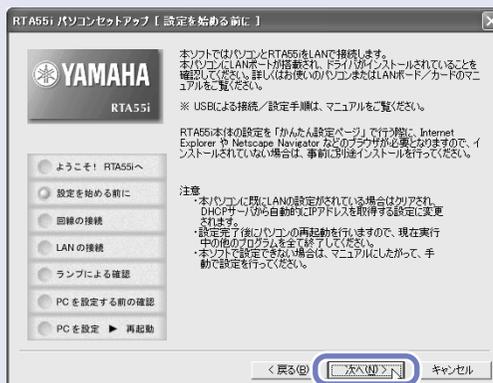
2

[次へ] をクリックする。



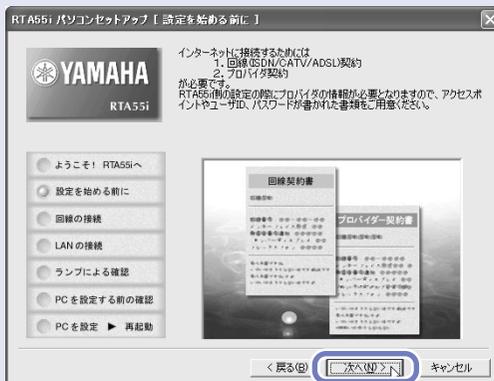
3

メッセージの内容を確認してから、[次へ] をクリックする。



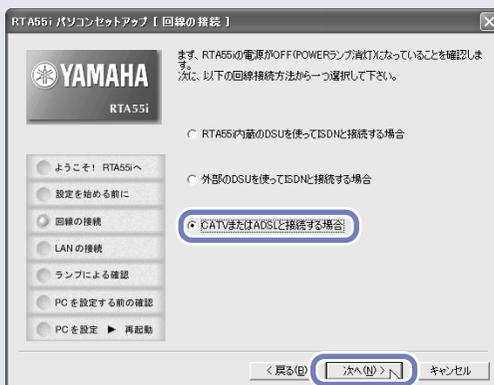
4

プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認してから、[次へ]をクリックする。



5

[CATVまたはADSLで接続する場合]を選んでから、[次へ]をクリックする。



6

接続した回線の種類と、本機後面のスイッチの設定を確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備1 ルータにADSL回線を接続する」(72ページ)をご覧ください。



次のページにつづく→

7

本機のLANポートにLANケーブルが接続されていることを確認してから、**[次へ]**をクリックする。

問題がある場合は**[キャンセル]**をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備3 ルータにパソコンを接続する」(76ページ)をご覧ください。



8

本機の電源やランプの表示を確認してから、**[次へ]**をクリックする。

問題がある場合は**[キャンセル]**をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。

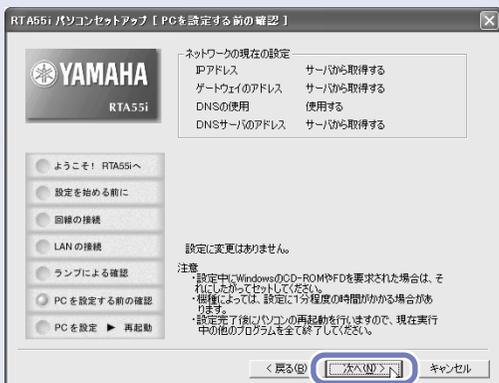


9

設定内容を確認してから、**[次へ]**をクリックする。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンの環境によっては、OS(Windows、MacOS)のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

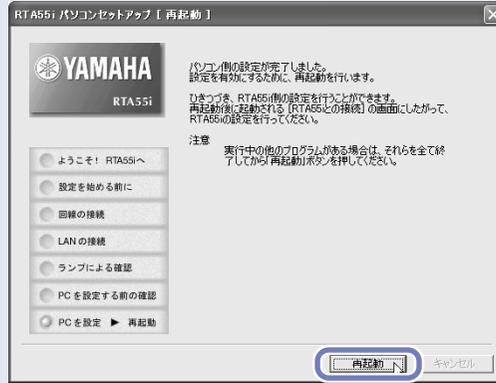
お使いのパソコンの環境によっては、ネットワーク設定の完了後に再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。



10

再起動のメッセージが表示された場合は、**[再起動]**をクリックする。

パソコンが再起動します。



11

「RTA55iと接続」画面が表示されたら、**[開く]**をクリックする。

Webブラウザが自動的に起動して、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されたら、パソコンの設定は完了です。他のパソコンも同様に設定してください。



2台目以降のパソコンを設定している場合は「RTA55iと接続」が表示されたら、**[中止]**をクリックします。

インターネット に接続する

本機の「かんたん設定ページ」画面で端末型ダイヤルアップの接続先を設定して、インターネットに接続します。

設定する前に

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（ブロードバンドTA接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは「活用マニュアル」（別冊）の「第7章 ファイアウォール機能を使う」（114ページ）をご覧ください。

プロバイダの設定資料を用意してください

設定するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- ユーザID（アカウント名）
- パスワード

Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を変更するには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使用します（お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます）。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

Windows95/98/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降（6.0以降を除く）のWebブラウザが必要です。Windows95以降にはInternet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。

ご注意

お使いのWindows95のバージョンによっては、インストールされているWebブラウザがInternet Explorer 3.0の場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

MacOSの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降（6.0を除く）のWebブラウザが必要です。MacOS8.1以降には、Internet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

設定する

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。RTA55iパソコンセットアップで引き続き設定する場合は、手順4から始めてください。

1

本機の電源が入っていることを確認する。

2

パソコンでWebブラウザを起動して、[ファイル]メニューから[開く]を選ぶ。

3

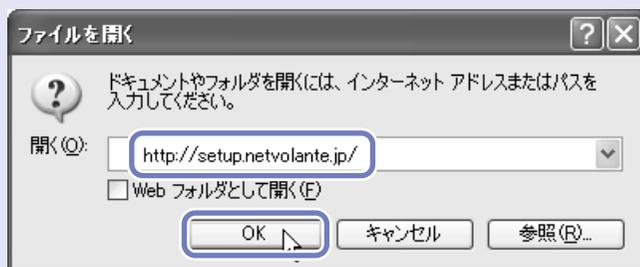
「<http://setup.netvolante.jp/>」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。

初めて開いたときは、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。2回目以降は、手順5へ進んでください。

ヒント

「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されないときは、本機とパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。



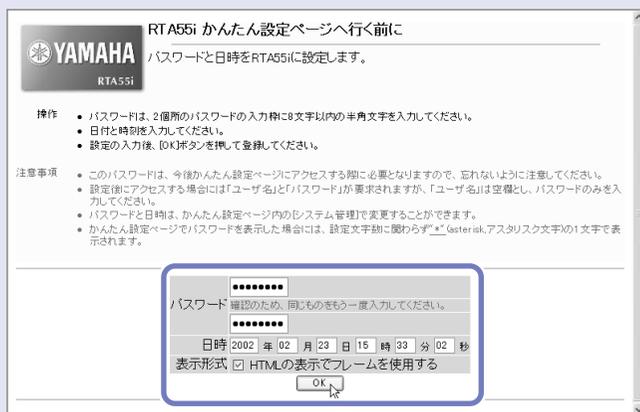
4

本機の管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定してから[OK]をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。

管理パスワードは半角英数字8文字までで、好みに合わせて決めてください
(例: RTA55i00、yamaha55など)。

ご注意

管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。



次のページにつづく→

5

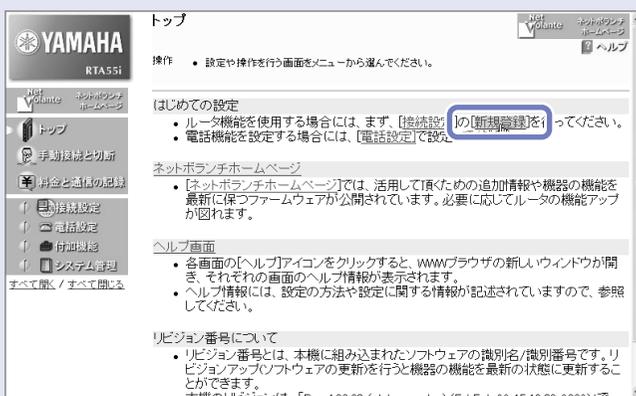
[ユーザー名] 欄を空欄にしたまま、[パスワード] 欄にルータの管理パスワードを入力して、[OK] をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。



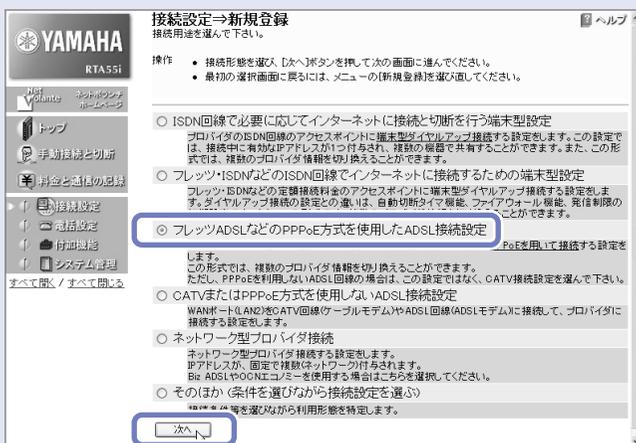
6

[新規登録] をクリックする。



7

[フレッツ・ADSLなどのPPPoEを使用したADSL接続設定] を選んでから、[次へ] をクリックする。



8

プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

プロバイダ名

接続先がわかるような名前を入力します。

ユーザID

プロバイダから指定されたフレッツ・ADSL接続用のユーザIDを入力します。必ず書類を確認して、間違いのないように入力してください。

例) username@provider.ne.jp
username@aaa.provider.ne.jp
(サブドメインが付加される場合)

パスワード

指定されたパスワードまたは自分で変更したパスワードを入力します。半角英数字で大文字小文字も正確に入力してください。

接続方式

フレッツ・ADSLの使いかたを選びます。

- **自動切断する**: 必要に応じて接続したい場合を選びます。
- **常時接続する**: 常に接続したままにしたい場合を選びます。



接続設定⇒新規登録⇒PPPoE(WANポート)によるプロバイダ接続 ヘルプ
操作 ● 設定する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

プロバイダ情報

プロバイダ名 (PP01) F ADSL	半角92文字以内
ユーザID username@provider.ne.jp	半角入力64文字以内
パスワード ●●●●●●	半角入力64文字以内

接続方式

(自動切断タイムとセキュリティフィルタの初期設定)

● **接続方式**

自動切断する
 常時接続する(自動切断しない、手動切断のみ)

DNS関連

DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する	
プライマリDNSサーバアドレス	00.00.00.00	指定する場合半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	00.00.00.00	(省略可能)

DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する**: プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合を選びます。
- **接続時に自動取得する**: プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合を選びます。

プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

9

入力が終わったら、[登録]をクリックする。

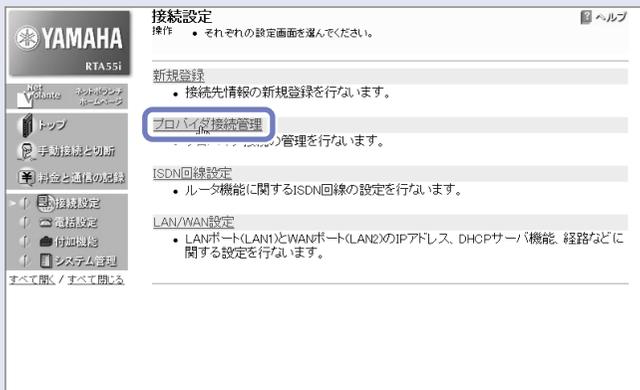
メッセージに従ってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。



次のページにつづく→

10

[プロバイダ接続管理] をクリックする。



11

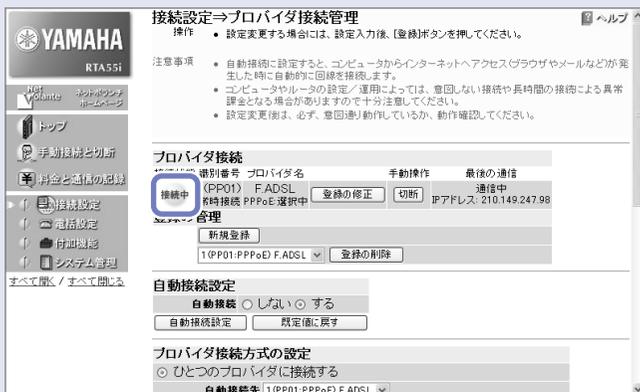
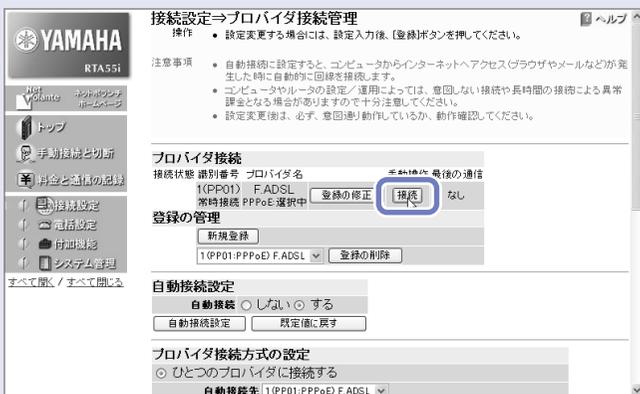
登録したプロバイダの [接続] をクリックして、手動接続してみる。

本機のWANランプが点滅して左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。

接続できない場合は

ユーザIDやパスワードの設定が間違っている可能性があります。

[登録の修正] をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認したり、パスワードの大文字/小文字や全角/半角に注意して入力し直してから、もう1度手動接続を行ってください。



12

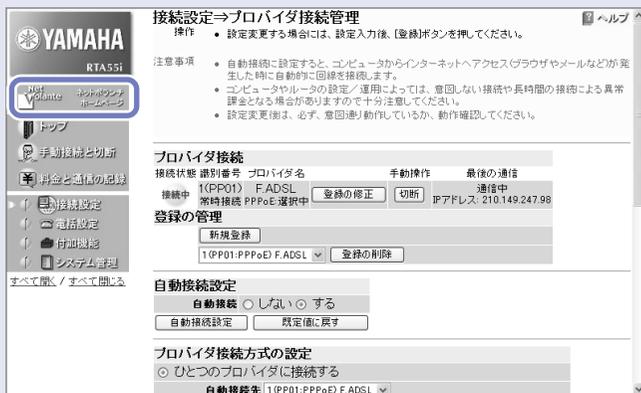
画面左上の「ネットボランチホームページ」をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されます。

表示されない場合は

DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。

「登録の修正」をクリックして、設定内容をもう一度確認してください。



13

接続できることを確認できたら、Webブラウザの「戻る」をクリックして「プロバイダ接続管理」画面に戻る。

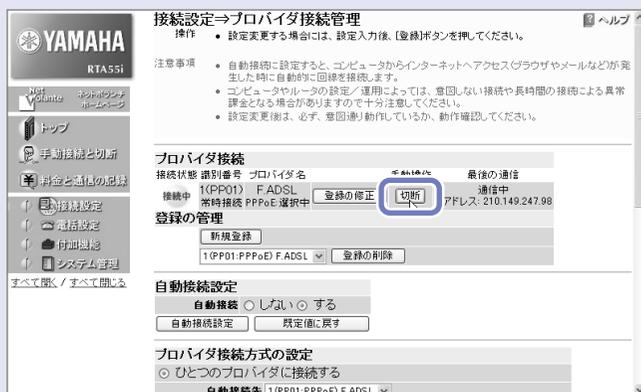
接続方式で「自動切断する」を選んでいる場合は、登録したプロバイダの「切断」をクリックして手動切断してください。

接続方法で「自動切断する」を設定した場合

手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

ヒント

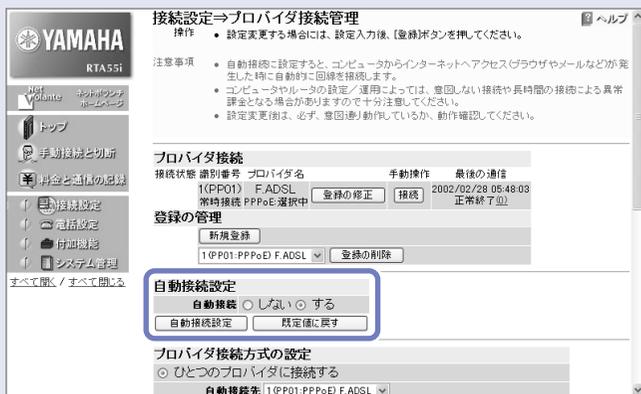
フレッツ・ADSLは定額料金制なので、発信制限は自動設定されません。



14

「自動接続設定」が「する」になっていて、「自動接続先」に登録したプロバイダが選ばれていることを確認する。

これで、ルータのフレッツ・ADSL接続設定は完了です。

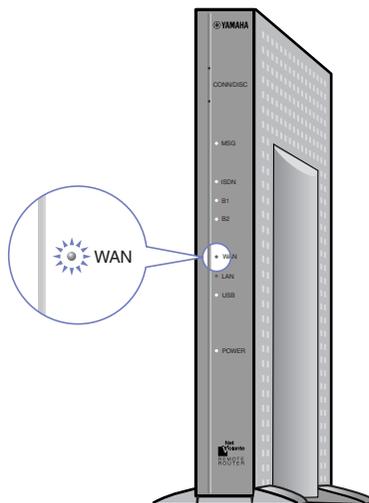


インターネット接続を開始する

本機はインターネットへ自動的に接続します

本機はLAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると、自動的にインターネットへ接続します。通常は、パソコンでホームページを閲覧したり、新着メールを確認するだけで、自動的に接続／切断できます。

インターネットに接続しているときは、WANランプが点灯または点滅します。



インターネット接続を終了する

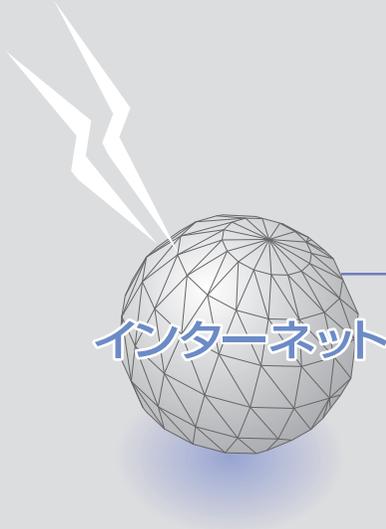
本機はインターネットへの接続を自動的に切断します。切断されると、WANランプが消灯します。

💡 ヒント

「かんたん設定ページ」を使って、LAN内から一定時間インターネットへのアクセスがない場合に、自動切断するように設定することもできます。

第5章

Bフレッツ 接続する



Bフレッツ接続は光ファイバを使い、NTTのネットワークを
経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。

USBケーブルで本機とパソコンを接続して、ブロードバン
ドTA接続でインターネットに接続することもできます。詳し
くは、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 USB接続機能を
活用する」(69ページ)をご覧ください。

CATV

通常ADSL接続
ADSL

Bフレッツ接続
OPTICAL

ダイヤルアップ接続
ISDN

Bフレッツ接続とは?

Bフレッツ接続は光ファイバを使い、NTTのネットワークを経由して高速にインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域が光ファイバの敷設地域で、以下の条件を満たしていれば利用できます。

ご注意

- 本機に接続するONU (Optical Network Unit、光ネットワークユニット)を別途ご用意いただく必要があります。詳しくはNTTにお問い合わせください。
- 光ファイバの特性上、お住まいの地域によってはBフレッツ接続が利用できない場合があります。詳しくはNTTにお問い合わせください。
- 光ファイバでインターネットに接続する場合、本機を光ファイバの回線に直接接続することはできません。必ずONUに接続してください。

必要な条件

- お住まいの地域が光ファイバの敷設地域であること。
- プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

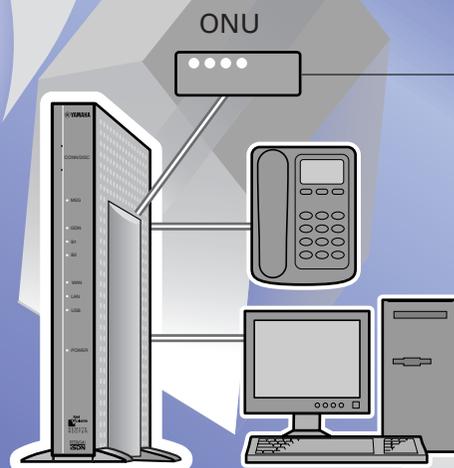
必要な契約

- 「Bフレッツ」契約 (NTTと契約)
- 「Bフレッツ接続」契約 (Bフレッツ接続対応のプロバイダと契約)

設定を行うためには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です

契約時に入手した接続情報の書類を確認してください。

- ネームサーバアドレス (DNSサーバアドレス)
- ユーザID
- パスワード





インターネット

プロバイダ

NTT

NTTネットワーク

電話局

光ファイバ回線
(Bフレッツ)

本機設置場所

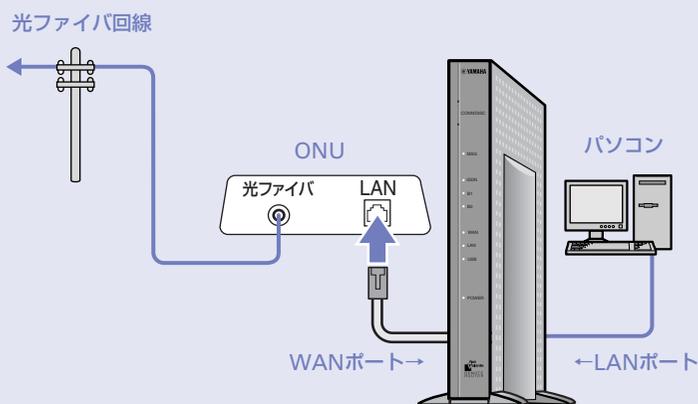
準備 1

ルータに
光ファイバ
回線を接続
する

光ファイバ回線に接続する場合は、本機のWANポートに以下の方法でONUを接続します。ONUの設置は、ご自分で設置する場合と、業者が行う場合とがあります。各業者の指示に従って設置してください。

ご注意

光ファイバでインターネットに接続する場合、本機を光ファイバの回線に直接接続することはできません。必ずONUに接続してください。



接続する

必要なもの

LANケーブル:本機のWANポートとONUを接続します。
ONUの種類に合わせて、ストレートタイプまたはクロスタイプのLANケーブルをご用意ください(ONUに付属している場合もあります)。

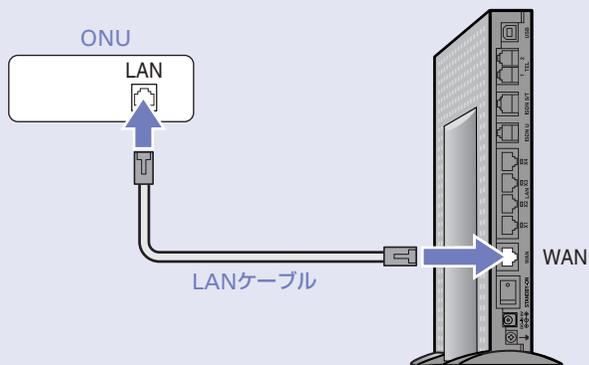
ご注意

ONUとパソコンをストレートケーブルで接続するように指定されている場合は、ONUと本機のWANポートもストレートケーブルで接続します。逆に、ONUとパソコンをクロスケーブルで接続するように指示されている場合は、クロスケーブルで本機と接続してください。

ONUのLANポートと、本機のWANポートをLANケーブルで接続する。

ご注意

ISDN回線を別途接続しない場合は、TELポート間の内線通話や本機のインターネット電話機能以外で、TELポートにアナログ機器(電話機、FAX、モデムなど)を接続して使うことはできません。



準備 2

電源を
接続する

アースコードを接続してから、付属のACアダプタ (P9V1.1A) をコンセントに接続します。

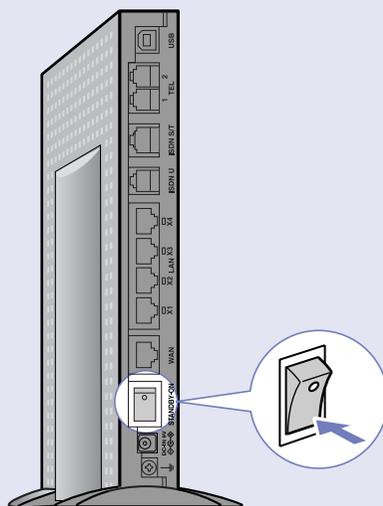
ご注意

- ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

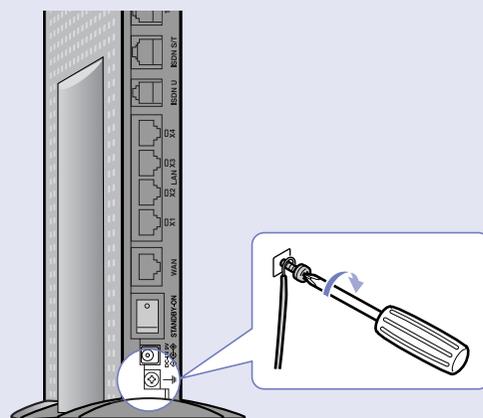
必要なもの

- **アースコード**: 設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。
- **ACアダプタ**: 本機に付属のACアダプタ (P9V1.1A) をご使用ください。

1
STANDBY-ON (電源) スイッチが「STANDBY」(スタンバイ)になっていることを確かめる。

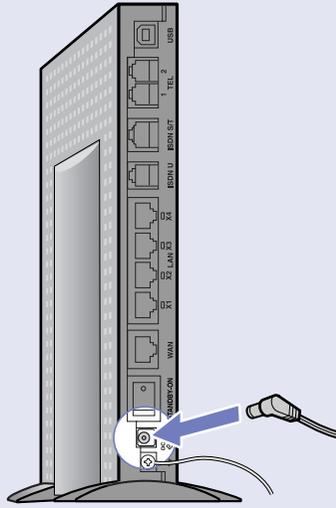


2
アース端子のネジを ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。



3

付属のACアダプタ (P9V1.1A) のコネクタを本機の電源コネクタに接続する。

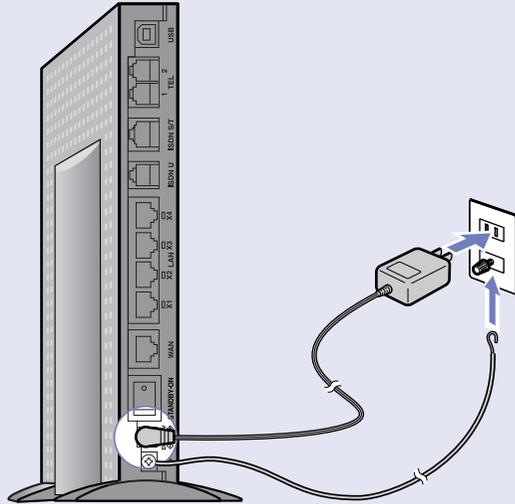


4

アースコードをアース端子へ、付属のACアダプタをコンセントに接続する。

ACアダプタを取りはずす際は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。

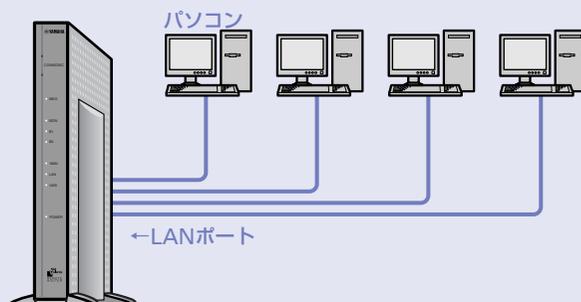


準備 3

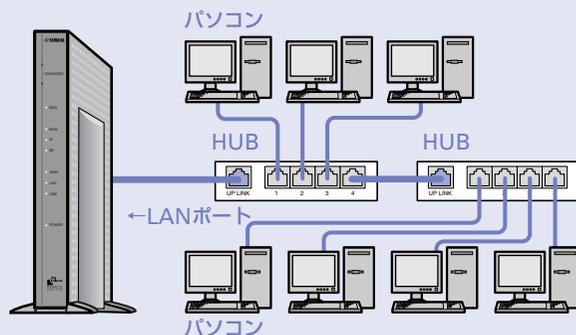
ルータに
パソコンを
接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに追加したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

4台までのパソコンを接続する場合の例



5台以上のパソコンを接続する場合の例



ご注意

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

- 本機のDHCP機能:OFF
- 本機のIPアドレス:指定されたIPアドレスに設定するか、またはDHCPクライアントとして設定する。

必要なもの

- LANケーブル:パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T/100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。本機にはストレートタイプのケーブル(3m)が1本付属しています。
- HUB:5台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた、10BASE-T/100BASE-TX対応のHUB(またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

1

本機の電源を切る。

2

パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

A パソコンを本機に直接接続する例

本機のLANポートに接続します。

B 5台以上のパソコンを接続する例

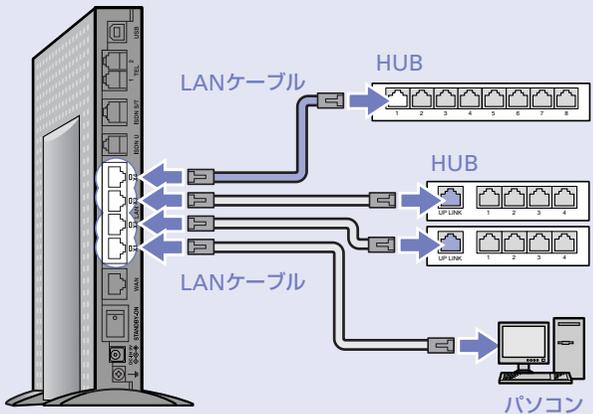
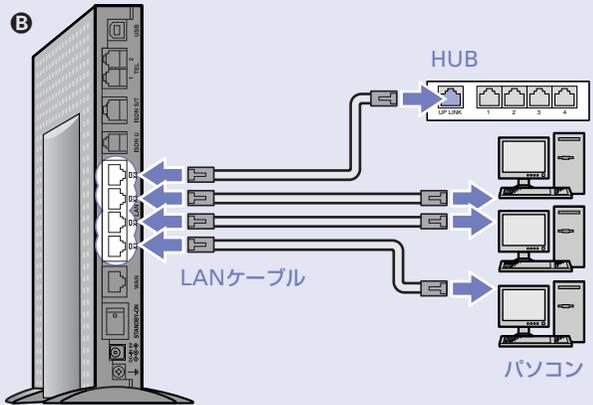
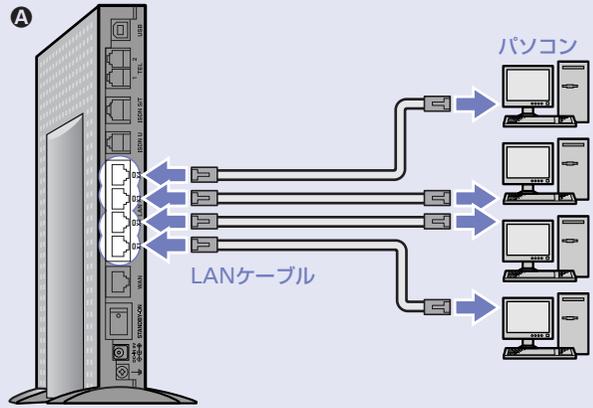
HUBの場合は、UPLINK(カスケード)ポートを接続します。

HUBにUPLINK (カスケード) ポートがない場合やUPLINKポートが空いていない場合は

HUBのポートと本機のLANポートを、市販のLANケーブルで接続してください。

ご注意

HUBは10BASE-Tの場合4段(階層)まで、10/100BASE-TX混在の場合2段(階層)までしかUPLINK(カスケード)接続できません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

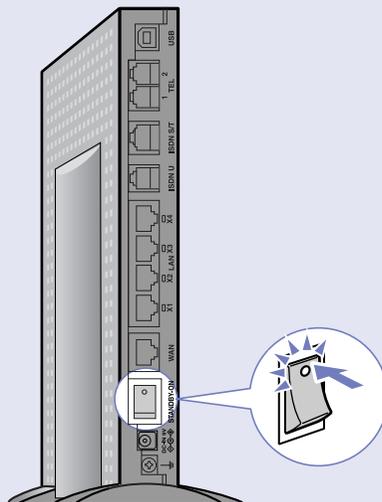


次のページにつづく→

3

本機の電源を入れる。

ランプが何回か点滅した後、POWERランプが点灯します。



4

パソコンやHUBの電源を入れ、本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅することを確認する。

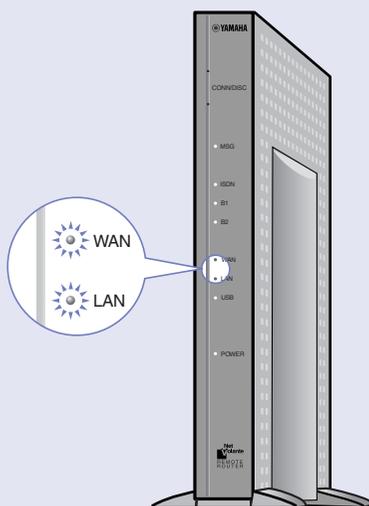
本機のLANランプとWANランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。

ご注意

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は、「準備4 パソコンに付属ソフトウェアをインストールする」(次ページ)および「準備5 パソコンのネットワーク設定を変更する」(109ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。



準備 4

パソコンに
付属ソフト
ウェアを
インストール
する

本機には、パソコン側で本機に必要な設定をまとめて行ったり、パソコンから本機のインターネット接続／切断の操作をパソコンから行うために、以下のソフトウェアが付属CD-ROMに収録されています。

- RTA55i/パソコンセットアップ:パソコンのネットワーク機能を設定します。
- RTAssist:パソコンから本機のインターネット接続／切断を操作します。

これらのソフトウェアは簡単に設定や操作を行うためのものであり、本機を使用する上で必須のものではありません。ただし、本書ではこれらのソフトウェアを使って、パソコンの設定の方法を説明しています。ネットワーク機器の操作や設定に慣れていない方は、次ページ以降の説明にしたがって、設定操作の前にこれらのソフトウェアをインストールすることをおすすめいたします。

 **Windows95/98/
Me/2000/XPの場合**106ページ

 **MacOSの場合**108ページ

ご注意

- インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。
- Windows 2000/XPの場合は、管理者 (Administrators) でログインしてから、インストールを行ってください。

Windows 95/98/Me/2000/XPの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstPCSU]アイコンをダブルクリックする。

2

画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了]をクリックする。

これで、「RTA55iパソコンセットアップ」のインストールは完了です。



RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstAsst] アイコンをダブルクリックする。

2

画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了] をクリックする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



MacOSの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属のCD-ROMからRTA55iパソコンセットアップを直接起動できるため、パソコンへのインストール作業は不要です。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」をインストールします。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTAssist」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ]フォルダ内の[RTAssist]フォルダをハードディスクにコピーする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



準備5

パソコンの ネットワーク 設定を 変更する

LANケーブルで接続したパソコンからインターネットに接続するには、まずパソコンのネットワーク設定を変更する必要があります。インストールした「RTA55iパソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。USBケーブルで接続する場合は、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 USB接続機能を活用する」(69ページ)をご覧ください。複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで同様に設定を行ってください。

ご注意

- 以下の説明は、Windows 95/98/Me/2000/XPおよびMacOS8.1以降(Mac OS Xを除く)の環境で、RTA55iパソコンセットアップを使って設定するためのものです。上記以外の環境でお使いの場合は、同等の設定を手動で行ってください(194ページ)。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(ブロードバンドTA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使用していると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前に、LANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- 設定を始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるため、作業中のデータが消失することがあります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RTA55iパソコンセットアップが正しく動作しないことがあります。その場合は、手動でネットワークの設定を変更してください(194ページ)。

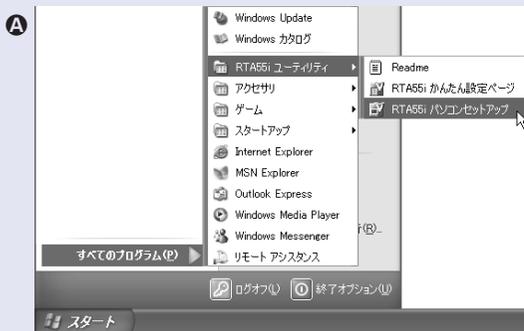
ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1

RTA55iパソコンセットアップを起動する。

㊤Windows95/98/Me/2000/XPの場合

[スタート] ボタンをクリックして、[プログラム] - [RTA55iユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ] をクリックする。



㊦Macintoshの場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ] フォルダ内の、[パソコンセットアップ] アイコンをダブルクリックする。



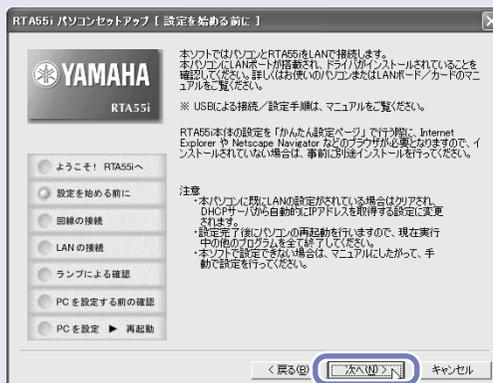
2

[次へ] をクリックする。



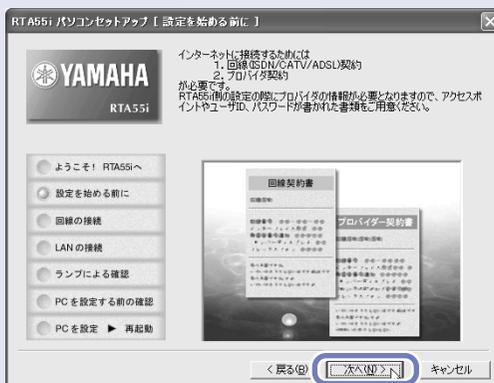
3

メッセージの内容を確認してから、[次へ] をクリックする。



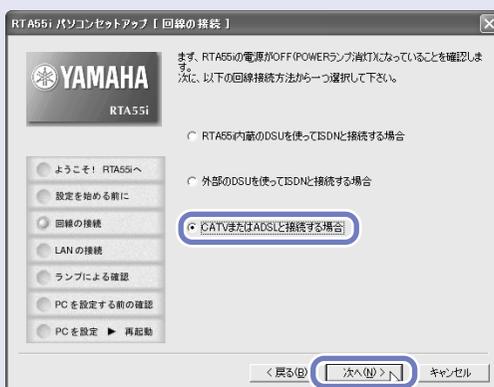
4

プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認してから、[次へ]をクリックする。



5

[CATVまたはADSLで接続する場合]を選んでから、[次へ]をクリックする。



6

接続した回線の種類と、本機後面のスイッチの設定を確認してから、[次へ]をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備1 ルータに光ファイバ回線を接続する」(98ページ)をご覧ください。



次のページにつづく→

7

本機のLANポートにLANケーブルが接続されていることを確認してから、**[次へ]**をクリックする。

問題がある場合は**[キャンセル]**をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備3 ルータにパソコンを接続する」(102ページ)をご覧ください。



8

本機の電源やランプの表示を確認してから、**[次へ]**をクリックする。

問題がある場合は**[キャンセル]**をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。

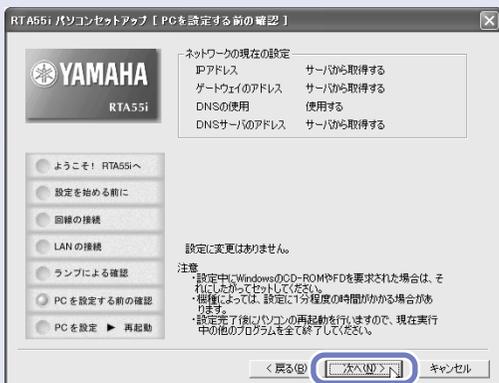


9

設定内容を確認してから、**[次へ]**をクリックする。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンの環境によっては、OS(Windows、MacOS)のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

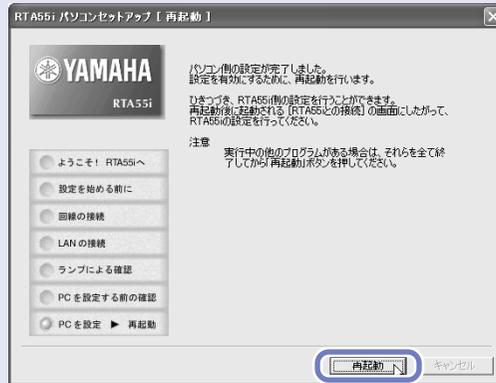
お使いのパソコンの環境によっては、ネットワーク設定の完了後に再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。



10

再起動のメッセージが表示された場合は、**[再起動]**をクリックする。

パソコンが再起動します。



11

「RTA55iと接続」画面が表示されたら、**[開く]**をクリックする。

Webブラウザが自動的に起動して、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されたら、パソコンの設定は完了です。他のパソコンも同様に設定してください。



2台目以降のパソコンを設定している場合は「RTA55iと接続」が表示されたら、**[中止]**をクリックします。

インターネット に接続する

本機の「かんたん設定ページ」画面で端末型ダイヤルアップの接続先を設定して、インターネットに接続します。

設定する前に

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（ブロードバンドTA接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける危険性が高くなります。セキュリティには十分ご注意の上、お使いください。詳しくは「活用マニュアル」（別冊）の「第7章 ファイアウォール機能を使う」（114ページ）をご覧ください。

プロバイダの設定資料を用意してください

設定するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。

- ネームサーバアドレス（DNSサーバアドレス）
- ユーザID（アカウント名）
- パスワード

Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を変更するには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使用します（お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます）。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

Windows95/98/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降（6.0以降を除く）のWebブラウザが必要です。Windows95以降にはInternet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。

ご注意

お使いのWindows95のバージョンによっては、インストールされているWebブラウザがInternet Explorer 3.0の場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

MacOSの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降（6.0を除く）のWebブラウザが必要です。MacOS8.1以降には、Internet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

設定する

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。RTA55iパソコンセットアップで引き続き設定する場合は、手順4から始めてください。

1

本機の電源が入っていることを確認する。

2

パソコンでWebブラウザを起動して、[ファイル]メニューから[開く]を選ぶ。

3

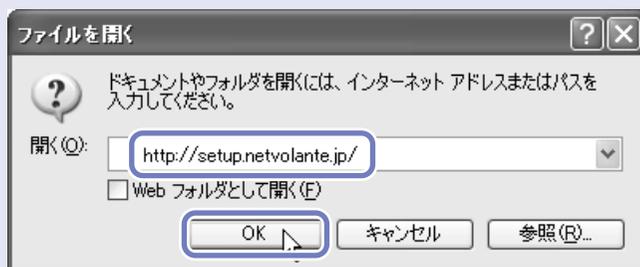
「<http://setup.netvolante.jp/>」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。

初めて開いたときは、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。2度目以降は、手順5へ進んでください。

ヒント

「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されないときは、本機とパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。



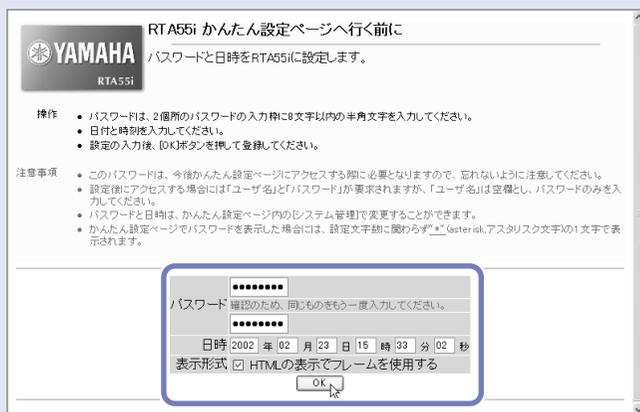
4

本機の管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定してから[OK]をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。

管理パスワードは半角英数字8文字までで、好みに合わせて決めてください(例:RTA55i00、yamaha55など)。

ご注意

管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。



次のページにつづく→

5

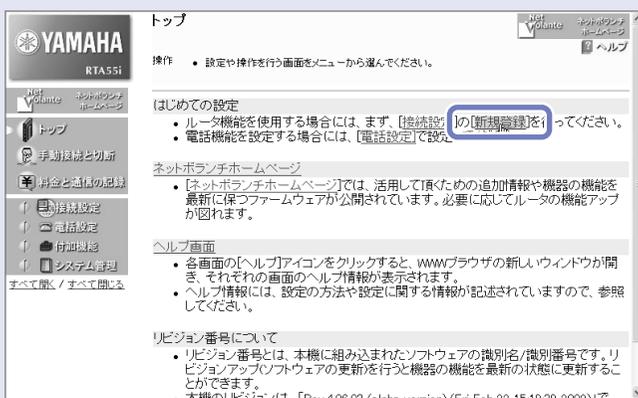
[ユーザー名] 欄を空欄にしたまま、[パスワード] 欄にルータの管理パスワードを入力して、[OK] をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。



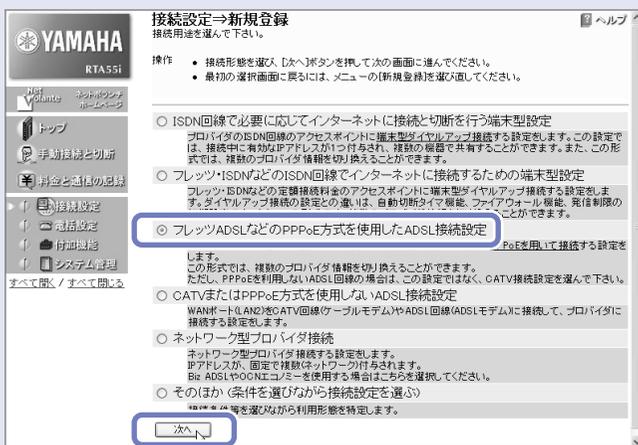
6

[新規登録] をクリックする。



7

[フレッツ・ADSLなどのPPPoEを使用したADSL接続設定] を選んでから、[次へ] をクリックする。



8

プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

プロバイダ名

接続先がわかるような名前を入力します。

ユーザID

プロバイダから指定されたBフレッツ接続用のユーザIDを入力します。必ず書類を確認して、間違いのないように入力してください。

例) username@provider.ne.jp
username@aaa.provider.ne.jp
(サブドメインが付加される場合)

パスワード

指定されたパスワードまたは自分で変更したパスワードを入力します。半角英数字で大文字小文字も正確に入力してください。

接続方式

Bフレッツの使いかたを選びます。

- **自動切断する**: 必要に応じて接続したい場合を選びます。
- **常時接続する**: 常に接続したままにしたい場合を選びます。



接続設定⇒新規登録⇒PPPoE(WANポート)によるプロバイダ接続 ヘルプ
操作 ● 設定する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

プロバイダ情報

プロバイダ名 (PP01) F ADSL	半角92文字以内
ユーザID username@provider.ne.jp	半角入力64文字以内
パスワード ●●●●●●●●	半角入力64文字以内

接続方式

(自動切断タイムとセキュリティフィルタの初期設定)

● 接続方式

自動切断する

常時接続する(自動切断しない、手動切断のみ)

DNS関連

DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する	
プライマリDNSサーバアドレス	00.00.00.00	指定する場合半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	00.00.00.00	(省略可能)

DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する**: プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合を選びます。
- **接続時に自動取得する**: プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合を選びます。

プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

9

入力が終わったら、[登録]をクリックする。

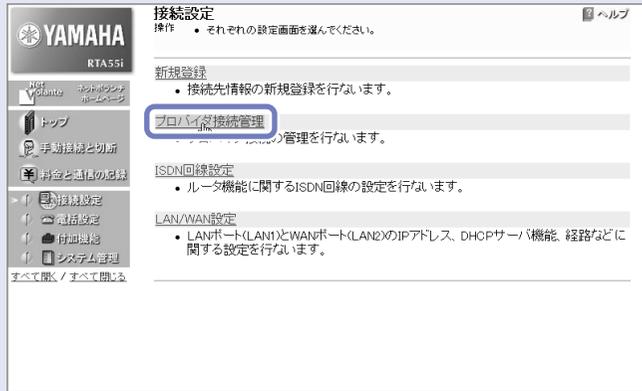
メッセージに従ってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。



次のページにつづく→

10

[プロバイダ接続管理] をクリックする。



11

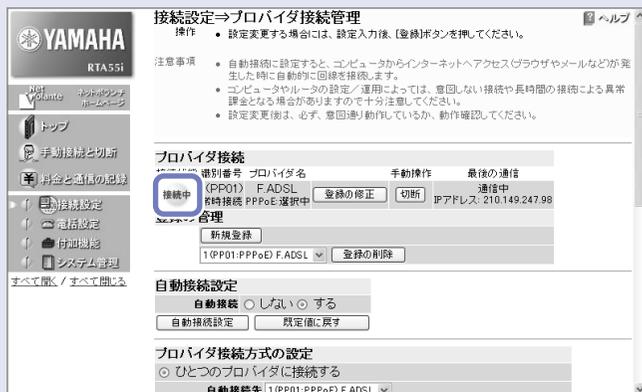
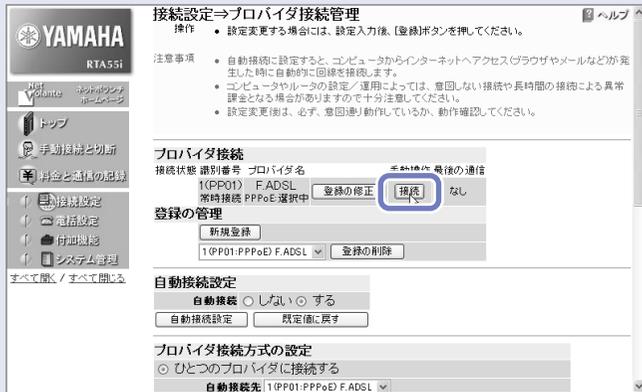
登録したプロバイダの [接続] をクリックして、手動接続してみる。

本機のWANランプが点滅して左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。

🔗 接続できない場合は

ユーザIDやパスワードの設定が間違っている可能性があります。

[登録の修正] をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認したり、パスワードの大文字/小文字や全角/半角に注意して入力し直してから、もう1度手動接続を行ってください。



12

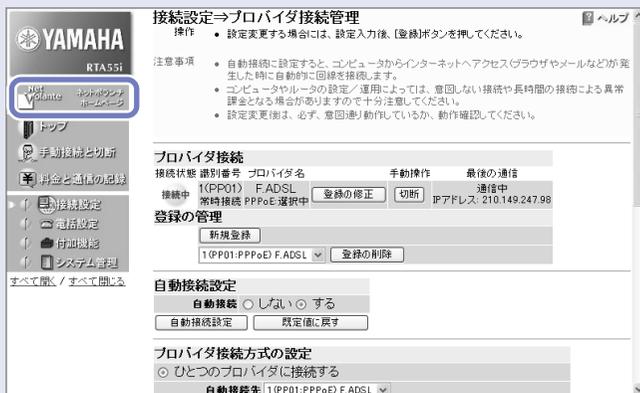
画面左上の「ネットボランチホームページ」をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されます。

表示されない場合は

DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。

「登録の修正」をクリックして、設定内容をもう一度確認してください。



13

接続できることを確認できたら、Webブラウザの「戻る」をクリックして「プロバイダ接続管理」画面に戻る。

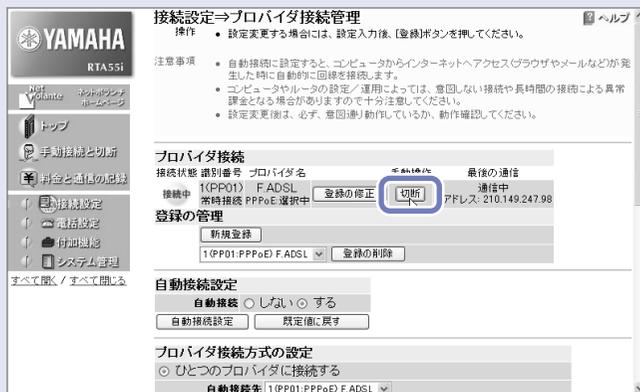
接続方式で「自動切断する」を選んでいる場合は、登録したプロバイダの「切断」をクリックして手動切断してください。

接続方法で「自動切断する」を設定した場合は

手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

ヒント

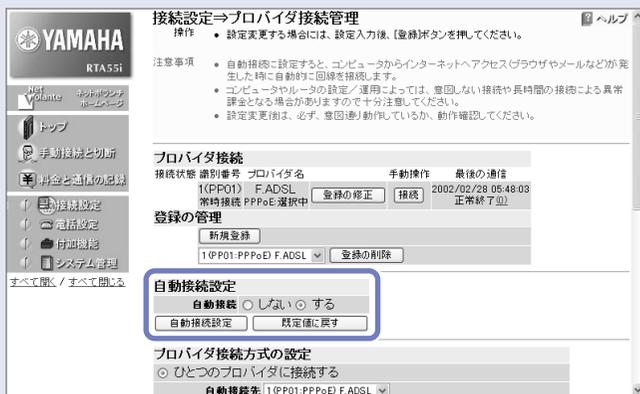
Bフレッツは定額料金制なので、発信制限は自動設定されません。



14

「自動接続設定」が「する」になっていて、「自動接続先」に登録したプロバイダが選ばれていることを確認する。

これで、ルータのBフレッツ接続設定は完了です。

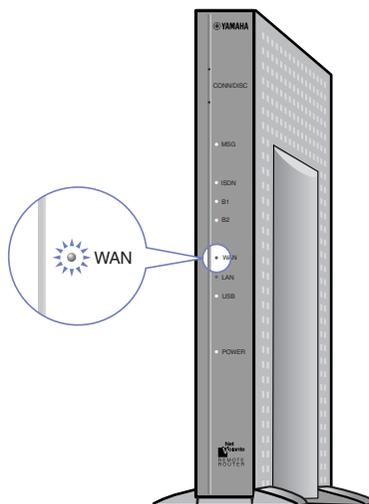


インターネット接続を開始する

本機はインターネットへ自動的に接続します

本機はLAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると、自動的にインターネットへ接続します。通常は、パソコンでホームページを閲覧したり、新着メールを確認するだけで、自動的に接続／切断できます。

インターネットに接続しているときは、WANランプが点灯または点滅します。



インターネット接続を終了する

本機はインターネットへの接続を自動的に切断します。切断されると、WANランプが消灯します。

💡 ヒント

「かんたん設定ページ」を使って、LAN内から一定時間インターネットへのアクセスがない場合に、自動切断するように設定することもできます。

第 6 章

必要なときだけ
電話をかけて接続する

ISDN端末型

ダイヤルアップ



すでにISDN回線でインターネットに接続している場合は、
同じ契約のまま本機を使用できます。

USBケーブルで本機とパソコンを接続して、TA(ターミナルアダプタ)接続でインターネットに接続することもできます。詳しくは、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 USB接続機能を活用する」(69ページ)をご覧ください。

CATV

通常ADSL接続
ADSL
フレッツ・ADSL接続フレッツ接続
OPTICALダイヤルアップ接続
ISDN
フレッツ・ISDN接続

ISDN端末型 ダイヤルアップ とは?

すでにモデムを使ってインターネットへ接続していた場合は、以下の条件を満たしていれば、同じ契約のまま本機を使用できます。まだ契約していない場合は、プロバイダにお申し込みください。

必要な条件

- プロバイダにISDN対応のアクセスポイント電話番号があること。
- プロバイダがダイヤルアップルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

必要な契約

- ISDN回線契約 (123ページ)
- 「端末型ダイヤルアップ接続」契約 (プロバイダと契約)

設定を行うためには、プロバイダから 通知される以下の情報が必要です

契約時に入手した、接続情報の書類をご確認ください。

- ネームサーバアドレス (DNSサーバアドレス)
- ISDN対応アクセスポイントの電話番号
- 回線速度 (64kbit/s、128kbit/s MP接続)
- ユーザID (アカウント名)
- パスワード



回線契約についてのご注意

ISDN端末型ダイヤルアップをする場合は、ISDN回線が必要です。

新たにISDN回線を引く場合は、NTTへお申し込みください。申込票の各項目は、下記を参考に記入してください。

お取付工事（お客さま工事、またはNTT工事）

- 通信機器の名称 RTA55i
- メーカー YAMAHA
- 認証番号 CD02-0174JP
- DSU DSU内蔵型TA

コンサルティング項目

- インタフェース形態およびレイヤ1起動種別
P-MP常時またはP-MP呼毎
 - 発信者番号通知サービス 通常通知（通話ごと非通知）*
 - ユーザ間情報通知サービス 着信許可
 - 通信中着信通知サービス 許可
 - グローバル着信 有
 - i-ナンバーサービス 複数の電話番号を取得したい場合（3つまで）*
 - ダイヤルインサービス 4つ以上の電話番号を取得したい場合*
- * 「通常非通知（回線ごと非通知）」を選択した場合は、番号通知を利用した一部のサービスが受けられない場合があります。

ご注意

- コンサルティング項目の無料項目については、なるべく「許可」で申し込むことをお勧めします。実際に使うときの動作は、本機の機能で使わないように設定することができます。
- 電池駆動時の電池節約のために、インタフェース形態およびレイヤ1起動種別は「P-MP呼毎」で申し込むことをおすすめします。



ISDNの付加サービスについて

ISDN回線では、次のようなサービスが利用できます。サービスによって申し込みが必要なものや有料のものがあります。この他にもさまざまなサービスがありますので、詳しくはNTTへお問い合わせください。

発信者番号通知	発信者の番号を相手に通知できます。
サブアドレス通知	ISDN回線やPHSからの通話の場合に、接続したい機器を指定して着信させることができます。
ナンバー・ディスプレイ(有料)	着信時に発信者の番号が通知されます。
i・ナンバー(有料)	電話番号を最大2つまで増設でき、アナログ回線からの通話でも最大3つの電話番号を使い分けて着信させることができます。
ダイヤルイン(有料)	電話番号を最大99個まで増設できます。アナログ回線からの通話でも電話番号を使い分けて着信させることができます。
料金情報通知	通話にかかった料金が通知されるサービスです。回線から通知される料金は、小数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスが適用されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安とと考えてください。また、NTT以外の通信業者では通知されません。
ユーザ間情報通知	通信開始時と終了時にメッセージを送受信できます。
通話中着信通知サービス	通話中に着信を知らせるサービスです。

フレックスホン

INSキャッチホン(有料)	通話中に着信があったとき、通話中の相手を保留にして着信に応答できるキャッチホンサービスです。
三者通話(有料)	通話中に第三者を呼び出し、三者間通話ができます。
通信中転送(有料)	通話中の通信を第三者へ転送できます。
着信転送(有料)	着信した通信を応答する前に第三者へ転送できます。

ご注意

- 本機では、フレックスホンとほぼ同等の機能を本機だけで実現できます。フレックスホン同様に4つのサービスの先頭に「擬似」を付けて、擬似キャッチホン、擬似通信中転送、擬似三者通話、擬似着信転送と呼んで区別しています。詳しくは、「活用マニュアル」(別冊)の「第3章 電話を使う」(33～55ページ)をご覧ください。
- NTTのフレックスホンは、回線の状態にかかわらず利用できます。
- 擬似フレックスホンでは、ISDN回線の2チャンネル同時に通信できる特徴を利用して、擬似的に同等の機能を実現しています。そのため、擬似フレックスホン使用時は2チャンネル共に通話中となり、それに伴った課金が行われます。インターネット接続などで、すでに1チャンネルを接続している状態では、擬似フレックスホン機能は使用できません。

準備 1

ルータに ISDN回線を接続する

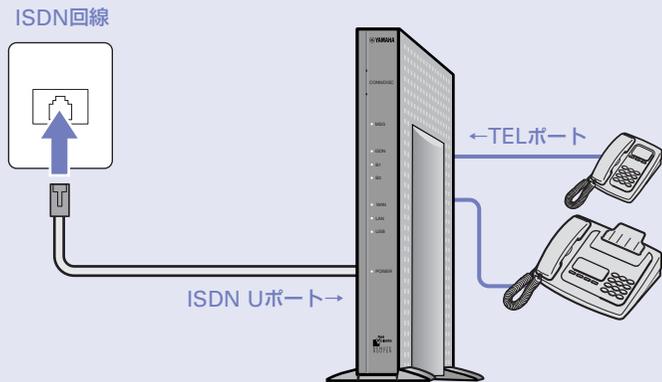
ISDN回線で端末型ダイヤルアップ接続を行う場合は、以下の方法で接続します。

ご注意

本機のDSUを使用するかどうかによって、接続が異なります。ISDN回線の申込票をご確認の上、該当する方法で接続してください。

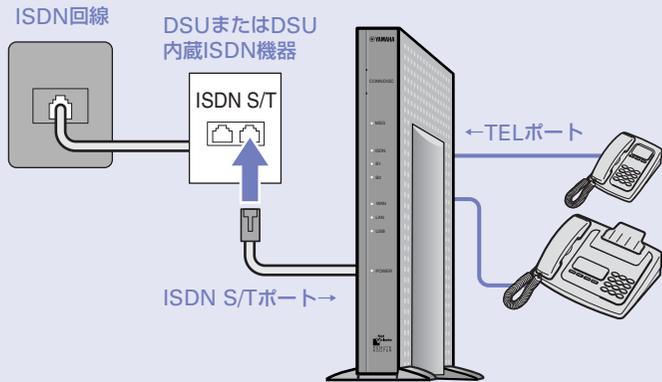
本機のDSUを使う場合 (126ページ)

- 通常はこの方法で接続します。
- 申込票の「DSU」項目で、「DSU内蔵TA」を選択したとき
- 工事後のISDN回線が、通常のモジュージャックと同じ形(6極端子)をしているとき



他のISDN機器のDSUを使う場合 (127ページ)

- 他のISDN機器やDSU経由でISDN回線と接続する場合は、この方法で接続します。
- 申込票の「DSU」項目で、「NTT工事」を選択したとき
- 工事後のISDN回線が、通常のモジュージャックより幅の広い形(8極端子)をしているとき

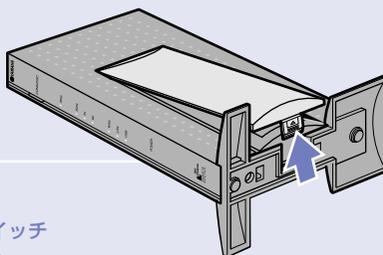


本機のDSUを使ってISDN回線に接続する

必要なもの

モジュラーケーブル: 一般に市販の電話用ケーブルが使用できません(2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のものとは除く)。接続に必要な距離に合わせてご用意ください。本機には1本(3m)付属しています。

1
電池ボックスカバーを図の方向に押して、開く。



2
DSUスイッチを「ON」に合わせる。

DSUスイッチ

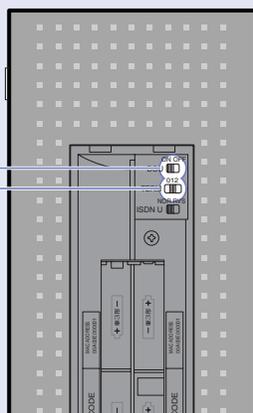


3
TERM (ターミネータ) スイッチを「2」に合わせる。

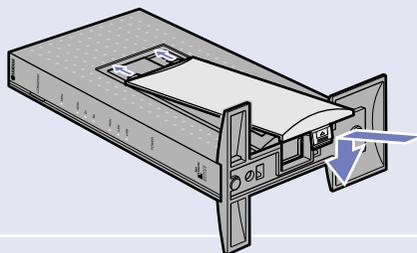
ヒント

本機のS/Tポートに他のISDN機器を接続する場合は、TERM (ターミネータ) スイッチを「1」に合わせます。この場合は、一番末端に接続したISDN機器のターミネータを、「入」(有効)にしてください。

TERMスイッチ



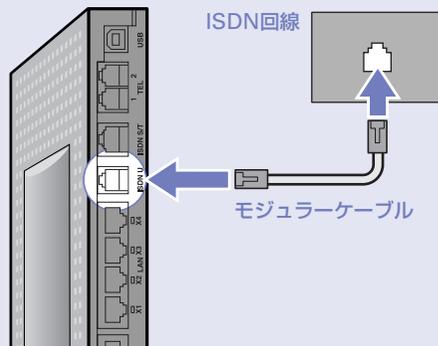
4
カバー上部のツメを合わせて、電池ボックスカバーを閉じる。



5
回線のモジュラージャックと本機のISDN Uポートを、モジュラーケーブル(灰色)で接続する。

ご注意

ISDN回線の場合は、本機のS/Tポートに他のISDN機器を接続して使うこともできます。ただし、DSUを切り離せない形式のDSU内蔵機器がある場合は、以下の手順でその機器のDSUを使って接続する必要があります。



他のISDN機器のDSUを使ってISDN回線に接続する

複数のISDN機器を接続する場合は、本機が一番末端になるように接続します。

必要なもの

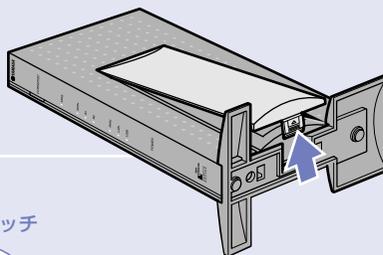
ISDNケーブル:市販のISDNケーブルをご用意ください。ただし、DSUや各ISDN機器間の総延長が150m以内になるようにしてください。

ご注意

ISDNケーブルは、LANケーブルのコネクタ(RJ-45)と同じ形状をしています。間違えないように注意してください。

1

電池ボックスカバーを図の方向に押して、開く。



2

DSUスイッチを「OFF」に合わせる。

DSUスイッチ



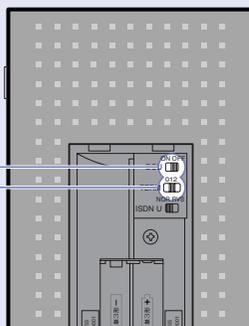
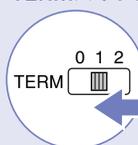
3

TERM (ターミネータ) スイッチを「1」に合わせる。

ヒント

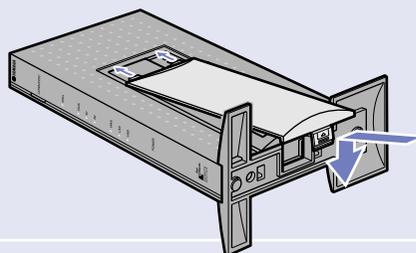
他のISDN機器のターミネータを有効にする場合は、本機のターミネータスイッチを「0」に合わせてください。

TERMスイッチ



4

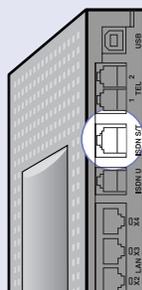
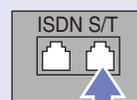
カバー上部のツメを合わせて、電池ボックスカバーを閉じる。



5

DSU (またはISDN機器のS/Tポート) と本機のISDN S/Tポートと、ISDNケーブルで接続する。

ISDN回線



ISDNケーブル

準備 2

バックアップ
電池を取り
付ける

ISDN回線に接続している場合には、本機にバックアップ用のアルカリ乾電池を入れると、停電してもTEL1ポートに接続したアナログ電話機で約2時間通話できるようになります。

ご注意

電池駆動時には、ルータやTA機能、TEL2ポートは使用できません。

ヒント

- 停電以外の時は、乾電池を入れなくても本機を使用できます。
- 本機をCATVやADSL、専用線に接続する場合や、ISDN回線に接続せず使用する場合（内線通話を除く）はTELポートは使えませんので、乾電池は不要です。

必要なもの

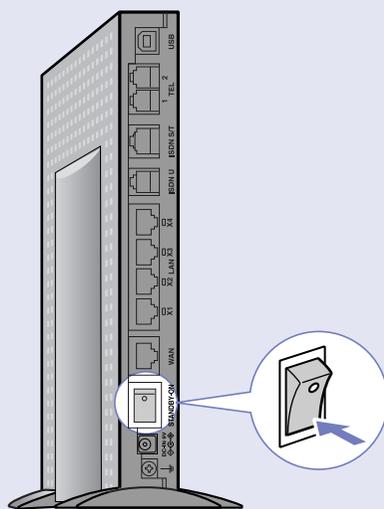
- **乾電池**:同一銘柄で保証期間内の、新品単3形アルカリ乾電池を4本ご用意ください。

警告

電池の破裂や液もれ、発熱による火災や怪我、周辺の汚損の原因になるので、以下の点にご注意ください。

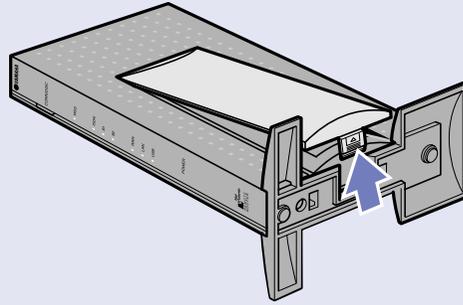
- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- メーカーや種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 長時間使用しない場合は、電池を取り外してください。
- 電池から漏れた液が目に入った場合は、こすらずにすぐに大量のきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。失明等の障害のおそれがあります。
- 電池から漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合は、すぐに大量のきれいな水で洗ってください。化学やけどなどの障害の恐れがあります。
- 電池から漏れた液が口に入った場合は、すぐにうがいをし医師に相談してください。

1
STANDBY-ON (電源) スイッチが「STANDBY」(スタンバイ)になっていることを確かめる。



2

電池ボックスカバーを図の方向に押し開く。

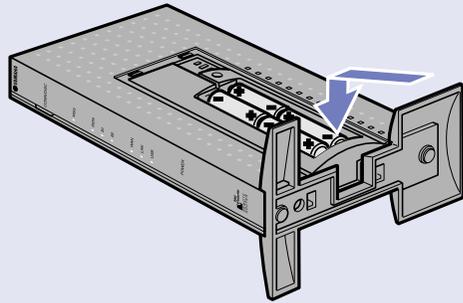


3

乾電池を右図の向きにあわせて入れる。

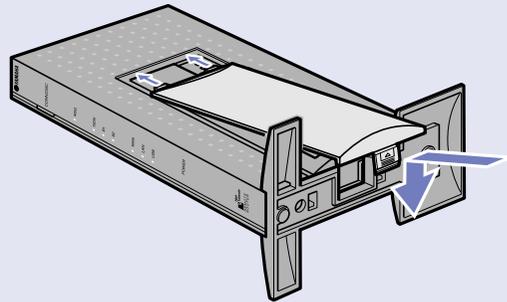
⚠ 警告

乾電池を入れるときには、電池のプラス(+) マイナス(-)を本体の表示に合わせてください。向きを間違えて入れると、電池の破裂や液漏れにより、火災・化学やけど、周囲を汚損する原因となることがあります。



4

電池ボックスカバーを閉じる。



準備 3

電源を
接続する

アースコードを接続してから、付属のACアダプタ (P9V1.1A) をコンセントに接続します。

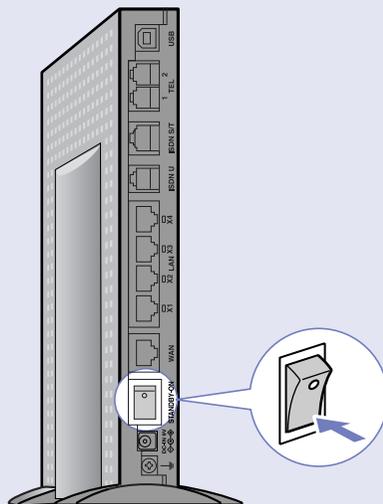
ご注意

- ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

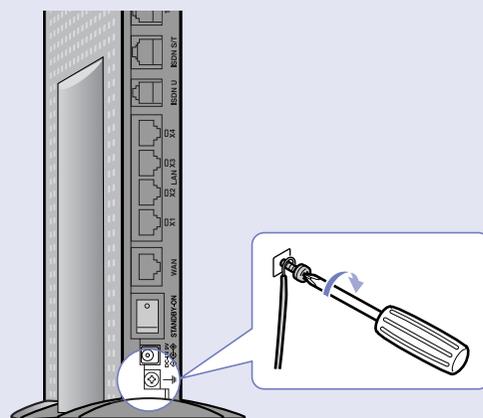
必要なもの

- **アースコード**: 設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。
- **ACアダプタ**: 本機に付属のACアダプタ (P9V1.1A) をご使用ください。

1
STANDBY-ON (電源) スイッチが「STANDBY」(スタンバイ)になっていることを確かめる。

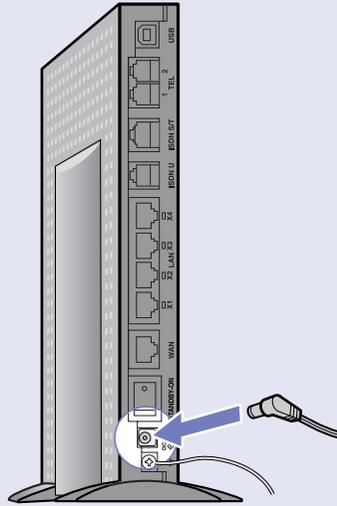


2
アース端子のネジを ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。



3

付属のACアダプタ (P9V1.1A) のコネクタを本機の電源コネクタに接続する。

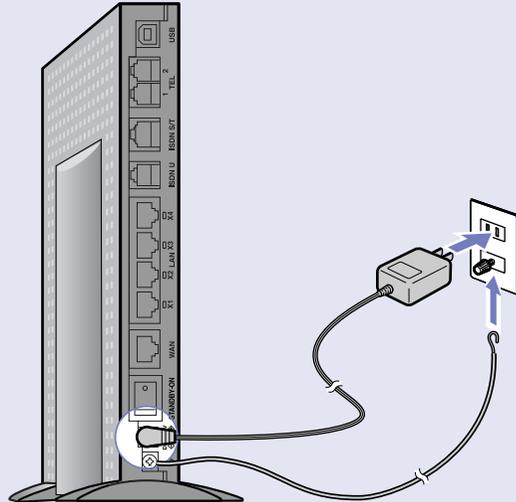


4

アースコードをアース端子へ、付属のACアダプタをコンセントに接続する。

ACアダプタを取りはずす際は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。



準備 4

ルータに
電話機や
FAXを
接続する

ISDN回線を使用する場合は、本機のTELポートに電話機やFAX、モデムなどのアナログ機器を2台まで接続できます。TEL1ポートは、バックアップ電池により停電時にも通話できますので、電話機や受話器付FAXを接続してください。

ご注意

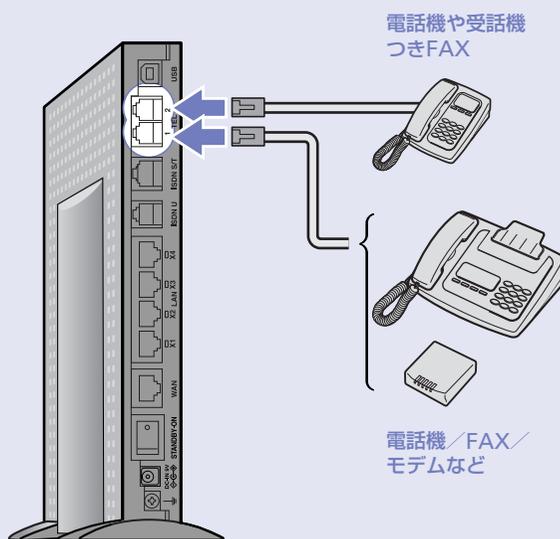
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は正しく動作しません。
- アナログ機器は2台まで接続できますが、ISDN回線を同時に使えるのはルータやTAによる通信と合わせて2通話までです。

接続する

必要なもの

モジュラーケーブル:市販の電話用ケーブルが使用できます(2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のものを除く)。アナログ機器の数や距離に合わせてご用意ください。

電話機と本機のTELポートを
モジュラーケーブルで接続する。



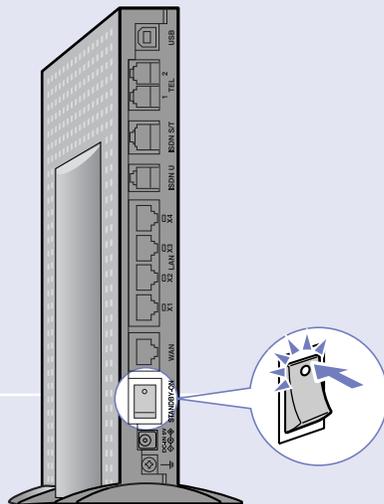
正しく接続できているか確認する

回線や電話機の接続が終わったら、ルータの動作を確認します。

1

付属のACアダプタをコンセントに接続してから、STANDBY-ONスイッチを「ON」(入)にする。

電源を入れると、ランプが何回か点滅します。



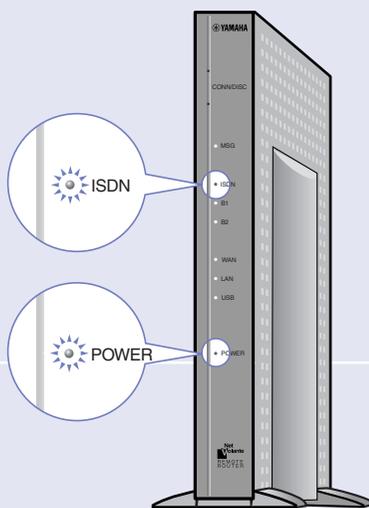
2

POWERランプとISDNランプが点灯していることを確認する。

両方のランプが点灯していれば正常です。

手順6へ進んでください。

点灯していないときは次の手順へ進み、順に確認してください。



3

POWERランプが点灯しない場合は、いったんSTANDBY-ONスイッチを「STANDBY」(スタンバイ)にしてから、以下の点を確認する。

- ACアダプタが本機のコネクタやコンセントに、しっかりと接続されていることを確認してください。
- コンセントに他の電気製品を接続し、電源が入るかどうかを確認してください。入らない場合は、ブレーカの状態や延長コードの接続を確認してください。

上記に該当しない場合は、ルータ本体またはACアダプタ不良の可能性があります。お買い上げの販売店へご相談ください。

次のページにつづく→

4

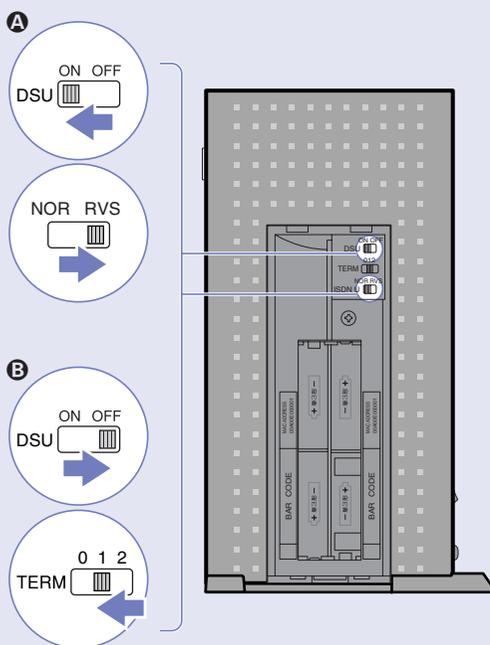
ISDNランプが消灯している場合は、いったんSTANDBY-ONスイッチを「STANDBY」(スタンバイ)にしてから、各スイッチの設定を確認する。

A 本機のDSUを使う場合

- DSUスイッチが「ON」になっていることを確認します。すでに「ON」になっている場合は、RVS/NOR(極性反転)スイッチを「RVS」(逆側)にします。
- 本機のS/Tポートに何も接続していない場合はTERMスイッチを「2」、他のISDN機器を接続している場合は「1」にします。

B 他のISDN機器のDSUを使う場合

DSUスイッチが「OFF」になっていることを確認します。すでに「OFF」になっている場合は、TERMスイッチを「1」にします。ただし、他のISDN機器のターミネータをオン(有効)にしている場合は、「0」にしてください。

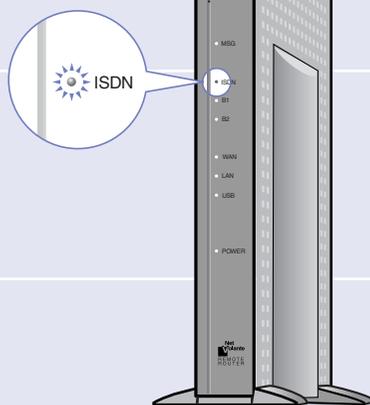


5

STANDBY-ONスイッチを「ON」(入)にして、ランプの表示を確認する。

6

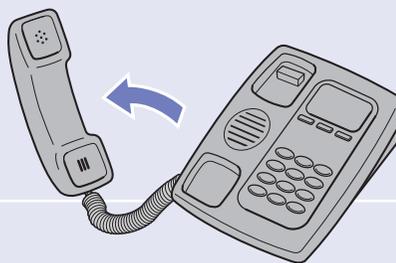
電話機を受話器を上げて、ツーという発信音を確認する。



7

試しに177などへ電話をかけてみる。

電話がつながると、B1ランプまたはB2ランプが点灯します。



8

受話器を置いて、電話を切る。

TELポートの設定を変更する

電話機やFAXなどを接続していないTELポートが「着信可能」に設定されていると、かかってきた電話がそのTELポートに着信してしまい、回線が話し中にならない場合があります。何も接続していないTELポートがある場合は、本機に接続した電話機を使って、そのTELポートを「使用しない」に設定してください(本機の工場出荷設定は、すべてのTELポートが「発信・着信可能」に設定されています)。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にして操作してください。「パルス」(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません。

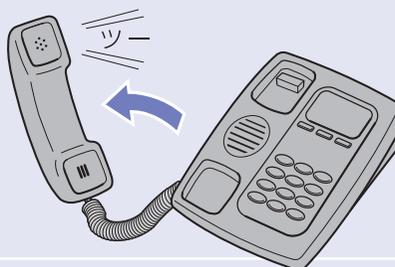
ヒント

すべてのTELポートにアナログ機器を接続している場合は、この設定は不要です。

1

本機のTELポートに接続した電話機の、受話器を上げる。

発信音が聞こえます。



2

電話機を接続していないTELポートの設定番号を押す。

- TEL1ポートを使用しない場合 * # 1 4 1 0 #
- TEL2ポートを使用しない場合 * # 1 4 2 0 #

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえたときは

設定内容が不適切だったり、設定が正常に変更されていません。

いったん受話器を置いて、手順1からやり直してください。

3

受話器を置く

ヒント

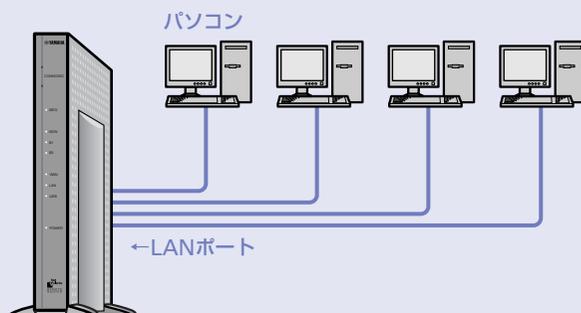
その他の電話機能の設定操作については、「活用マニュアル」(別冊)の「電話機で設定する」(21ページ)をご覧ください。

準備5

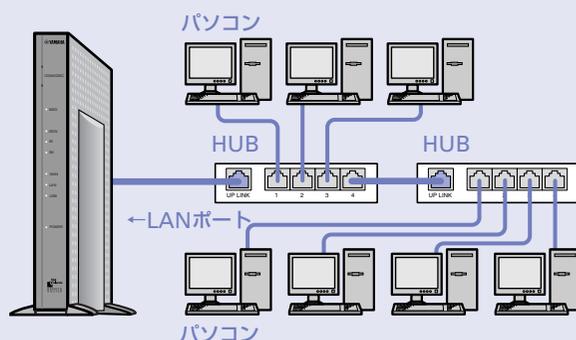
ルータに
パソコンを
接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに追加したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

4台までのパソコンを接続する場合の例



5台以上のパソコンを接続する場合の例



ご注意

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

- 本機のDHCP機能:OFF
- 本機のIPアドレス:指定されたIPアドレスに設定するか、またはDHCPクライアントとして設定する。

必要なもの

- LANケーブル:パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T/100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。本機にはストレートタイプのケーブル(3m)が1本付属しています。
- HUB:5台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた、10BASE-T/100BASE-TX対応のHUB(またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

1

本機の電源を切る。

2

パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

A パソコンを本機に直接接続する例

本機のLANポートに接続します。

B 5台以上のパソコンを接続する例

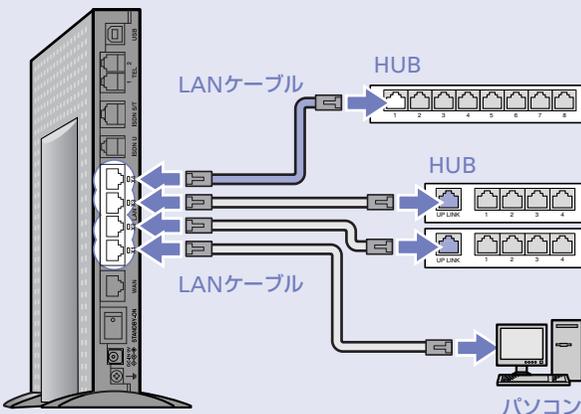
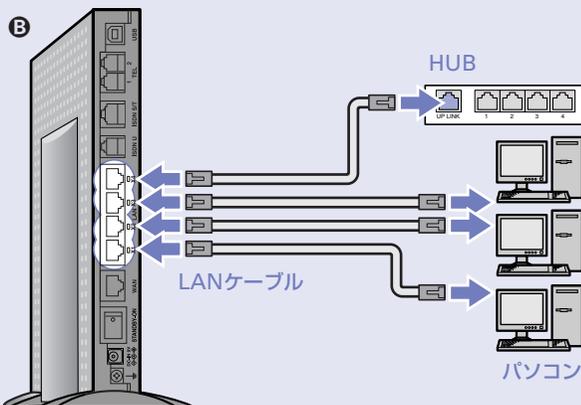
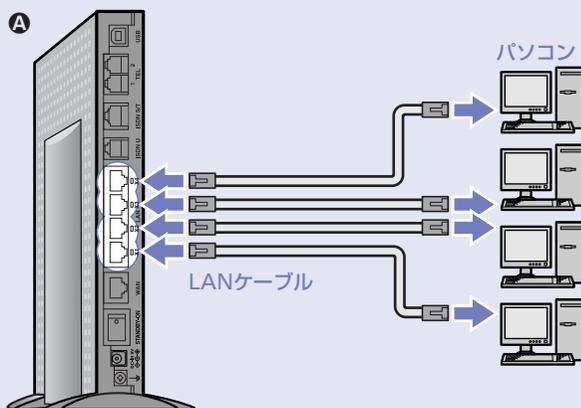
HUBの場合は、UPLINK(カスケード)ポートを接続します。

HUBにUPLINK (カスケード) ポートがない場合やUPLINKポートが空いていない場合は

HUBのポートと本機のLANポートを、市販のLANケーブルで接続してください。

ご注意

HUBは10BASE-Tの場合4段(階層)まで、10/100BASE-TX混在の場合2段(階層)までしかUPLINK(カスケード)接続できません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

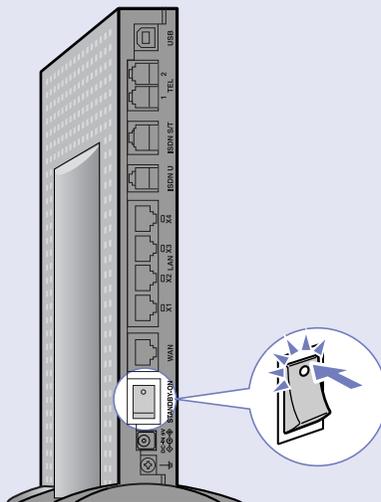


次のページにつづく→

3

本機の電源を入れる。

ランプが何回か点滅した後、POWERランプが点灯します。



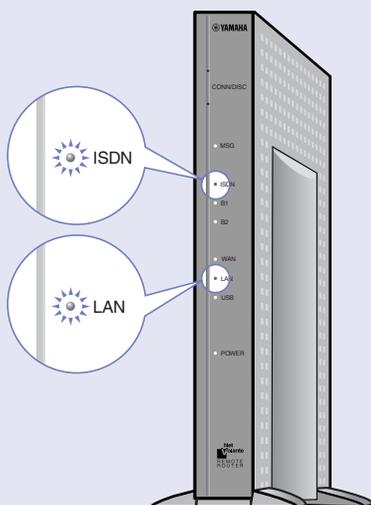
4

パソコンやHUBの電源を入れ、本機のLANランプが点灯または点滅することを確認する。

本機のLANランプとISDNランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。



ご注意

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は、「準備6 パソコンに付属ソフトウェアをインストールする」(次ページ)および「準備7 パソコンのネットワーク設定を変更する」(143ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。

準備 6

パソコンに
付属ソフト
ウェアを
インストール
する

本機には、パソコン側で本機に必要な設定をまとめて行ったり、パソコンから本機のインターネット接続／切断の操作をパソコンから行うために、以下のソフトウェアが付属CD-ROMに収録されています。

- RTA55i/パソコンセットアップ:パソコンのネットワーク機能を設定します。
- RTAssist:パソコンから本機のインターネット接続／切断を操作します。

これらのソフトウェアは簡単に設定や操作を行うためのものであり、本機を使用する上で必須のものではありません。ただし、本書ではこれらのソフトウェアを使って、パソコンの設定の方法を説明しています。ネットワーク機器の操作や設定に慣れていない方は、次ページ以降の説明にしたがって、設定操作の前にこれらのソフトウェアをインストールすることをおすすめいたします。

 **Windows95/98/
Me/2000/XPの場合**140ページ

 **MacOSの場合**142ページ

ご注意

- インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。
- Windows 2000/XPの場合は、管理者 (Administrators) でログインしてから、インストールを行ってください。

Windows 95/98/Me/2000/XPの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstPCSU]アイコンをダブルクリックする。

2

画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了]をクリックする。

これで、「RTA55iパソコンセットアップ」のインストールは完了です。



RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstAsst] アイコンをダブルクリックする。

2

画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了] をクリックする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



MacOSの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属のCD-ROMからRTA55iパソコンセットアップを直接起動できるため、パソコンへのインストール作業は不要です。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」をインストールします。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTAssist」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ]フォルダ内の[RTAssist]フォルダをハードディスクにコピーする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



準備 7

パソコンの ネットワーク 設定を 変更する

LANケーブルで接続したパソコンからインターネットに接続するには、まずパソコンのネットワーク設定を変更する必要があります。インストールした「RTA55iパソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。USBケーブルで接続する場合は、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 USB接続機能を活用する」(69ページ)をご覧ください。複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで同様に設定を行ってください。

ご注意

- 以下の説明は、Windows 95/98/Me/2000/XPおよびMacOS8.1以降(Mac OS Xを除く)の環境で、RTA55iパソコンセットアップを使って設定するためのものです。上記以外の環境でお使いの場合は、同等の設定を手動で行ってください(194ページ)。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前に、LANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- 設定を始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるため、作業中のデータが消失することがあります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RTA55iパソコンセットアップが正しく動作しないことがあります。その場合は、手動でネットワークの設定を変更してください(194ページ)。

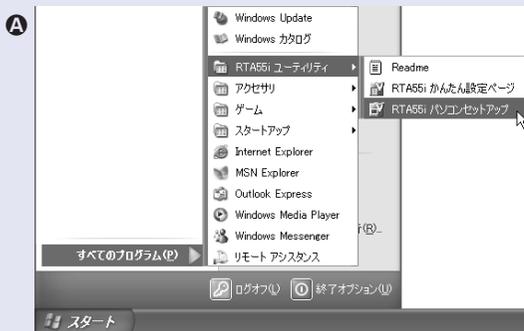
ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1

RTA55iパソコンセットアップを起動する。

㊤Windows95/98/Me/2000/XPの場合

[スタート] ボタンをクリックして、[プログラム] - [RTA55iユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ] をクリックする。



㊦Macintoshの場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ] フォルダ内の、[パソコンセットアップ] アイコンをダブルクリックする。



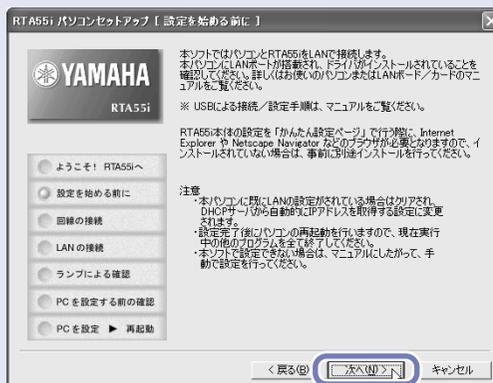
2

[次へ] をクリックする。



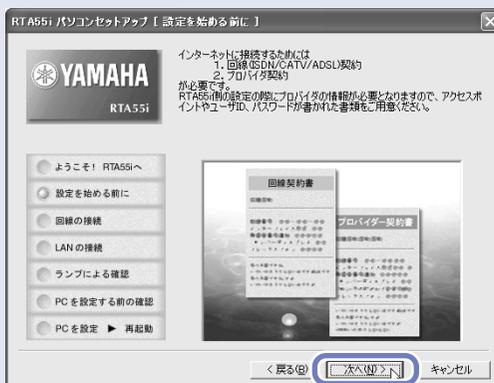
3

メッセージの内容を確認してから、[次へ] をクリックする。



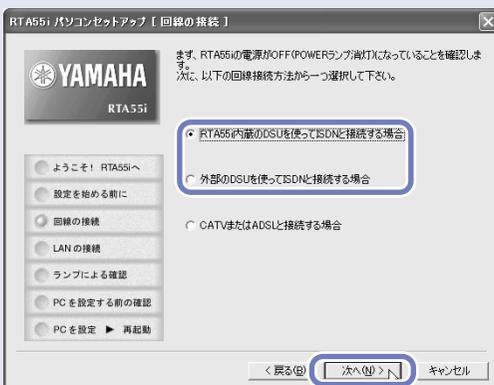
4

プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認してから、「次へ」をクリックする。



5

使用する回線接続形態を選んでから、「次へ」をクリックする。



6

接続した回線の種類と、本機後面のA スイッチの設定を確認してから、「次へ」をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備1 ルータにISDN回線を接続する」(125ページ)をご覧ください。

A RTA55i内蔵のDSUを使って、ISDNで接続する場合

B 外部のDSUを使って、ISDNで接続する場合



次のページにつづく→

7

本機のLANポートにLANケーブルが接続されていることを確認してから、**[次へ]**をクリックする。

問題がある場合は**[キャンセル]**をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備5 ルータにパソコンを接続する」(136ページ)をご覧ください。



8

本機の電源やランプの表示を確認してから、**[次へ]**をクリックする。

問題がある場合は**[キャンセル]**をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。

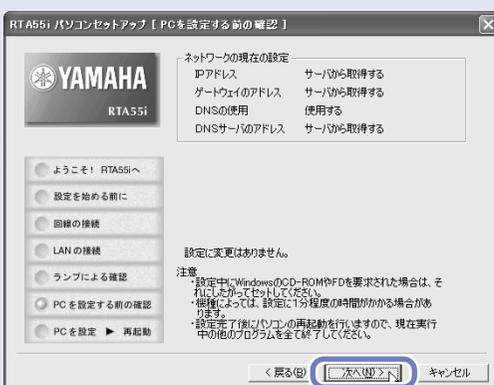


9

設定内容を確認してから、**[次へ]**をクリックする。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンの環境によっては、OS (Windows、MacOS) のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

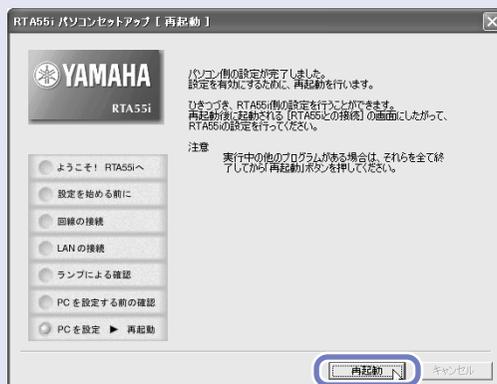
お使いのパソコンの環境によっては、ネットワーク設定の完了後に再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。



10

再起動のメッセージが表示された場合は、**[再起動]**をクリックする。

パソコンが再起動します。



11

「RTA55iと接続」画面が表示されたら、**[開く]**をクリックする。

Webブラウザが自動的に起動して、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されたら、パソコンの設定は完了です。他のパソコンも同様に設定してください。



2台目以降のパソコンを設定している場合は

「RTA55iと接続」が表示されたら、**[中止]**をクリックします。

インターネット に接続する

本機の「かんたん設定ページ」画面で端末型ダイヤルアップの接続先を設定して、インターネットに接続します。

設定する前に

プロバイダの設定資料を用意してください

設定するには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です。

- ネームサーバアドレス (DNSサーバアドレス)
- ISDN対応アクセスポイントの電話番号
- 回線速度 (64kbit/s、128kbit/s MP接続)
- ユーザID (アカウント名)
- パスワード

Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を変更するには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使用します (お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます)。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

Windows95/98/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降 (6.0以降を除く) のWebブラウザが必要です。Windows95以降にはInternet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。

ご注意

お使いのWindows95のバージョンによっては、インストールされているWebブラウザがInternet Explorer 3.0の場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

MacOSの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降 (6.0を除く) のWebブラウザが必要です。MacOS8.1以降には、Internet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定 (TA接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。

設定する

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。RTA55iパソコンセットアップで引き続き設定する場合は、手順4から始めてください。

1

本機の電源が入っていることを確認する。

2

パソコンでWebブラウザを起動して、[ファイル]メニューから[開く]を選ぶ。

3

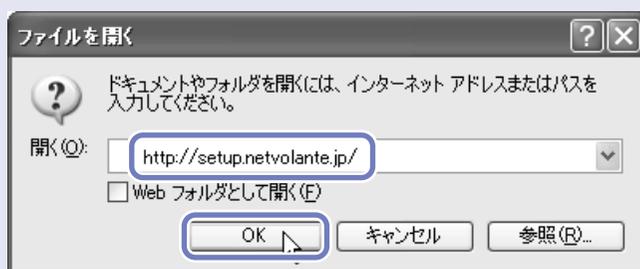
「<http://setup.netvolante.jp/>」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。

初めて開いたときは、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。2度目以降は、手順5へ進んでください。

ヒント

「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されないときは、本機とパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。



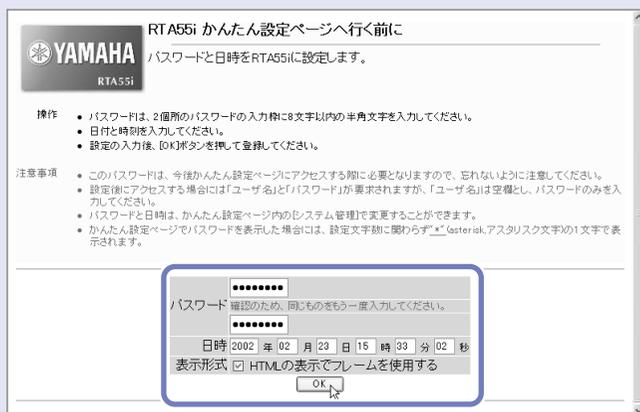
4

本機の管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定してから[OK]をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。

管理パスワードは半角英数字8文字までで、好みに合わせて決めてください(例:RTA55i00、yamaha55など)。

ご注意

管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。



次のページにつづく→

5

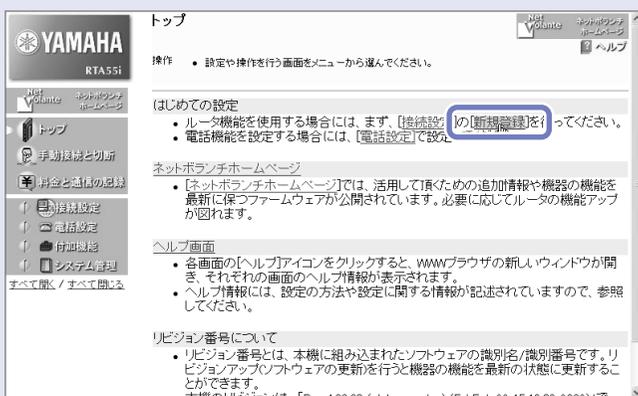
[ユーザー名] 欄を空欄にしたまま、
[パスワード] 欄にルータの管理パ
スワードを入力して、[OK] をクリッ
クする。

「トップ」画面が表示されます。



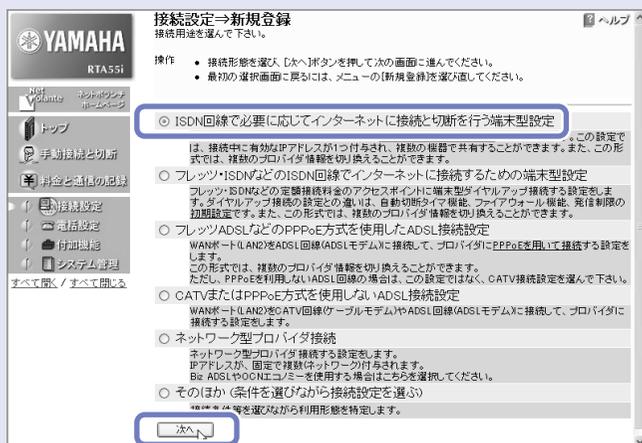
6

[新規登録] をクリックする。



7

[ISDN回線で必要に応じてインタ
ーネットに接続と切断を行う端末型
設定] を選んでから、[次へ] をクリ
ックする。



8

プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

プロバイダ名

接続先がわかるような名前を入力します。

プロバイダの電話番号

ISDN対応したアクセスポイントの電話番号を入力します。複数ある場合は、3つまで入力できます。

ユーザID

ダイヤルアップ接続用のユーザIDを入力します。ユーザIDは、メールアドレスとは異なる場合がありますので、必ず書類を確認してください。

例) username

(メールアドレスと同じ場合)

username@aaa

(サブドメインが付加される場合)

username#AB123

(識別記号が付加される場合)

ABC012345

パスワード

指定されたパスワードまたは自分で変更したパスワードを入力します。半角英数字で大文字小文字も正確に入力してください。



接続設定⇒新規登録⇒ISDN回線による端末型プロバイダ接続 ヘルプ
操作 ● 設定する場合には、設定入力後、[登録]ボタンを押してください。

プロバイダ情報

プロバイダ名(PP01)	ISP01	半角32文字以内
● プロバイダの電話番号 1	03-xxxx-xxxx	半角入力32桁以内
2		(省略可能)
3		(省略可能)
● ユーザID	username	半角入力64文字以内
● パスワード	*****	半角入力64文字以内

DNS関連

DNSサーバアドレス	IPアドレスを指定する	
プライマリDNSサーバアドレス	00.00.00.00	指定する場合半角入力
セカンダリDNSサーバアドレス	00.00.00.00	(省略可能)

登録 既定値に戻す

DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- IPアドレスを指定する: プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合に選びます。
- 接続時に自動取得する: プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合に選びます。

プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

9

入力が終わったら、[登録]をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。

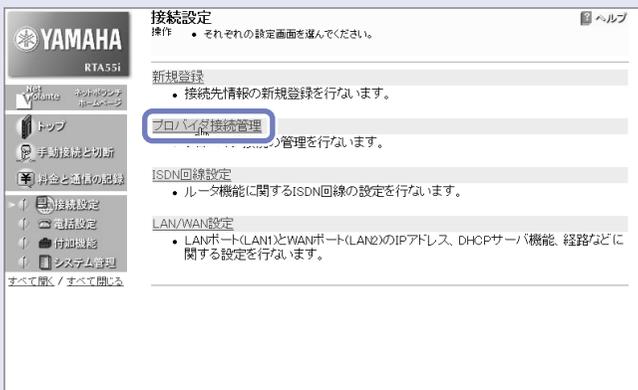
ヒント

設定したパスワードの文字数を隠すため、設定ページを再表示したときは、パスワード欄が「*」1つだけの表示となります。

次のページにつづく→

10

[プロバイダ接続管理] をクリックする。



11

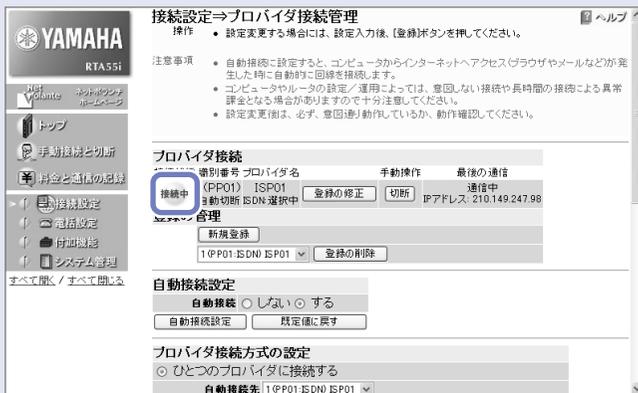
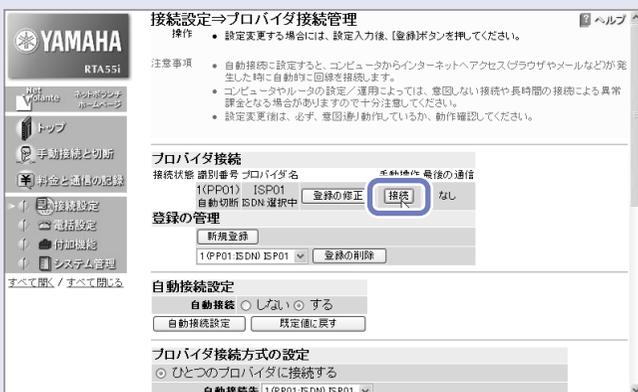
登録したプロバイダの [接続] をクリックして、手動接続してみる。

左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。インターネットへ接続中は、本機のB1ランプまたはB2ランプが点灯します。

接続できない場合は

以下のことを確認してください。

- 「相手が話中です (17)」と表示されている場合: アクセスポイントが混み合っていて、話し中になっています。同一市外局内に別のアクセスポイントがある場合は、[登録の修正] をクリックして、別の電話番号を設定し直してください。その番号しかない場合は、しばらく待ってから手動接続を行ってください。
- それ以外の失敗した理由が表示された場合: 電話番号やユーザID、パスワードの設定が間違っている可能性があります。[登録の修正] をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認したり、パスワードの大文字/小文字や全角/半角に注意して入力し直してから、もう1度手動接続を行ってください。



12

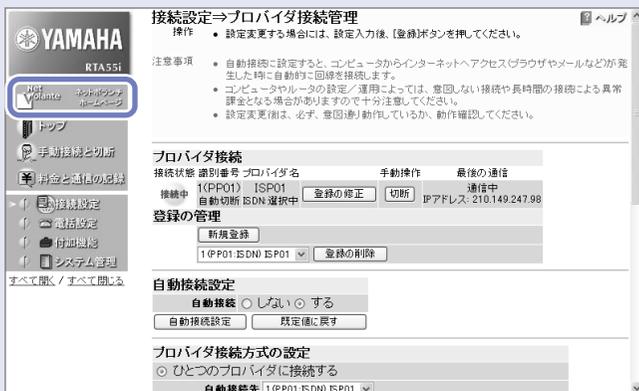
画面左上の「ネットボランチホームページ」をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は正しく行われています。

表示されない場合は

DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。

「切断」をクリックしていったん接続を切断してから、「登録の修正」をクリックして、設定内容をもう1度確認してください。



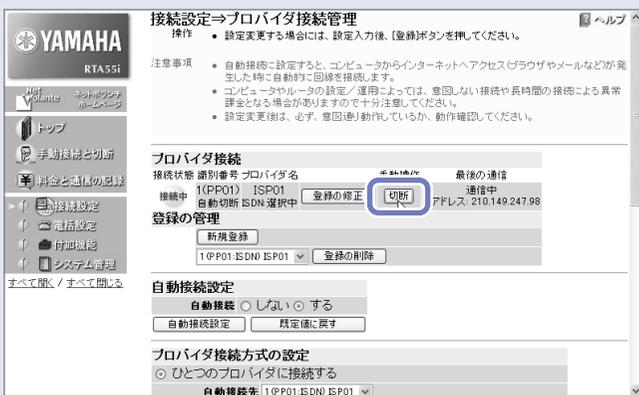
13

接続できることを確認できたら、Webブラウザの「戻る」をクリックして、「プロバイダ接続管理」画面に戻り、登録したプロバイダの「切断」をクリックして、手動切断する。

手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

ヒント

プロバイダ登録を新規に行くと、自動的に発信制限が累積料金1万円、累積通信時間50時間、累積発信回数1000回に設定されます。また連続接続時間も9時間に制限されるように設定されます。



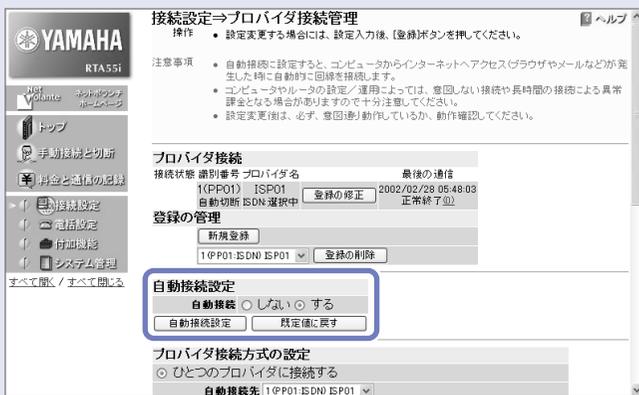
14

「自動接続設定」が「する」に設定されていて、「自動接続先」に登録したプロバイダが選ばれていることを確認する。

これで、ルータの端末型ダイヤルアップ接続設定は完了です。

ご注意

自動接続を設定すると、パソコンやソフトウェアの設定により、意図しない接続や課金が発生することがあります。自動接続したくないときは、「しない」を選んでから「自動接続設定」をクリックして、設定を解除してください。



インターネット接続を開始する

本機はインターネットへ自動的に接続します

本機はLAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると、自動的にインターネットへ接続します。通常は、パソコンでホームページを閲覧したり、新着メールを確認するだけで、自動的に接続/切断できます。本機のボタンや付属のソフトウェアで、手動で接続/切断することもできます。

💡 ヒント

自動的に接続したくないときは、「かんたん設定ページ」の[プロバイダ接続管理]画面で変更できます。ボタンによる接続/切断をする場合は、あらかじめ「CONN/DISCボタンによる接続/切断設定」で変更する必要があります。初期設定では、ボタンによる接続は[しない]、ボタンによる切断は[する]に設定されています。

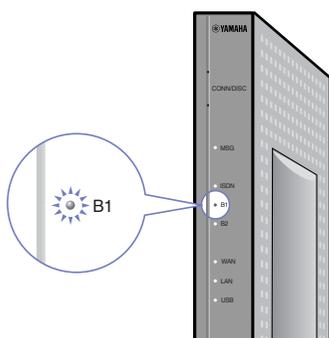
⚠️ ご注意

- お使いのソフトウェアの設定によっては、定期的にインターネットに接続されて、電話料金が異常に多くなることがあります。ときどき接続記録を見て、意図しない接続がないか、確認してください。詳しくは、「困ったときは」(別冊)の「通信料金に異常がある」(28ページ)をご覧ください。
- ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコンを起動しているだけで自動的に動作しているものがあります。知らないうちに自動発信を繰り返している場合があるので、十分ご注意ください。詳しくは、「困ったときは」(別冊)の「通信料金に異常がある」(28ページ)をご覧ください。

自動で接続する

自動接続の場合は、接続のための操作は必要ありません。WebブラウザでURLを入力したり、電子メールソフトウェアで送信や受信の操作を行うだけで、自動的にインターネットへ接続します。

インターネットへ接続しているときは、B1ランプまたはB2ランプが点灯または点滅します。

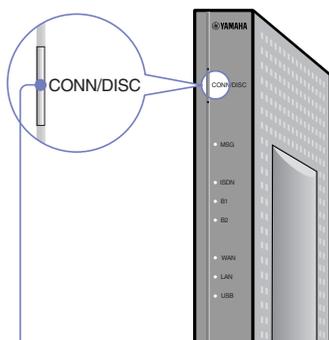


CONN/DISCボタンで接続する

「かんたん設定ページ」の「接続設定」画面で[CONN/DISCボタンによる手動接続]の設定を[する]にしてある場合は、本機のボタンを押して手動で接続できます。この機能を使うときは、先に「かんたん設定ページ」で設定を行ってください。

⚠️ ご注意

- 本機の初期設定は、[CONN/DISCボタンによる手動接続]が[しない]になっています。また、接続先は「かんたん設定ページ」で指定したプロバイダになります。
- 本機をTAとして使用している場合は、CONN/DISCボタンを押しても接続できません。
- CONN/DISCボタンを押しても、アナログポートの接続はできません。



CONN/DISCボタンを2秒以上押し続ける。
B1ランプまたはB2ランプが点灯または点滅して、インターネットへ接続します。

インターネット接続を終了する

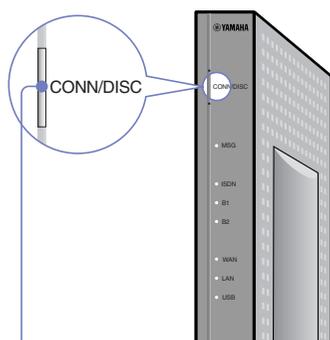
本機はインターネットへの接続を自動的に切断します

ルータはLAN内から一定時間インターネットへのアクセスがないと、次の通話課金単位時間（ISDN回線でのダイヤルアップ接続の場合、初期設定では3分毎）で自動切断します。切断条件の設定は、「かんたん設定ページ」で変更できます。本機のボタンや付属のソフトウェアで、手動で切断することもできます。

自動で切断する

自動切断が設定されている場合は、切断のための操作は必要ありません。Webブラウザによるアクセスや、電子メールソフトウェアの送受信操作を一定時間行わないと、自動的に次の通話課金単位時間（初期設定では3分毎）で切断されます。

切断されると、B1ランプまたはB2ランプが消灯します。



CONN/DISCボタンを1秒以上押し続ける。インターネット接続が切断され、点灯または点滅していたB1ランプまたはB2ランプが消灯します。

CONN/DISCボタンで切断する

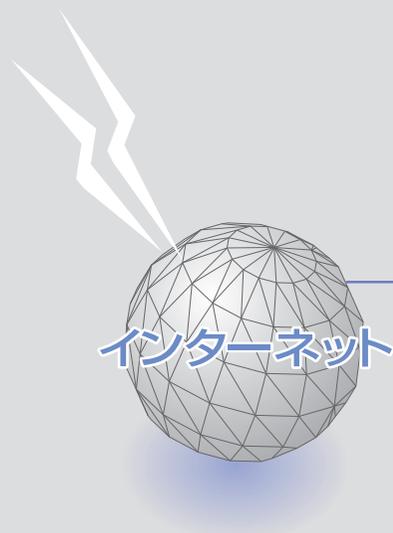
ご注意

- 本機をTAとして使用している場合は、CONN/DISCボタンを押しても切断できません。
- CONN/DISCボタンを押しても、アナログポートの切断はできません。

ヒント

本機の初期設定は、[CONN/DISCボタンによる切断]が[する]になっています。ボタン切断の設定は「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続管理」画面で変更できます。

第 7 章

ISDN回線
で常時接続する
フレッツ・ISDN

フレッツ・ISDN接続は、ISDN回線の1チャンネルを使ってインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域の電話局がフレッツ・ISDNに対応していれば、利用できます。

USBケーブルで本機とパソコンを接続して、TA(ターミナルアダプタ)接続でインターネットに接続することもできます。詳しくは、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 USB接続機能を活用する」(69ページ)をご覧ください。

CATV

通常ADSL接続 フレッツ・ADSL接続

ADSL

Bフレッツ接続

OPTICAL

ターミナルアダプタ接続 フレッツ・ISDN接続

ISDN

フレッツ・ISDN 接続とは?

フレッツ・ISDN接続は、ISDN回線の1チャンネルを使ってインターネットへ常時接続する方法です。お住まいの地域の電話局がフレッツ・ISDNに対応していれば、利用できます。NTTと「フレッツ・ISDN」契約を行った後、フレッツ・ISDN対応プロバイダに「フレッツ・ISDN接続」の契約をお申し込みください。

必要な条件

- ISDN回線を接続している電話局がフレッツ・ISDNに対応していること。
- プロバイダがルータによる複数台パソコン接続を認めていること。

必要な契約

- ISDN回線契約 (159ページ)
- 「フレッツ・ISDN」契約 (NTTと契約)
- 「フレッツ・ISDN接続」契約 (フレッツ・ISDN接続対応のプロバイダと契約)

設定を行うためには、プロバイダから通知される以下の情報が必要です

契約時に入手した接続情報の書類をご確認ください。

- NTTから通知される情報: フレッツ・ISDN用アクセスポイントの電話番号
- プロバイダから通知される情報
 - ネームサーバアドレス (DNSサーバアドレス)
 - ユーザID (アカウント名)
 - パスワード



インターネット

回線契約についてのご注意

ISDN端末型ダイヤルアップをする場合は、ISDN回線が必要です。

新たにISDN回線を引く場合は、NTTへお申し込みください。申込票の各項目は、下記を参考に記入してください。

お取付工事（お客さま工事、またはNTT工事）

- 通信機器の名称 RTA55i
- メーカー YAMAHA
- 認証番号 CD02-0174JP
- DSU DSU内蔵型TA

コンサルティング項目

- インタフェース形態およびレイヤ1起動種別
P-MP常時またはP-MP呼毎
 - 発信者番号通知サービス 通常通知（通話ごと非通知）*
 - ユーザ間情報通知サービス 着信許可
 - 通信中着信通知サービス 許可
 - グローバル着信 有
 - i-ナンバーサービス 複数の電話番号を取得したい場合（3つまで）*
 - ダイヤルインサービス 4つ以上の電話番号を取得したい場合*
- * 「通常非通知（回線ごと非通知）」を選択した場合は、番号通知を利用した一部のサービスが受けられない場合があります。

ご注意

- コンサルティング項目の無料項目については、なるべく「許可」で申し込むことをお勧めします。実際に使うときの動作は、本機の機能で使わないように設定することができます。
- 電池駆動時の電池節約のために、インタフェース形態およびレイヤ1起動種別は「P-MP呼毎」で申し込むことをおすすめします。

プロバイダ

NTT
NTTネットワーク

電話局

ISDN回線
(フレッツ・ISDN)

本機設置場所

ISDNの付加サービスについて

ISDN回線では、次のようなサービスが利用できます。サービスによって申し込みが必要なものや有料のものがああります。この他にもさまざまなサービスがありますので、詳しくはNTTへお問い合わせください。

発信者番号通知	発信者の番号を相手に通知できます。
サブアドレス通知	ISDN回線やPHSからの通話の場合に、接続したい機器を指定して着信させることができます。
ナンバー・ディスプレイ(有料)	着信時に発信者の番号が通知されます。
i・ナンバー(有料)	電話番号を最大2つまで増設でき、アナログ回線からの通話でも最大3つの電話番号を使い分けて着信させることができます。
ダイヤルイン(有料)	電話番号を最大99個まで増設できます。アナログ回線からの通話でも電話番号を使い分けて着信させることができます。
料金情報通知	通話にかかった料金が通知されるサービスです。回線から通知される料金は、小数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスが適用されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安と考えてください。また、NTT以外の通信業者では通知されません。
ユーザ間情報通知	通信開始時と終了時にメッセージを送受信できます。
通信中着信通知サービス	通話中に着信を知らせるサービスです。

フレックスホン

INSキャッチホン(有料)	通話中に着信があったとき、通話中の相手を保留にして着信に応答できるキャッチホンサービスです。
三者通話(有料)	通話中に第三者を呼び出し、三者間通話ができます。
通信中転送(有料)	通話中の通信を第三者へ転送できます。
着信転送(有料)	着信した通信を応答する前に第三者へ転送できます。

ご注意

- 本機では、フレックスホンとほぼ同等の機能を本機だけで実現できます。フレックスホン同様に4つのサービスの先頭に「擬似」を付けて、擬似キャッチホン、擬似通信中転送、擬似三者通話、擬似着信転送と呼んで区別しています。詳しくは、「活用マニュアル」(別冊)の「第3章 電話を使う」(33～55ページ)をご覧ください。
- NTTのフレックスホンは、回線の状態にかかわらず利用できます。
- 擬似フレックスホンでは、ISDN回線の2チャンネル同時に通信できる特徴を利用して、擬似的に同等の機能を実現しています。そのため、擬似フレックスホン使用時は2チャンネル共に通話中となり、それに伴った課金が行われます。インターネット接続などで、すでに1チャンネルを接続している状態では、擬似フレックスホン機能は使用できません。

準備 1

ルータに ISDN回線を接続する

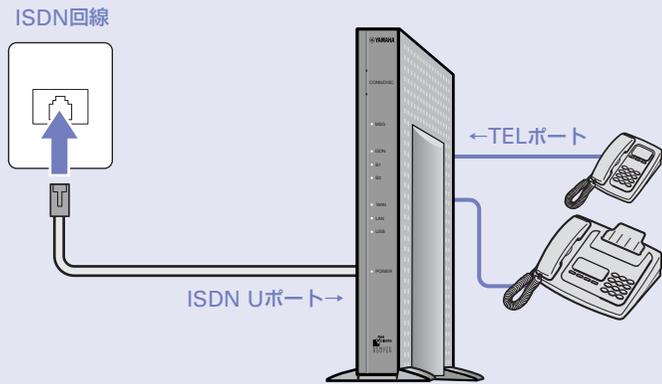
ISDN回線で端末型ダイヤルアップ接続を行う場合は、以下の方法で接続します。

ご注意

本機のDSUを使用するかどうかによって、接続が異なります。ISDN回線の申込票をご確認の上、該当する方法で接続してください。

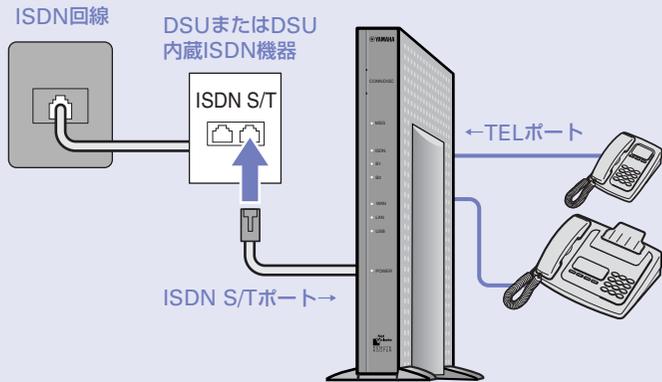
本機のDSUを使う場合 (162ページ)

- 通常はこの方法で接続します。
- 申込票の「DSU」項目で、「DSU内蔵TA」を選択したとき
- 工事後のISDN回線が、通常のモジュラージャックと同じ形 (6極端子) をしているとき



他のISDN機器のDSUを使う場合 (163ページ)

- 他のISDN機器やDSU経由でISDN回線と接続する場合は、この方法で接続します。
- 申込票の「DSU」項目で、「NTT工事」を選択したとき
- 工事後のISDN回線が、通常のモジュラージャックより幅の広い形 (8極端子) をしているとき

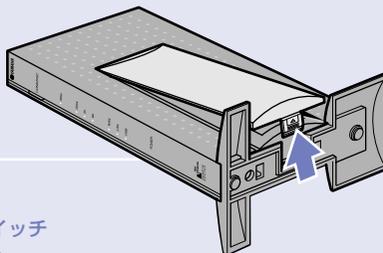


本機のDSUを使ってISDN回線に接続する

必要なもの

モジュラーケーブル: 一般に市販の電話用ケーブルが使用できません(2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のものとは除く)。接続に必要な距離に合わせてご用意ください。本機には1本(3m)付属しています。

1
電池ボックスカバーを図の方向に押して、開く。



2
DSUスイッチを「ON」に合わせる。

DSUスイッチ

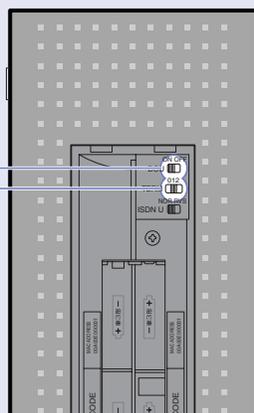


3
TERM (ターミネータ) スイッチを「2」に合わせる。

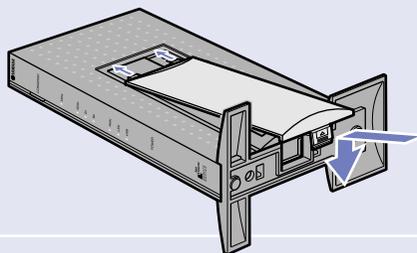
ヒント

本機のS/Tポートに他のISDN機器を接続する場合は、TERM (ターミネータ) スイッチを「1」に合わせます。この場合は、一番末端に接続したISDN機器のターミネータを、「入」(有効)にしてください。

TERMスイッチ



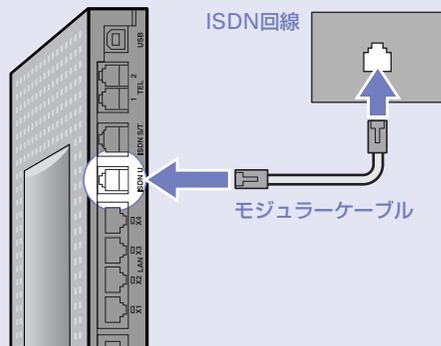
4
カバー上部のツメを合わせて、電池ボックスカバーを閉じる。



5
回線のモジュラージャックと本機のISDN Uポートを、モジュラーケーブル(灰色)で接続する。

ご注意

ISDN回線の場合は、本機のS/Tポートに他のISDN機器を接続して使うこともできます。ただし、DSUを切り離せない形式のDSU内蔵機器がある場合は、以下の手順でその機器のDSUを使って接続する必要があります。



他のISDN機器のDSUを使ってISDN回線に接続する

複数のISDN機器を接続する場合は、本機が一番末端になるように接続します。

必要なもの

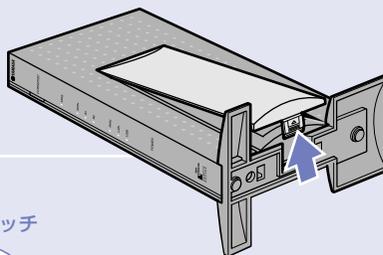
ISDNケーブル:市販のISDNケーブルをご用意ください。ただし、DSUや各ISDN機器間の総延長が150m以内になるようにしてください。

ご注意

ISDNケーブルは、LANケーブルのコネクタ(RJ-45)と同じ形状をしています。間違えないように注意してください。

1

電池ボックスカバーを図の方向に押して、開く。



2

DSUスイッチを「OFF」に合わせる。

DSUスイッチ



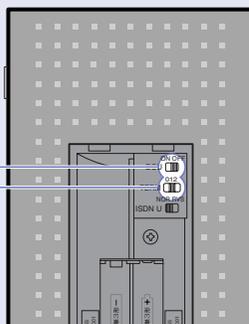
3

TERM (ターミネータ) スイッチを「1」に合わせる。

ヒント

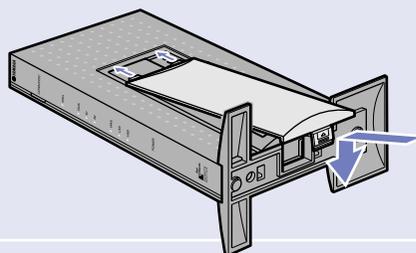
他のISDN機器のターミネータを有効にする場合は、本機のターミネータスイッチを「0」に合わせてください。

TERMスイッチ



4

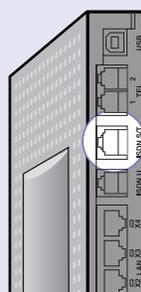
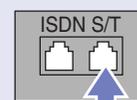
カバー上部のツメを合わせて、電池ボックスカバーを閉じる。



5

DSU (またはISDN機器のS/Tポート) と本機のISDN S/Tポートと、ISDNケーブルで接続する。

ISDN回線



ISDNケーブル

準備 2

バックアップ
電池を取り
付ける

ISDN回線に接続している場合には、本機にバックアップ用のアルカリ乾電池を入れると、停電してもTEL1ポートに接続したアナログ電話機で約2時間通話できるようになります。

ご注意

電池駆動時には、ルータやTA機能、TEL2ポートは使用できません。

ヒント

- 停電以外の時は、乾電池を入れなくても本機を使用できます。
- 本機をCATVやADSL、専用線に接続する場合や、ISDN回線に接続せずに使用する場合（内線通話を除く）はTELポートは使えませんので、乾電池は不要です。

必要なもの

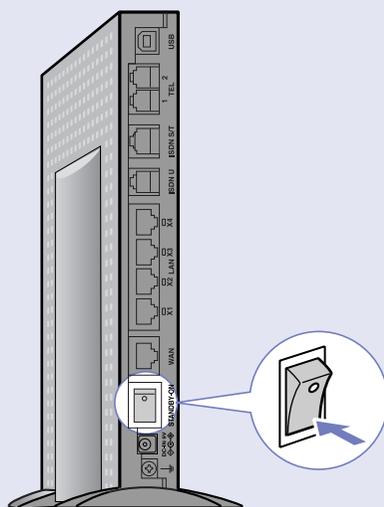
- **乾電池**:同一銘柄で保証期間内の、新品単3形アルカリ乾電池を4本ご用意ください。

警告

電池の破裂や液もれ、発熱による火災や怪我、周辺の汚損の原因になるので、以下の点にご注意ください。

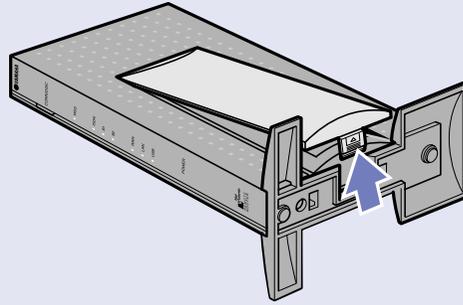
- 消耗した乾電池は早めに交換してください。
- 新しい乾電池と、1度使用した乾電池を混ぜて使用しないでください。
- メーカーや種類の異なる乾電池（アルカリとマンガンなど）を混ぜて使用しないでください。同じ形状でも性能の異なるものがあります。
- 乾電池が液漏れをした場合は、ただちに乾電池を破棄してください。漏れた液にふれたり、衣類などに付着しないようにしてください。新しい乾電池を入れる前に電池ケース内をきれいにふいてください。
- 長時間使用しない場合は、電池を取り外してください。
- 電池から漏れた液が目に入った場合は、こすらずにすぐに大量のきれいな水で洗った後、医師の治療を受けてください。失明等の障害のおそれがあります。
- 電池から漏れた液が皮膚や衣服に付着した場合は、すぐに大量のきれいな水で洗ってください。化学やけどなどの障害の恐れがあります。
- 電池から漏れた液が口に入った場合は、すぐにうがいをして医師に相談してください。

1
STANDBY-ON (電源) スイッチが「STANDBY」(スタンバイ)になっていることを確かめる。



2

電池ボックスカバーを図の方向に押し開く。

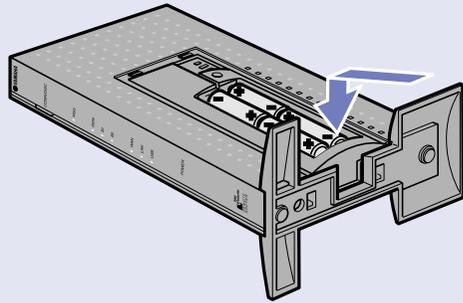


3

乾電池を右図の向きにあわせて入れる。

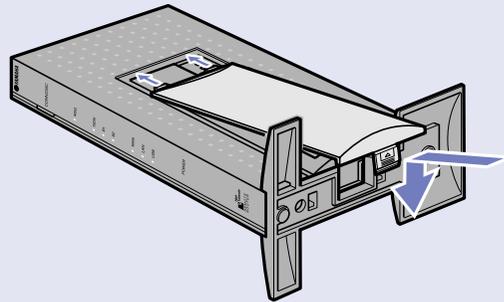
⚠ 警告

乾電池を入れるときには、電池のプラス(+) マイナス(-)を本体の表示に合わせてください。向きを間違えて入れると、電池の破裂や液漏れにより、火災・化学やけど、周囲を汚損する原因となることがあります。



4

電池ボックスカバーを閉じる。



準備 3

電源を
接続する

アースコードを接続してから、付属のACアダプタ (P9V1.1A) をコンセントに接続します。

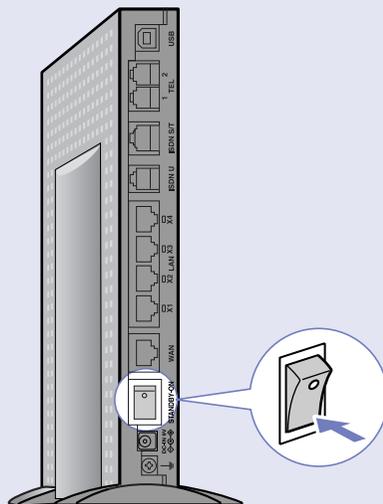
ご注意

- ACアダプタは、必ず本機に付属のものを使用してください。他のACアダプタを使用すると、火災や感電、故障の原因になります。
- 本機のアースコードは必ず接続してください。感電防止やノイズ防止の効果があります。
- アースコードは必ずコンセントのアース端子に接続してください。ガス管などには絶対に接続しないでください。

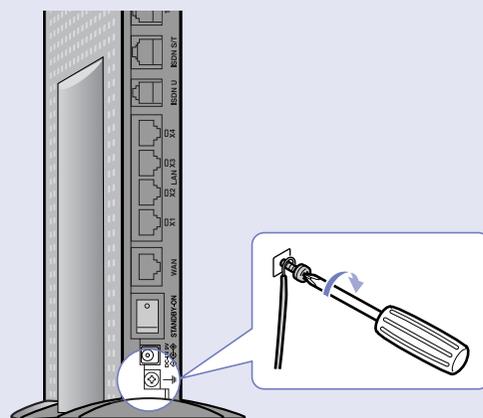
必要なもの

- **アースコード**: 設置場所に合わせて市販のアースコードをご用意ください。
- **ACアダプタ**: 本機に付属のACアダプタ (P9V1.1A) をご使用ください。

1
STANDBY-ON (電源) スイッチが「STANDBY」(スタンバイ)になっていることを確かめる。

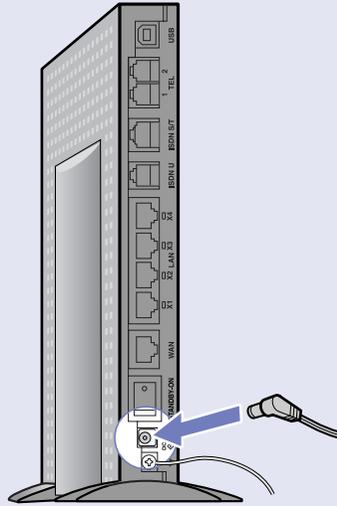


2
アース端子のネジを ドライバで少しゆるめてから、アースコードをアース端子に接続して固定する。



3

付属のACアダプタ (P9V1.1A) のコネクタを本機の電源コネクタに接続する。

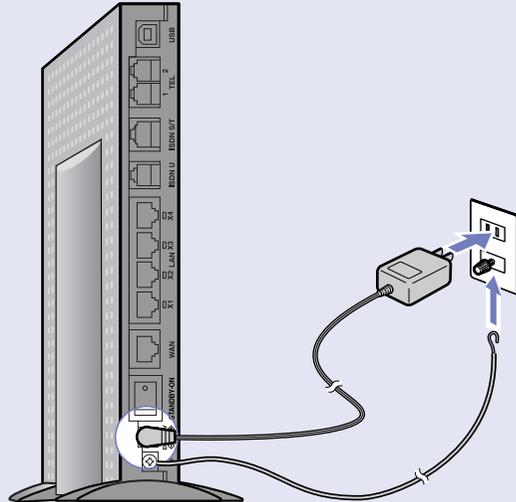


4

アースコードをアース端子へ、付属のACアダプタをコンセントに接続する。

ACアダプタを取りはずす際は

先にACアダプタを取りはずしてから、アースコードを取りはずしてください。



準備 4

ルータに
電話機や
FAXを
接続する

ISDN回線を使用する場合は、本機のTELポートに電話機やFAX、モデムなどのアナログ機器を2台まで接続できます。TEL1ポートは、バックアップ電池により停電時にも通話できますので、電話機や受話器付FAXを接続してください。

ご注意

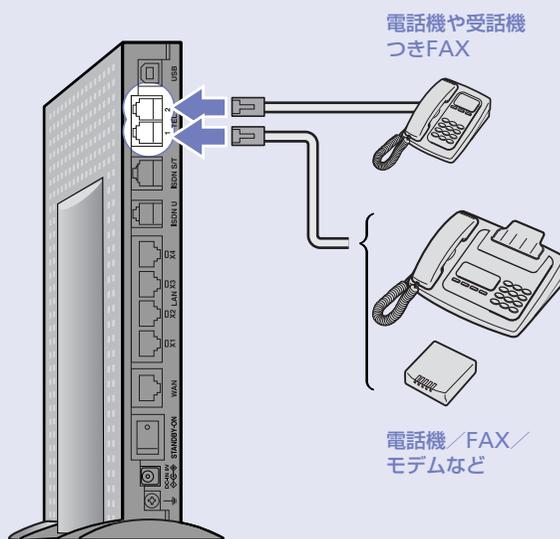
- 各TELポートにはアナログ機器1台のみ接続可能です。分岐アダプタや切替器などで2台以上接続した場合は正しく動作しません。
- アナログ機器は2台まで接続できますが、ISDN回線を同時に使えるのはルータやTAによる通信と合わせて2通話までです。

接続する

必要なもの

モジュラーケーブル:市販の電話用ケーブルが使用できます(2極用、4極用、6極用のいずれでも可、ただしビジネスホン専用の特殊な結線のものを除く)。アナログ機器の数や距離に合わせてご用意ください。

電話機と本機のTELポートを
モジュラーケーブルで接続する。



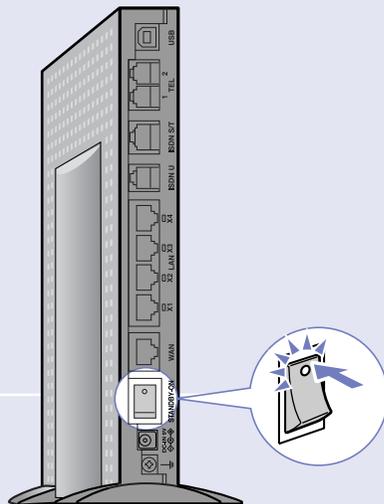
正しく接続できているか確認する

回線や電話機の接続が終わったら、ルータの動作を確認します。

1

付属のACアダプタをコンセントに接続してから、STANDBY-ONスイッチを「ON」(入)にする。

電源を入れると、ランプが何回か点滅します。



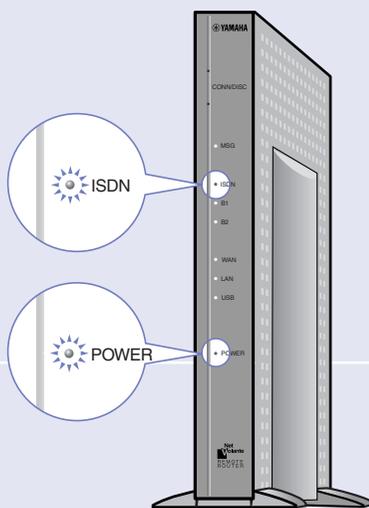
2

POWERランプとISDNランプが点灯していることを確認する。

両方のランプが点灯していれば正常です。

手順6へ進んでください。

点灯していないときは次の手順へ進み、順に確認してください。



3

POWERランプが点灯しない場合は、いったんSTANDBY-ONスイッチを「STANDBY」(スタンバイ)にしてから、以下の点を確認する。

- ACアダプタが本機のコネクタやコンセントに、しっかりと接続されていることを確認してください。
- コンセントに他の電気製品を接続し、電源が入るかどうかを確認してください。入らない場合は、ブレーカの状態や延長コードの接続を確認してください。

上記に該当しない場合は、ルータ本体またはACアダプタ不良の可能性があります。お買い上げの販売店へご相談ください。

次のページにつづく→

4

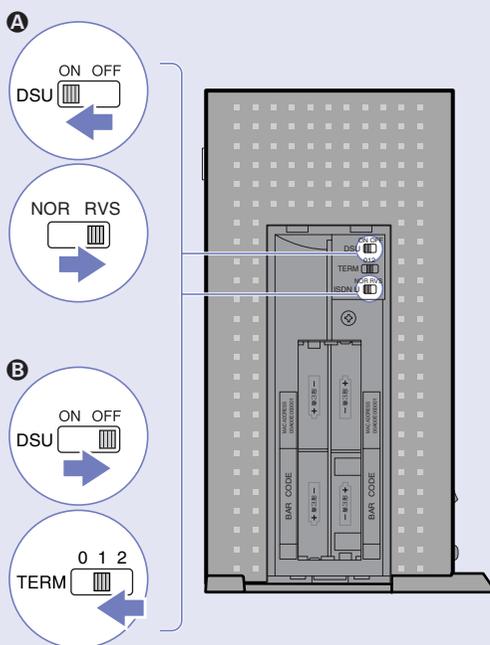
ISDNランプが消灯している場合は、いったんSTANDBY-ONスイッチを「STANDBY」(スタンバイ)にしてから、各スイッチの設定を確認する。

Ⓐ 本機のDSUを使う場合

- DSUスイッチが「ON」になっていることを確認します。すでに「ON」になっている場合は、RVS/NOR(極性反転)スイッチを「RVS」(逆側)にします。
- 本機のS/Tポートに何も接続していない場合はTERMスイッチを「2」、他のISDN機器を接続している場合は「1」にします。

Ⓑ 他のISDN機器のDSUを使う場合

DSUスイッチが「OFF」になっていることを確認します。すでに「OFF」になっている場合は、TERMスイッチを「1」にします。ただし、他のISDN機器のターミネータをオン(有効)にしている場合は、「0」にしてください。

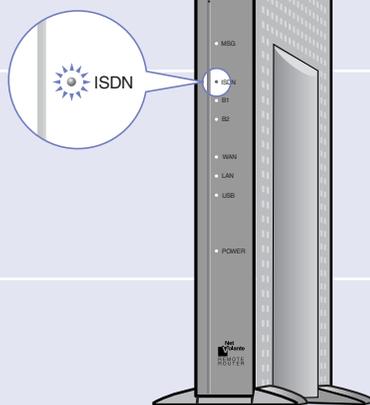


5

STANDBY-ONスイッチを「ON」(入)にして、ランプの表示を確認する。

6

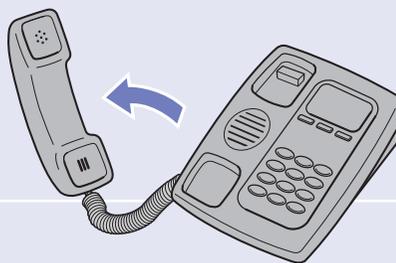
電話機を受話器を上げて、ツーという発信音を確認する。



7

試しに177などへ電話をかけてみる。

電話がつながると、B1ランプまたはB2ランプが点灯します。



8

受話器を置いて、電話を切る。

TELポートの設定を変更する

電話機やFAXなどを接続していないTELポートが「着信可能」に設定されていると、かかってきた電話がそのTELポートに着信してしまい、回線が話し中にならない場合があります。何も接続していないTELポートがある場合は、本機に接続した電話機を使って、そのTELポートを「使用しない」に設定してください(本機の工場出荷設定は、すべてのTELポートが「発信・着信可能」に設定されています)。

ご注意

電話機のダイヤル設定は、必ず「トーン」(プッシュ)にして操作してください。「パルス」(ダイヤル)の設定およびトーンの機能がない電話機では、設定できません。

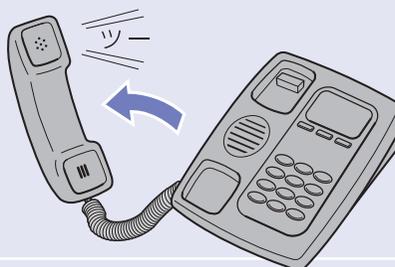
ヒント

すべてのTELポートにアナログ機器を接続している場合は、この設定は不要です。

1

本機のTELポートに接続した電話機の、受話器を上げる。

発信音が聞こえます。



2

電話機を接続していないTELポートの設定番号を押す。

- TEL1ポートを使用しない場合

＊ # 1 4 1 0 #

- TEL2ポートを使用しない場合

＊ # 1 4 2 0 #

「ピー」という音が聞こえて、設定が変更されます。

「ピー、ピー」と聞こえたときは

設定内容が不適切だったり、設定が正常に変更されていません。

いったん受話器を置いて、手順1からやり直してください。

3

受話器を置く

ヒント

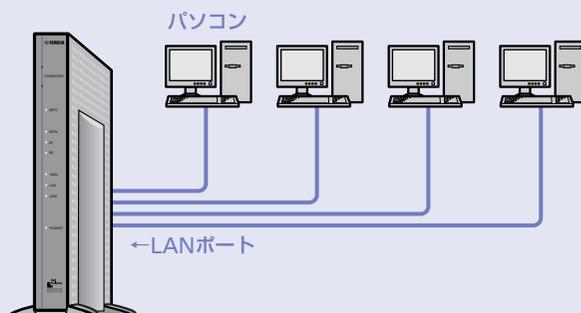
その他の電話機能の設定操作については、「活用マニュアル」(別冊)の「電話機で設定する」(21ページ)をご覧ください。

準備5

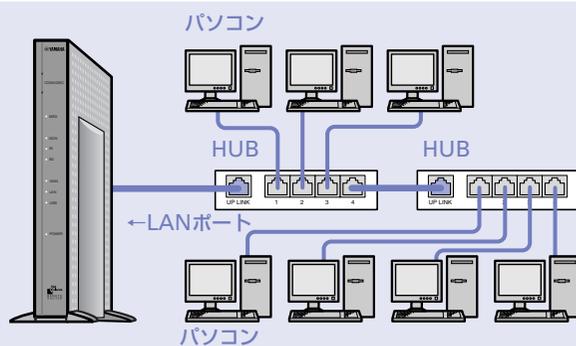
ルータに
パソコンを
接続する

パソコンのLANポートに接続する場合や既存のLANに接続する場合は、本機のLANポートに接続します。本機のLANポートには、パソコンを4台まで直接接続できます。5台以上のパソコンを接続したいときや、既存のLANに追加したい場合は、市販のHUBまたはスイッチングHUBをお使いください。

4台までのパソコンを接続する場合の例



5台以上のパソコンを接続する場合の例



ご注意

DHCPサーバを使用しているLANに本機を接続する場合は、下記の設定が必要です。設定を行わないとLANの通信ができなくなります。

- 本機のDHCP機能:OFF
- 本機のIPアドレス:指定されたIPアドレスに設定するか、またはDHCPクライアントとして設定する。

必要なもの

- LANケーブル:パソコンの台数や距離に合わせて10BASE-T/100BASE-TX対応のLANケーブルをご用意ください。本機にはストレートタイプのケーブル(3m)が1本付属しています。
- HUB:5台以上のパソコンを接続する場合は、パソコンの台数に合ったポート数を備えた、10BASE-T/100BASE-TX対応のHUB(またはスイッチングHUBなど)をご用意ください。

1

本機の電源を切る。

2

パソコンのLANポートやHUBのポートと本機のLANポートを、LANケーブルで接続する。

A パソコンを本機に直接接続する例

本機のLANポートに接続します。

B 5台以上のパソコンを接続する例

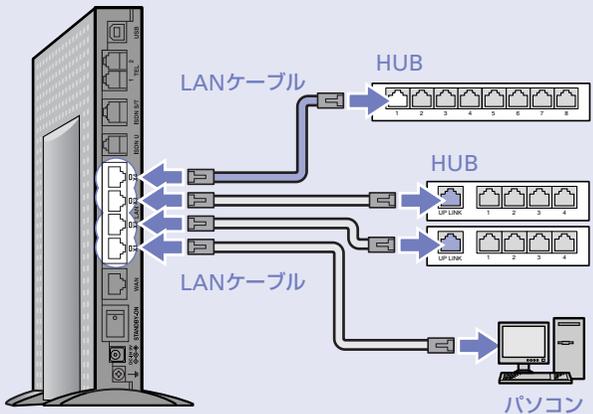
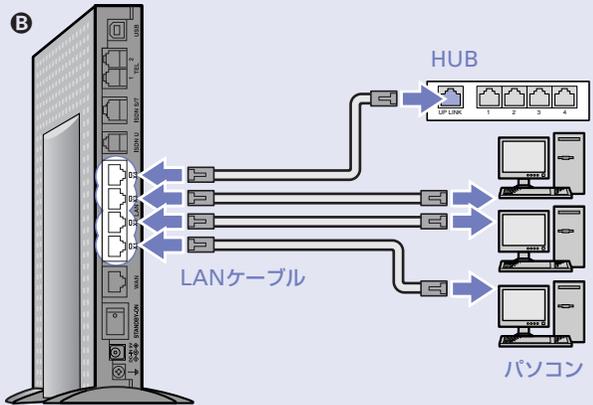
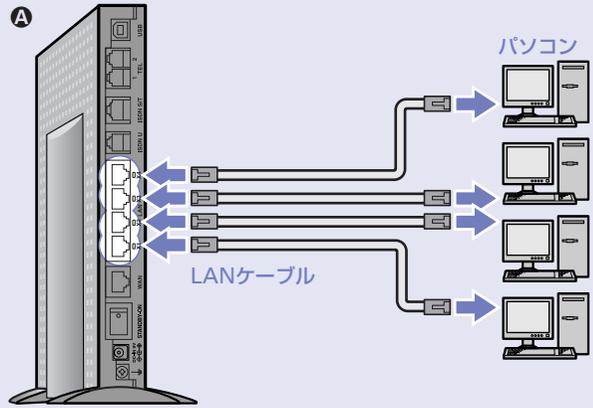
HUBの場合は、UPLINK(カスケード)ポートを接続します。

HUBにUPLINK(カスケード)ポートがない場合やUPLINKポートが空いていない場合は

HUBのポートと本機のLANポートを、市販のLANケーブルで接続してください。

ご注意

HUBは10BASE-Tの場合4段(階層)まで、10/100BASE-TX混在の場合2段(階層)までしかUPLINK(カスケード)接続できません。ポート数の多いHUBやスイッチングHUBなどを使用して、階層数が規定以内になるように設置してください。

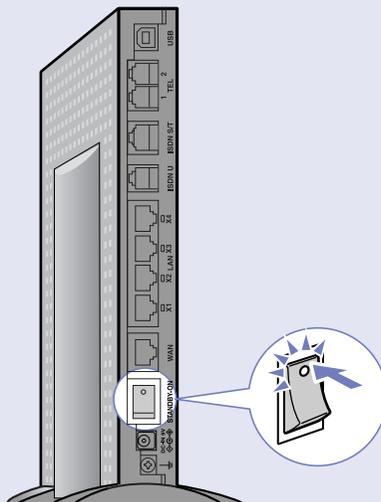


次のページにつづく→

3

本機の電源を入れる。

ランプが何回か点滅した後、POWERランプが点灯します。



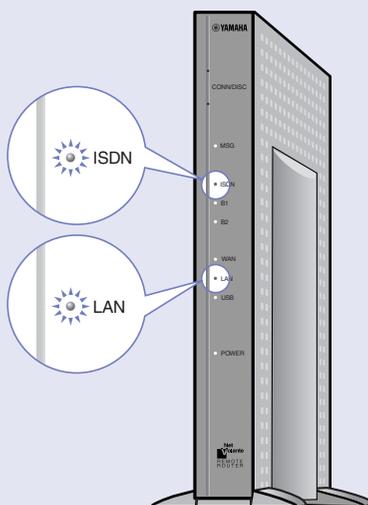
4

パソコンやHUBの電源を入れ、本機のLANランプが点灯または点滅することを確認する。

本機のLANランプとISDNランプが点灯または点滅すれば正常です。

LANランプが点灯または点滅しない場合は

LANケーブルが正しく接続されているかどうか、パソコンやHUBの電源が入っているかどうか確認してください。



ご注意

- 本機に接続したパソコンやHUBの電源がすべて入っていないときは、LANランプは点灯または点滅しません。
- Macintoshのみを本機に接続している場合、パソコンの設定によってはLANランプが点灯または点滅しない場合があります。その場合は、「準備6 パソコンに付属ソフトウェアをインストールする」(次ページ)および「準備7 パソコンのネットワーク設定を変更する」(179ページ)の説明にしたがって、必要な設定をパソコンで行ってから、もう1度LANランプを確認してください。

準備 6

パソコンに
付属ソフト
ウェアを
インストール
する

本機には、パソコン側で本機に必要な設定をまとめて行ったり、パソコンから本機のインターネット接続／切断の操作をパソコンから行うために、以下のソフトウェアが付属CD-ROMに収録されています。

- RTA55i/パソコンセットアップ:パソコンのネットワーク機能を設定します。
- RTAssist:パソコンから本機のインターネット接続／切断を操作します。

これらのソフトウェアは簡単に設定や操作を行うためのものであり、本機を使用する上で必須のものではありません。ただし、本書ではこれらのソフトウェアを使って、パソコンの設定の方法を説明しています。ネットワーク機器の操作や設定に慣れていない方は、次ページ以降の説明にしたがって、設定操作の前にこれらのソフトウェアをインストールすることをおすすめいたします。



Windows95/98/
Me/2000/XPの場合

……176ページ



MacOSの場合

……178ページ

ご注意

- インストールの途中で再起動が必要になる場合がありますので、インストールを始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。
- Windows 2000/XPの場合は、管理者 (Administrators) でログインしてから、インストールを行ってください。

Windows 95/98/Me/2000/XPの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstPCSU]アイコンをダブルクリックする。

2

画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了]をクリックする。

これで、「RTA55iパソコンセットアップ」のインストールは完了です。



RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」は、Windows 95/98/Me/2000/XP用のソフトウェアです。設定の前にインストールしてください。

ご注意

すでに古いバージョンのユーティリティソフトウェアがインストールされている場合は、コントロールパネルの「アプリケーションの追加と削除」で削除（アンインストール）してください。

1

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[InstAsst] アイコンをダブルクリックする。

2

画面の指示に従って操作する。

ソフトウェアのコピーと、スタートメニューへの登録が行われます。

3

インストールが終わったら、[完了] をクリックする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



MacOSの場合



RTA55iパソコンセットアップをインストールする

付属のCD-ROMからRTA55iパソコンセットアップを直接起動できるため、パソコンへのインストール作業は不要です。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTA55iパソコンセットアップ」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

RTAssistをインストールする

付属CD-ROMに収録されているユーティリティソフトウェア「RTAssist」をインストールします。

ご注意

ユーティリティソフトウェア「RTAssist」を使用するには、以下の環境が必要です。

- PowerMacintosh
- MacOS8.1以降 (MacOS X (Classic環境を含む) には対応していません。)
- OpenTransport1.2以降

付属CD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ]フォルダ内の[RTAssist]フォルダをハードディスクにコピーする。

これで、RTAssistのインストールは完了です。



準備 7

パソコンの ネットワーク 設定を 変更する

LANケーブルで接続したパソコンからインターネットに接続するには、まずパソコンのネットワーク設定を変更する必要があります。インストールした「RTA55iパソコンセットアップ」のメッセージに従って操作してください。USBケーブルで接続する場合は、「活用マニュアル」(別冊)の「第6章 USB接続機能を活用する」(69ページ)をご覧ください。複数のパソコンを接続する場合は、すべてのパソコンで同様に設定を行ってください。

ご注意

- 以下の説明は、Windows 95/98/Me/2000/XPおよびMacOS8.1以降 (Mac OS Xを除く)の環境で、RTA55iパソコンセットアップを使って設定するためのものです。上記以外の環境でお使いの場合は、同等の設定を手動で行ってください(194ページ)。
- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定(TA接続利用時)の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前に、LANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。
- 設定を始める前に、他のソフトウェアをすべて終了してください。設定の途中で再起動が必要になるため、作業中のデータが消失することがあります。
- ダイヤルアップ接続の設定を行うと、意図しない発信を防ぐためにいくつかのフィルタが自動的に設定されます。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RTA55iパソコンセットアップが正しく動作しないことがあります。その場合は、手動でネットワークの設定を変更してください(194ページ)。

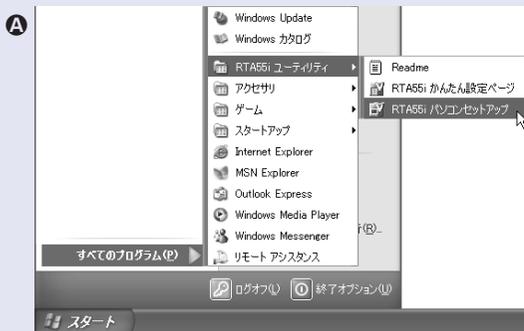
ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。

1

RTA55iパソコンセットアップを起動する。

Ⓐ Windows95/98/Me/2000/XPの場合

[スタート] ボタンをクリックして、[プログラム] - [RTA55iユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ] をクリックする。



Ⓑ Macintoshの場合

付属のCD-ROMをパソコンにセットしてから、[ユーティリティ] - [RTA55iパソコンセットアップ]フォルダ内の、[パソコンセットアップ]アイコンをダブルクリックする。



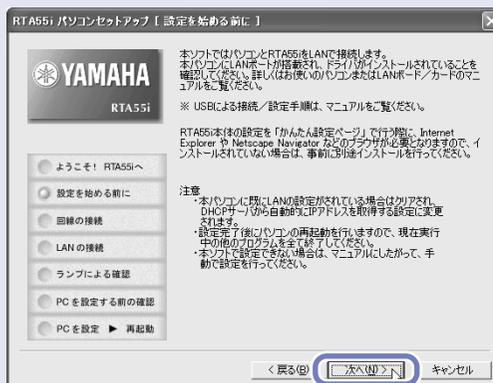
2

[次へ] をクリックする。



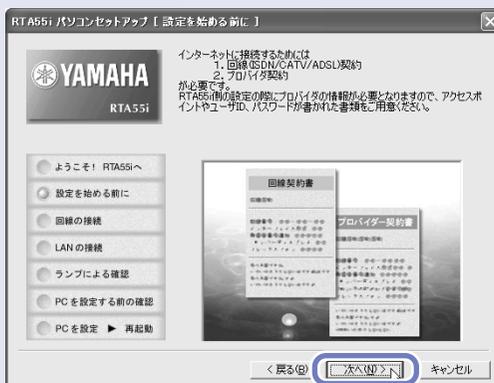
3

メッセージの内容を確認してから、[次へ] をクリックする。



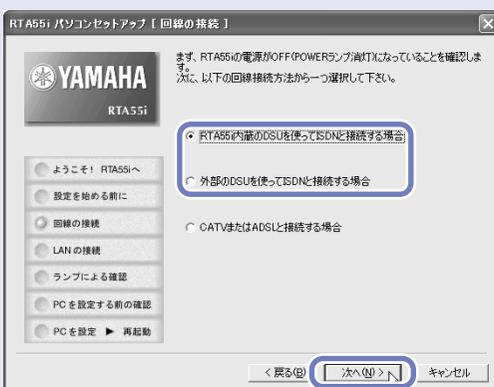
4

プロバイダ登録に必要な情報が揃っているかを確認してから、「次へ」をクリックする。



5

使用する回線接続形態を選んでから、「次へ」をクリックする。



6

接続した回線の種類と、本機後面のA スイッチの設定を確認してから、「次へ」をクリックする。

問題がある場合は[キャンセル]をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備1 ルータにISDN回線を接続する」(161ページ)をご覧ください。

A RTA55i内蔵のDSUを使って、ISDNで接続する場合

B 外部のDSUを使って、ISDNで接続する場合



次のページにつづく→

7

本機のLANポートにLANケーブルが接続されていることを確認してから、**[次へ]**をクリックする。

問題がある場合は**[キャンセル]**をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。詳しくは、「準備5 ルータにパソコンを接続する」(172ページ)をご覧ください。



8

本機の電源やランプの表示を確認してから、**[次へ]**をクリックする。

問題がある場合は**[キャンセル]**をクリックして、問題を解決してから操作をはじめからやり直してください。

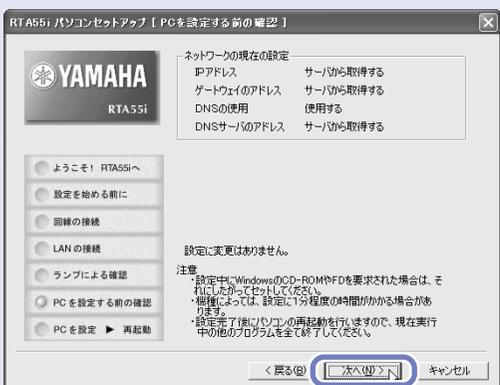


9

設定内容を確認してから、**[次へ]**をクリックする。

パソコンのネットワーク設定が自動的に行われます。お使いのパソコンの環境によっては、OS(Windows、MacOS)のインストールCD-ROMが必要になる場合があります。

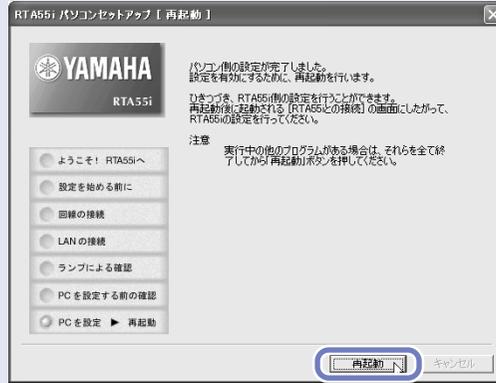
お使いのパソコンの環境によっては、ネットワーク設定の完了後に再起動のメッセージが表示されます。再起動のメッセージが表示されない場合は、そのまま手順11へ進んでください。



10

再起動のメッセージが表示された場合は、**[再起動]**をクリックする。

パソコンが再起動します。



11

「RTA55iと接続」画面が表示されたら、**[開く]**をクリックする。

Webブラウザが自動的に起動して、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されたら、パソコンの設定は完了です。他のパソコンも同様に設定してください。



2台目以降のパソコンを設定している場合は「RTA55iと接続」が表示されたら、**[中止]**をクリックします。

インターネット に接続する

本機の「かんたん設定ページ」画面で端末型ダイヤルアップの接続先を設定して、インターネットに接続します。

設定する前に

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定 (TA接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- インターネットへ常時接続する場合は、インターネット側から不正なアクセスや攻撃を受ける可能性が高くなります。十分なセキュリティ設定を行って、ご使用ください。詳しくは別冊の「活用マニュアル」の「第7章 ファイアウォール機能を使う」(114ページ)をご覧ください。プロバイダの設定資料を用意してください。

プロバイダの設定資料を用意してください

設定するには、プロバイダやNTTから通知される以下の情報が必要です。

- ネームサーバアドレス (DNSサーバアドレス)
- フレッツ・ISDN用アクセスポイントの電話番号
- ユーザID (アカウント名)
- パスワード

Webブラウザのバージョンを確認してください

本機の設定を変更するには、パソコン上のMicrosoft Internet ExplorerやNetscape NavigatorなどのWebブラウザを使用します (お使いのパソコンに標準インストールされているものを使用できます)。Webブラウザがインストールされていない場合は、設定操作を始める前にインストールしてください。

Windows95/98/Me/2000/XPの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降 (6.0以降を除く) のWebブラウザが必要です。Windows95以降にはInternet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。

ご注意

お使いのWindows95のバージョンによっては、インストールされているWebブラウザがInternet Explorer 3.0の場合があります。この場合は、Webブラウザをバージョンアップしてください。

MacOSの場合

Internet Explorer 4.0以降またはNetscape Navigator 3.0以降 (6.0を除く) のWebブラウザが必要です。MacOS8.1以降には、Internet Explorerが標準でインストールされているため、新たにWebブラウザをインストールする必要はありません。もし、インストールされていない場合は、別途インストールしてください。

設定する

ここではWindows XPとInternet Explorer 6.0の画面を例に説明します。他の環境の場合は画面表示が多少異なりますが、操作は同じです。RTA55iパソコンセットアップで引き続き設定する場合は、手順4から始めてください。

1

本機の電源が入っていることを確認する。

2

パソコンでWebブラウザを起動して、[ファイル]メニューから[開く]を選ぶ。

3

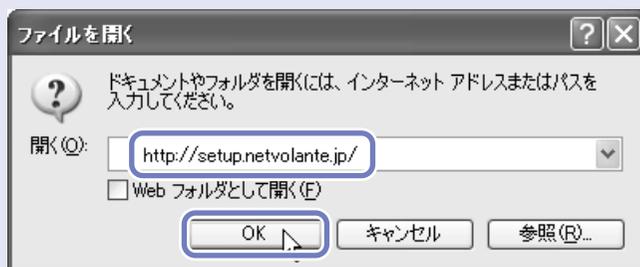
「<http://setup.netvolante.jp/>」と半角英字で入力してから、[OK]をクリックする。

本機のIPアドレス(工場出荷時は192.168.0.1)を半角英数字で入力して開くこともできます。

初めて開いたときは、「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されます。2度目以降は、手順5へ進んでください。

ヒント

「RTA55iかんたん設定ページへ行く前に」画面が表示されないときは、本機とパソコンの接続や、パソコンの設定を確認してください。



4

本機の管理パスワードを2つの入力欄に入力し、日時を設定してから[OK]をクリックして、確認のメッセージに従って操作する。

管理パスワードは半角英数字8文字までで、好みに合わせて決めてください(例:RTA55i00、yamaha55など)。

ご注意

管理パスワードは、本機の設定を変えるときや情報を見るときに必要になります。プロバイダのパスワードとは別に、大切に管理してください。



次のページにつづく→

5

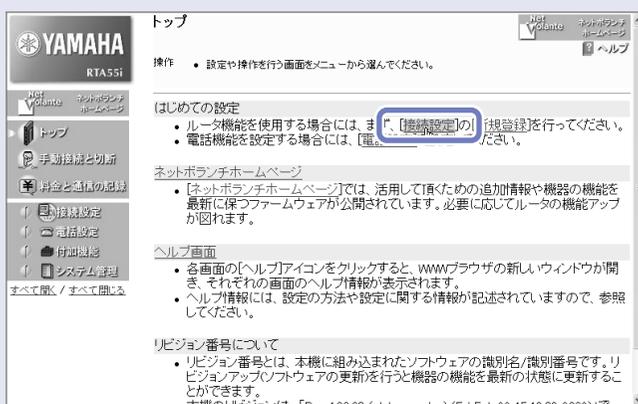
[パスワード] 欄にルータの管理パスワードを入力してから、[OK] をクリックする。

「トップ」画面が表示されます。



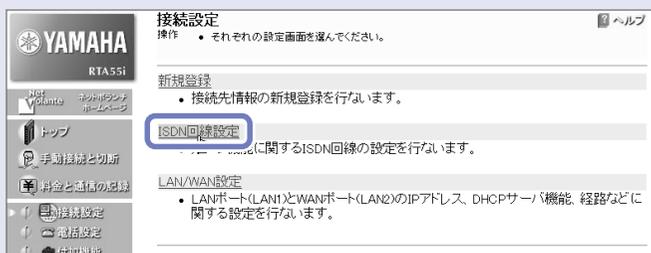
6

[接続設定] をクリックする。



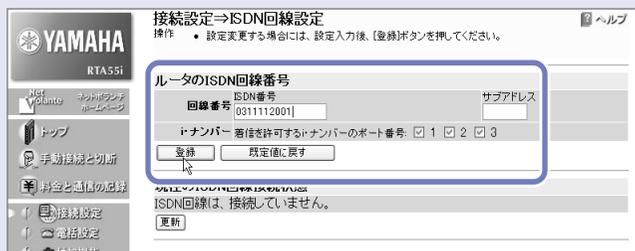
7

[ISDN回線設定] をクリックする。



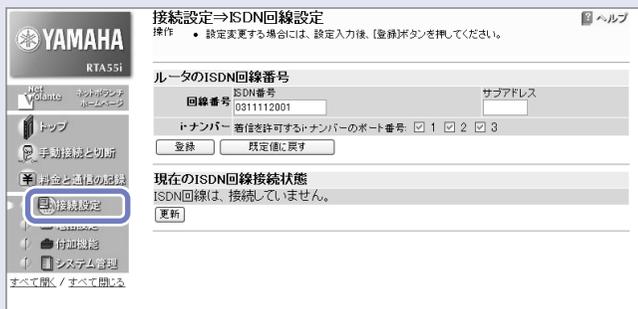
8

本機のISDN回線番号とサブアドレスを入力してから、[登録] をクリックする。



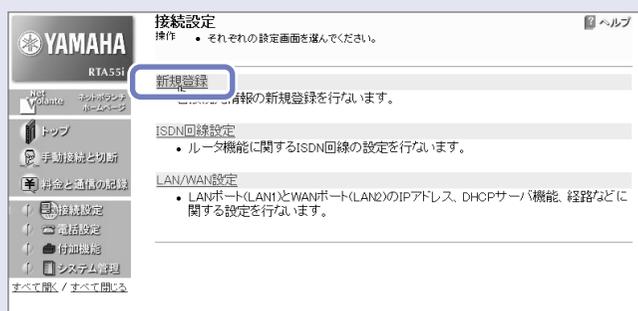
9

画面左側の「接続設定」をクリックする。



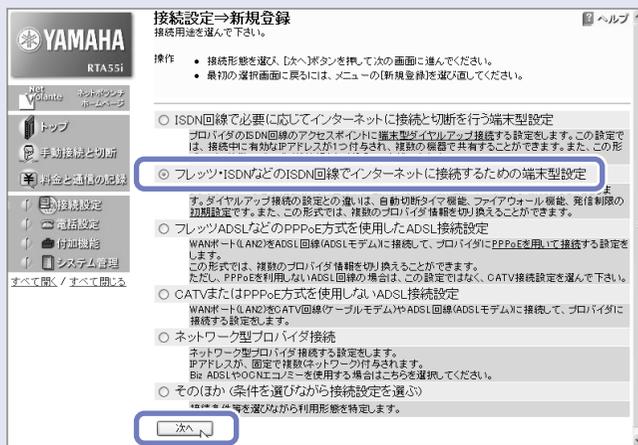
10

「新規登録」をクリックする。



11

「ISDN回線で必要に応じてインターネットに接続と切断を行う端末型設定」を選んでから、「次へ」をクリックする。



次のページにつづく→

12

プロバイダの設定情報書類を見ながら、プロバイダ名と各設定項目を入力する。

プロバイダ名

接続先がわかるような名前を入力します。

プロバイダの電話番号

NTTから指定された電話番号を入力します。

ユーザID

プロバイダから指定された、フレッツ・ISDN接続用のユーザIDを入力します。ユーザIDは、必ず書類を確認してください。

例) `username@provider.ne.jp`
`username@aaa.provider.ne.jp`
 (サブドメインが付加される場合)

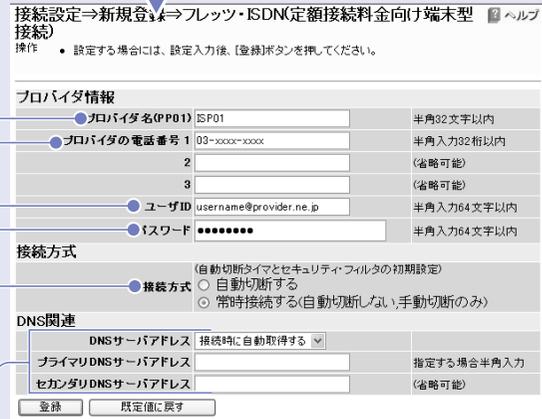
パスワード

指定されたパスワードまたは自分で変更したパスワードを入力します。半角英数字で大文字小文字も正確に入力してください。

接続方式

フレッツ・ISDNの使いかたを選びます。

- **自動切断する**: ISDNの2回線分をなるべく電話やFAXなどで使いたい場合を選びます。
- **常時接続する**: 1チャンネルを常に接続したままにしたい場合を選びます。



DNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスの取得方法を選びます。

- **IPアドレスを指定する**: プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されている場合を選びます。
- **接続時に自動取得する**: プロバイダからDNSサーバアドレスが指定されていない場合や、自動取得となっている場合を選びます。

プライマリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが指定されている場合に入力します。

セカンダリDNSサーバアドレス

DNSサーバアドレスが2つ指定されている場合に入力します(省略できます)。

13

入力が終わったら、「登録」をクリックする。

メッセージに従ってボタンをクリックすると、接続先が登録されます。

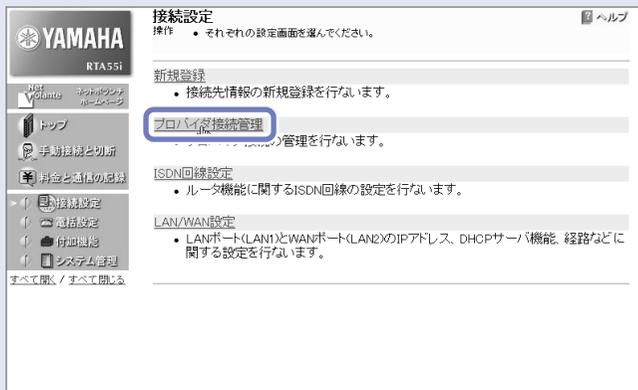
ヒント

設定したパスワードの文字数を隠すため、設定ページを再表示したときは、パスワード欄が「*」1つだけの表示となります。



14

[プロバイダ接続管理] をクリックする。



15

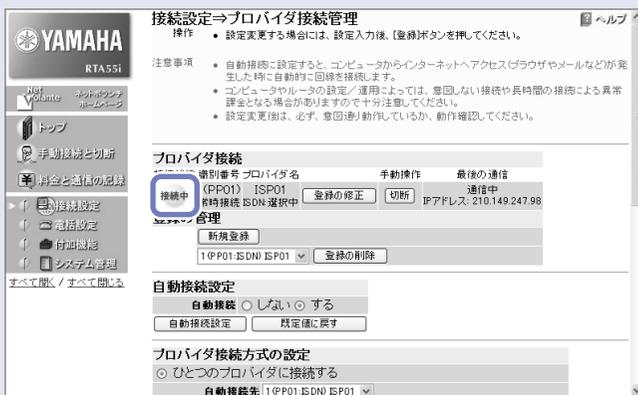
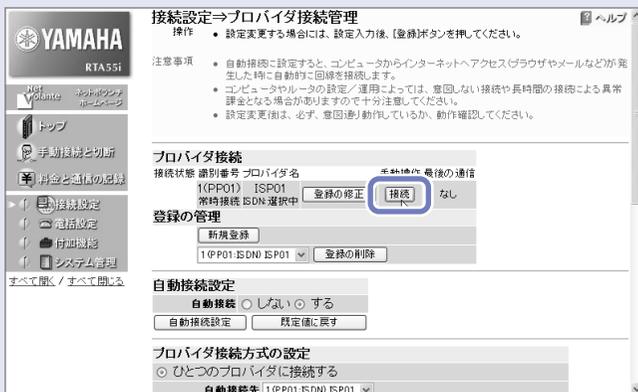
登録したプロバイダの [接続] をクリックして、手動接続してみる。

左側に「接続中」が表示されたら、正しく設定されています。インターネットへ接続中は、本機のB1ランプまたはB2ランプが点灯します。

● 接続できない場合は

以下のことを確認してください。

- 「相手が話中中です (17)」と表示されている場合: アクセスポイントが混み合っていて、話中になっています。同一市外局内に別のアクセスポイントがある場合は、[登録の修正] をクリックして、別の電話番号を設定し直してください。その番号しかない場合は、しばらく待ってから手動接続を行ってください。
- それ以外の失敗した理由が表示された場合: 電話番号やユーザーID、パスワードの設定が間違っている可能性があります。[登録の修正] をクリックして、プロバイダの設定情報書類を見直しながら設定内容を確認したり、パスワードの大文字/小文字や全角/半角に注意して入力し直してから、もう1度手動接続を行ってください。



次のページにつづく→

16

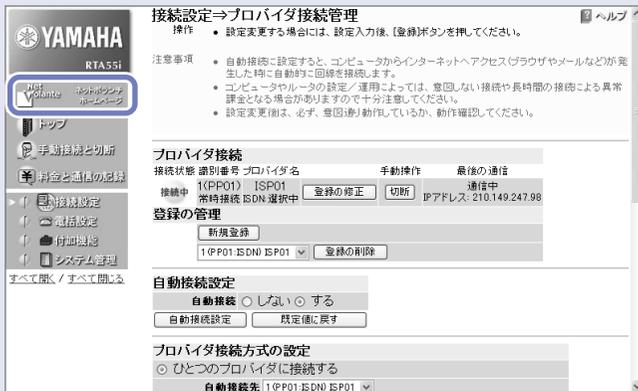
画面左上の「ネットボランチホーム ページ」をクリックする。

NetVolanteのホームページが表示されれば、ルータの設定は正しく行われています。

表示されない場合は

DNSサーバアドレスの設定が間違っている可能性があります。

[切断]をクリックしていったん接続を切断してから、[登録の修正]をクリックして、設定内容をもう1度確認してください。



17

接続できることを確認できたら、Webブラウザの「戻る」をクリックして、「プロバイダ接続管理」画面に戻る。

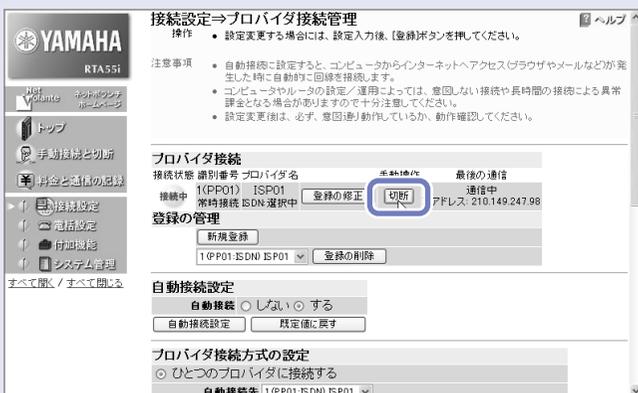
接続方式で[自動切断]を選んでいたら場合は、登録したプロバイダの[切断]をクリックして手動切断してください。

接続方法で[自動切断する]を設定した場合

手動切断しなくても、一定時間インターネットへアクセスしないと、自動的にプロバイダとの接続が切れます。

ヒント

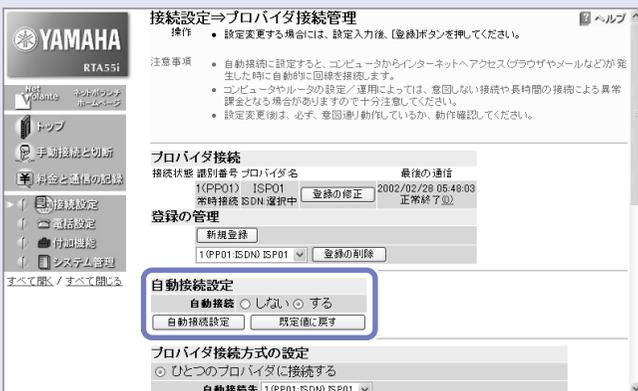
フレッツ・ISDNは定額料金制なので、発信制限は自動設定されません。



18

[自動接続設定]が[する]になっていて、[自動接続先]に登録したプロバイダが選ばれていることを確認する。

これでルータのフレッツ・ISDN接続設定は完了です。



インターネット接続を開始する

本機はインターネットへ自動的に接続します

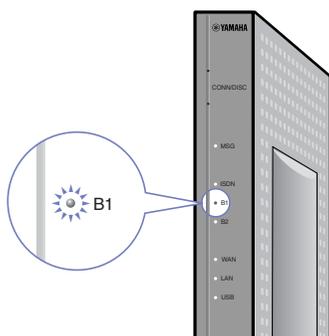
本機はLAN内の情報を監視し、インターネットへのアクセスが必要になると、自動的にインターネットへ接続します。通常は、パソコンでホームページを閲覧したり、新着メールを確認するだけで、自動的に接続/切断できます。本機のボタンや付属のソフトウェアで、手動で接続/切断することもできます。

ヒント

自動的に接続したくないときは、「かんたん設定ページ」の[プロバイダ接続管理]画面で変更できます。ボタンによる接続/切断をする場合は、あらかじめ「CONN/DISCボタンによる接続/切断設定」で変更する必要があります。初期設定では、ボタンによる接続は[しない]、ボタンによる切断は[する]に設定されています。

ご注意

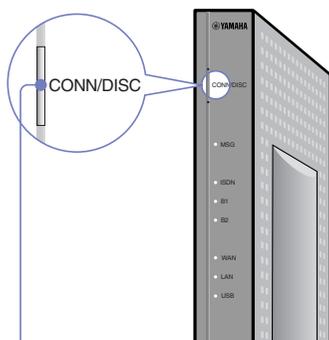
- お使いのソフトウェアの設定によっては、定期的にインターネットに接続されて、電話料金が異常に多くなることがあります。ときどき接続記録を見て、意図しない接続がないか、確認してください。詳しくは、「困ったときは」(別冊)の「通信料金に異常がある」(28ページ)をご覧ください。
- ソフトウェアによっては、意識的に起動しなくてもパソコンを起動しているだけで自動的に動作しているものがあります。知らないうちに自動発信を繰り返している場合があるので、十分ご注意ください。詳しくは、「困ったときは」(別冊)の「通信料金に異常がある」(28ページ)をご覧ください。



自動で接続する

自動接続の場合は、接続のための操作は必要ありません。WebブラウザでURLを入力したり、電子メールソフトウェアで送信や受信の操作を行うだけで、自動的にインターネットへ接続します。

インターネットへ接続しているときは、B1ランプまたはB2ランプが点灯または点滅します。



CONN/DISCボタンで接続する

「かんたん設定ページ」の「接続設定」画面で[CONN/DISCボタンによる手動接続]の設定を[する]にしてある場合は、本機のボタンを押して手動で接続できます。この機能を使うときは、先に「かんたん設定ページ」で設定を行ってください。

ご注意

- 本機の初期設定は、[CONN/DISCボタンによる手動接続]が[しない]になっています。また、接続先は「かんたん設定ページ」で指定したプロバイダになります。
- 本機をTAとして使用している場合は、CONN/DISCボタンを押しても接続できません。
- CONN/DISCボタンを押しても、アナログポートの接続はできません。

CONN/DISCボタンを2秒以上押し続ける。
B1ランプまたはB2ランプが点灯または点滅して、インターネットへ接続します。

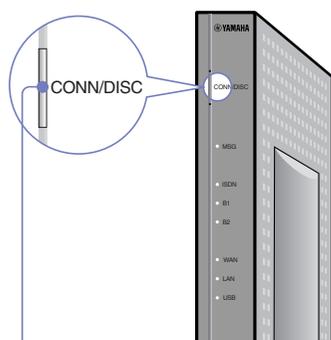
インターネット接続を終了する

本機はインターネットへの接続を自動的に切断します

ルータはLAN内から一定時間インターネットへのアクセスがないと、次の通話課金単位時間（ISDN回線でのダイヤルアップ接続の場合、初期設定では3分毎）で自動切断します。切断条件の設定は、「かんたん設定ページ」で変更できます。本機のボタンや付属のソフトウェアで、手動で切断することもできます。

ご注意

フレッツ・ISDNで接続している場合は、自動切断しません。



CONN/DISCボタンを1秒以上押し続ける。インターネット接続が切断され、点灯または点滅していたB1ランプまたはB2ランプが消灯します。

CONN/DISCボタンで切断する

ご注意

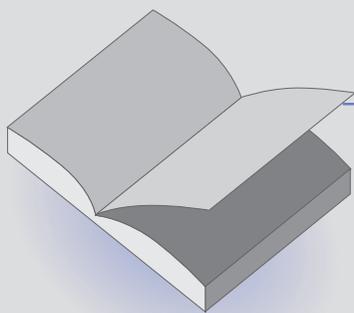
- 本機をTAとして使用している場合は、CONN/DISCボタンを押しても切断できません。
- CONN/DISCボタンを押しても、アナログポートの切断はできません。

ヒント

本機の初期設定は、[CONN/DISCボタンによる切断]が[する]になっています。ボタン切断の設定は「かんたん設定ページ」の「プロバイダ接続管理」画面で変更できます。

第8章

その他 の情報



この章では、以下の操作や情報について説明します。

- 手動でネットワーク設定を変更する
- RTAssistを活用する
- 本機を使いこなすために

手動でネットワーク設定を変更する

付属のRTA55iパソコンセットアップが正しく動作しない場合は、手動でネットワーク機能の設定を変更する必要があります。ネットワーク機能の設定は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

Windows 95/98/Meの場合

Windows 95/98/Meの場合は、次の手順でネットワーク設定を変更します。LANボードやLANカードが装着されていないときは、あらかじめLANボードやLANカードを装着して、正しく動作するかどうかご確認ください。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定（TA接続利用時）の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前にLANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、あらかじめボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

1

[スタート] ボタンをクリックして、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする。

2

[ネットワーク] アイコンをダブルクリックして、リストに「TCP/IP-> (ネットワークボード名)」が表示されているかどうか確認する。

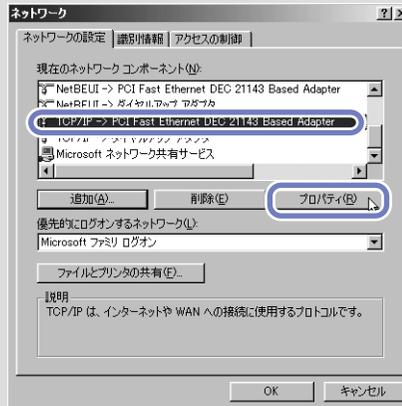
「TCP/IP-> (ネットワークボード名)」が表示されていない場合は

[追加] をクリックして、[プロトコル] の追加からMicrosoftの[TCP/IP] をクリックして、追加してください。



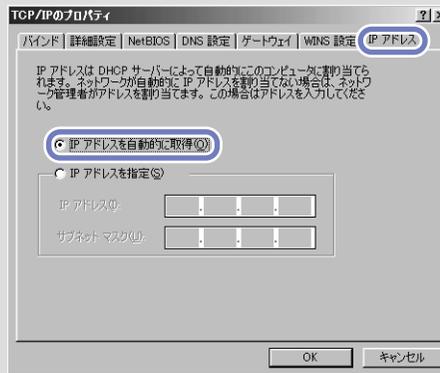
3

[TCP/IP->(ネットワークボード名)]を選んでから、[プロパティ]をクリックする。



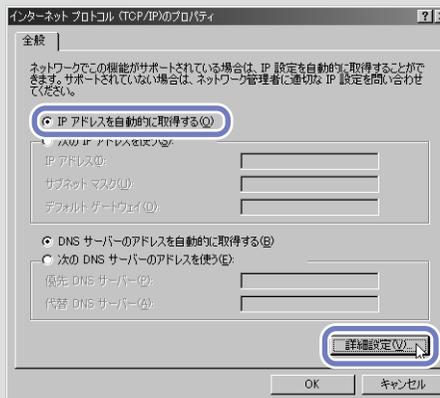
4

[IPアドレス] タブをクリックしてから [IPアドレスを自動的に取得] を選び、[OK] をクリックする。



5

[OK] をクリックする。
設定を変更した場合は、パソコンを再起動してください。



Windows 2000の場合

Windows2000の場合は、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。LANボードやLANカードが装着されていないときは、先にLANボードやLANカードを装着して、正しく動作するかどうかご確認ください。

Windows2000のネットワーク設定を行うには、管理者 (Administrators) グループの権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定 (TA接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前にLANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

1

[スタート] ボタンをクリックして、[設定] - [コントロールパネル] をクリックする。

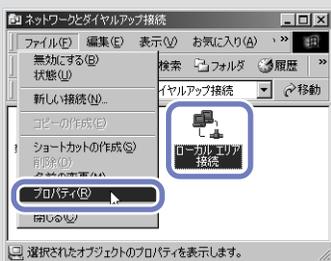
2

[ネットワークとダイヤルアップ接続] をダブルクリックする。



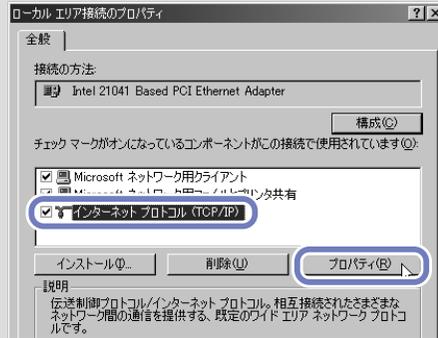
3

本機を接続しているネットワークボード名の [ローカルエリア接続] をクリックして選んでから、[ファイル] メニューから [プロパティ] を選ぶ。



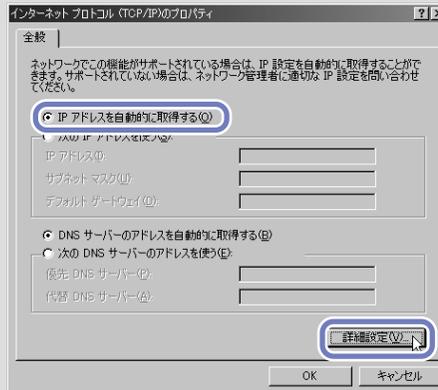
4

リストの「インターネットプロトコル (TCP/IP)」を選んでから、「プロパティ」をクリックする。



5

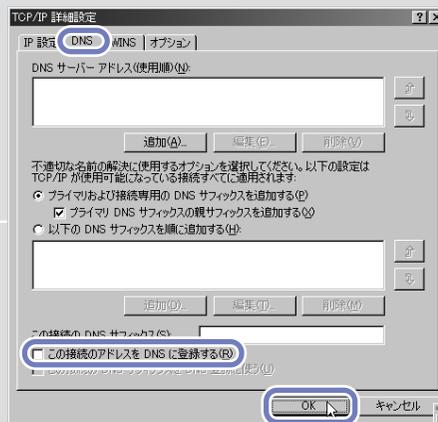
「IPアドレスを自動的に取得する」を選んでから、「詳細設定」をクリックする。



6

「DNS」タブをクリックしてから「この接続のアドレスをDNSに登録する」のチェックを外し、「OK」をクリックする。

「TCP/IP詳細設定」画面が閉じます。



7

「OK」を何回かクリックして、「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面と「ローカルエリア接続のプロパティ」画面を閉じる。

設定を変更した場合は、パソコンを再起動します。

WindowsXPの場合

WindowsXPの場合は、次の手順でネットワーク機能の設定を変更し
ず。LANボードやLANカードが装着されていないときは、先にLANボ
ードやLANカードを装着して、正しく動作するかどうかご確認ください。
WindowsXPのネットワーク設定を行うには、管理者 (Administrators)
グループの権限を持つユーザとしてログインする必要があります。

ご注意

- プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定と、パソコンのダイヤルアップネットワーク設定 (TA接続利用時) の両方を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。
- 設定を始める前にLANボードやLANカードが正しく動作していることを確認してください。正しく動作していないと、設定が行えません。正しく動作していない場合は、先にボードやカードの問題を解決してから設定を行ってください。

1

[スタート] ボタンをクリックして、
[コントロールパネル] をクリックす
る。

2

[ネットワークとインターネット接
続] をクリックする。



3

[ネットワーク接続] をクリックす
る。



4

[ローカルエリア接続]のアイコンをクリックする。



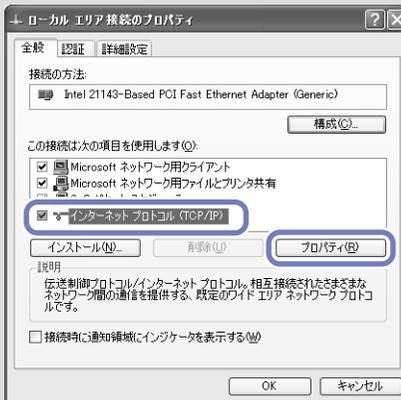
5

[この接続の設定を変更する]をクリックする。



6

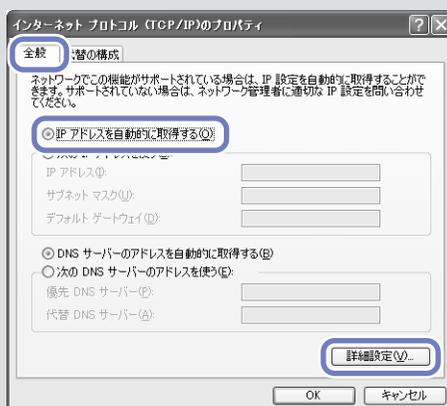
[インターネットプロトコル (TCP/IP)]を選んでから、[プロパティ]をクリックする。



次のページにつづく→

7

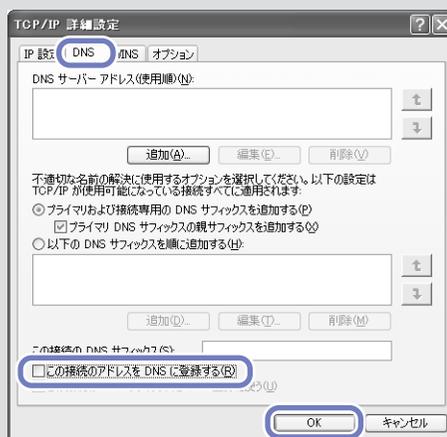
[全般] タブをクリックして [IPアドレスを自動的に取得する] を選んでから、[詳細設定] をクリックする。



8

[DNS] タブをクリックしてから [この接続のアドレスをDNSに登録する] のチェックを外し、[OK] をクリックする。

[TCP/IP 詳細設定] 画面が閉じます。



9

[OK] を何回かクリックして、「インターネットプロトコル (TCP/IP) のプロパティ」画面と「ローカルエリア接続のプロパティ」画面を閉じる。

設定を変更した場合は、パソコンを再起動します。

Mac OS 8.x～9.xの場合

MacOSでは、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。ネットワーク機能の設定の変更は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

ここでは、[TCP/IP]コントロールパネルを例に説明します。

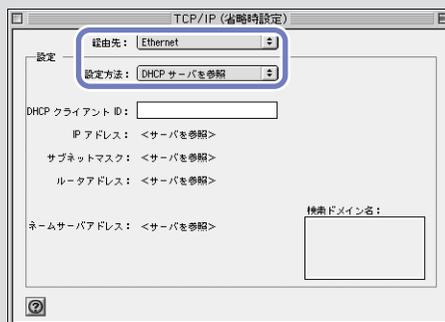
ご注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

1

アップルメニューから[コントロールパネル]—[TCP/IP]を選び、以下のように設定する。

- 経由先: Ethernet
- 設定方法: DHCPサーバを参照



2

設定が終わったら、[ファイル]メニューから[終了]を選ぶ。

3

[保存する]をクリックする。

Mac OS Xの場合

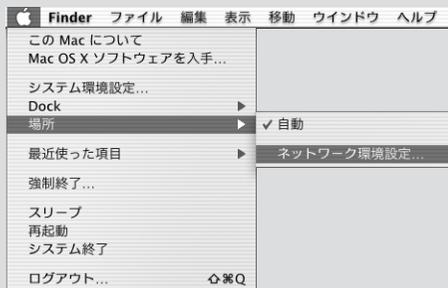
MacOS Xでは、次の手順でネットワーク機能の設定を変更します。ネットワーク機能の設定の変更は、LANに接続されているすべてのパソコンで行ってください。

ご注意

プロバイダ契約を解除または変更した時は、必ず本機の接続設定を削除または再設定してください。削除しないまま使っていると、回線業者やプロバイダから意図しない料金を請求される場合があります。

1

アップルメニューから[場所] - [ネットワーク環境設定]を選ぶ。

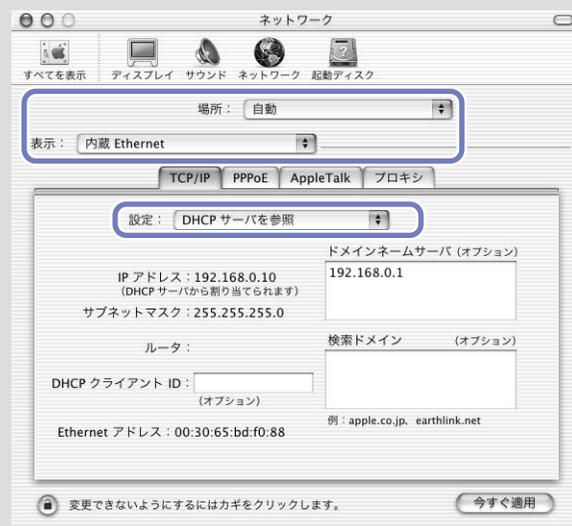


2

以下のように設定してから、[今すぐ適用] をクリックする。

- 場所:自動
- 設定:内蔵Ethernet (標準のLANポート使用時のみ)
- 設定:DHCPサーバを参照

設定後は、[IPアドレス]がルータに設定したDHCPの割り当て範囲(工場出荷状態では192.168.0.2~192.168.0.191)になっていることを確認してください。



RTAssistを 活用する

付属のソフトウェア「RTAssist」を使って、LAN上のパソコンから手動で接続／切断したり、接続状態や通信記録、料金情報を確認したりすることができます。RTAssistの機能について詳しくは、添付のReadmeファイルや、「お読みください」をご覧ください。

RTAssistを使用する前に

RTAssistがインストールされていることを確認してください。

ご注意

- 本機を「かんたん設定ページ」（コマンド入力を除く）で設定した場合のみ、本機をRTAssistで操作できます。
- RTAssistはtelnetにより制御を行います。RTAssist起動中は、他のtelnetソフトウェアで本機にアクセスすることはできません。同様に、telnetソフトウェアで本機にアクセスしている間は、RTAssistは使用できません。
- RTAssist起動中は、「かんたん設定ページ」やコマンド、その他の方法による本機の設定変更は行わないでください。
- USB接続でRTAssistを使用する場合は、あらかじめ擬似LAN接続で本機に接続しておく必要があります。擬似LAN接続について詳しくは、「活用マニュアル」（別冊）の「第6章 USB接続機能を活用する」（69ページ）をご覧ください。
- お使いのパソコンの仕様やソフトウェアの状態によっては、RTAssistが正しく動作しないことがあります。その場合は「かんたん設定ページ」の「接続設定」－「プロバイダ接続管理」画面で切断してください。

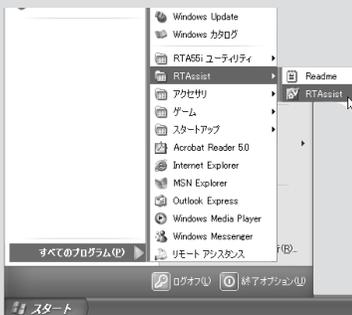
RTAssistを起動する／終了する

1

RTAssistを起動する。

Windowsの場合

[スタート]メニューをクリックして、[プログラム]－[RTAssist]－[RTAssist]をクリックする。



Mac OSの場合

[RTAssist]アイコンをダブルクリックする。



次のページにつづく→

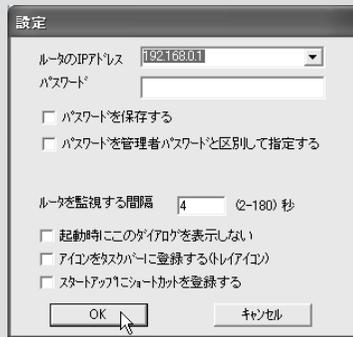
2

[ルータのIPアドレス]と[パスワード]を入力してから、[OK]をクリックする。

「RTAssist」画面が表示されます。

ヒント

- Windowsの場合、[起動時にこのダイアログを表示しない]、[アイコンをタスクバーに登録する]、[スタートアップにショートカットを登録する]の3項目にすべてチェックを付けると、パソコンの起動と同時にRTAssistが自動的に起動します。この場合、RTAssistはタスクトレイのアイコンをダブルクリックするだけで起動できます。
- すでにRTAssistが起動されているときは、タスクバーのアイコンをダブルクリックするか、または右ボタンをクリックして表示されたメニューから[開く]を選んで、RTAssist画面を表示できます。



RTAssistを閉じる

[終了]または[閉じる]をクリックする。

ヒント

Windows環境でお使いの場合は、[閉じる]をクリックすると、RTAssistは常駐したままでタスクトレイに残ります。完全に終了するためには、タスクトレイのアイコンを右クリックして、表示されたショートメニューから[終了]を選びます。



手動で接続する／切断する

登録したプロバイダに手動で接続するときは、次の手順で操作します。

1

RTAssistを起動する。

2

接続したいプロバイダを選んでから、**[接続]**をクリックする。

プロバイダに接続すると、プロバイダ名やアクセスポイントの番号、接続時間が表示されます。

ヒント

プロバイダに接続していない状態で「ルータ情報」をクリックして表示される「ルータ情報」画面で、「自動接続する」のチェックをはずすと、ルータの自動接続動作を禁止できます。



手動で切断するときは

RTAssistを起動してから、**[切断]**をクリックする。

切断すると、プロバイダの表示が消えます。



接続状態を確認する

RTAssistを起動する。

インターネット接続状態が表示されます。



料金情報を確認する (ISDN回線使用時のみ)

接続先ごとや各ポートごとの累積料金を確認できます。

RTAssistを起動してから、**[通信情報]**をクリックする。

各接続先ごとや各ポートごとの累積料金が表示されます。

💡 ヒント

通信料金は、NTTから通知される料金を累積して表示しています。

NTTから通知される料金は少数点以下が切り上げられたり、各種割引サービスやNTT以外の回線業者の料金が反映されないことなどにより、実際に請求される料金と異なる場合があります。あくまで目安と考えてください。



本機の設定や通信記録を保存する

本機の設定や通信記録を、パソコンのテキストファイルとして保存できます。

ご注意

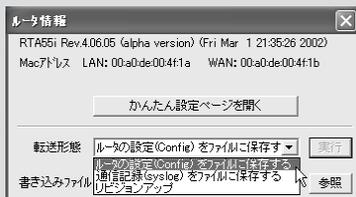
- 保存したファイルには、ユーザIDやパスワードなどの重要な情報が含まれています。取り扱いには十分ご注意ください。
- トラブル発生時には、原因調査のためにこれらの情報を保存しておくことをおすすめします。

1 RTAssistを起動してから、**[ルータ情報]**をクリックする。

「ルータ情報」画面が表示され、本機のファームウェアのリビジョン番号や、MACアドレスが表示されます。

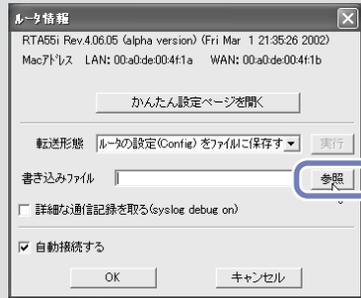


2 [転送形態] から **[ルータの設定 (Config) をファイルに保存する]** または **[通信記録 (syslog) をファイルに保存する]** を選ぶ。



3

[参照] をクリックする。



4

保存先とファイル名を指定してから、
[保存] をクリックする。

5

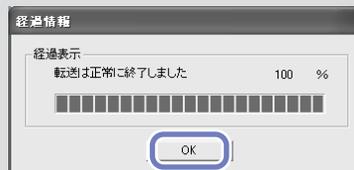
[実行] をクリックする。

手順2で選んだ内容が、パソコンにテキストファイルとして保存されます。
保存したファイルの内容は、メモ帳 (Windows) や SimpleText (MacOS) など
で確認できます。



6

[OK] をクリックして、「経過情報」
画面を閉じる。



7

[OK] をクリックして、「ルータ情報」
画面を閉じる。

本機を 使いこなす ために

本機の主な機能については

別冊の「活用マニュアル」をご覧ください。詳細な設定をするための情報が必要な場合は、PDF形式の「コマンドリファレンス」もあわせてご覧ください。

本機を使用中に問題が発生した場合は

別冊の「困ったときは」をご覧ください。

以下の問題などを解決する方法が記載されています。

- 電話やFAXが使えない (ISDN接続時)
- かんたん設定ページで設定できない
- インターネットに接続できない
- TA機能／ブロードバンドTA接続で接続できない
- 通信料金に異常がある
- パスワードを忘れてしまったときは

本機の最新情報を入手するには

本機に関する最新情報は、インターネットのホームページで入手できません。設定に関する初歩的な情報からルータの専門的な情報まで、それぞれの目的別に用意していますので、十分ご活用ください。

- **NetVolanteシリーズのホームページ**: 本機やNetVolanteシリーズに関する最新情報をご覧ください。
<http://NetVolante.jp/>
- **NetVolanteシリーズでお問い合わせの多い質問 (FAQ)**: 本機やNetVolanteシリーズに関するQ&Aをご覧ください。ネットボランチのホームページ (<http://NetVolante.jp>) から、必要な情報を入手してください。
- **NetVolanteシリーズのリビジョンアップ情報**: 本機やNetVolanteシリーズの最新ファームウェアに関する情報をご覧ください。ネットボランチのホームページ (<http://NetVolante.jp>) から、必要な情報を入手してください。
- **RTシリーズのホームページ**: RTシリーズのルータに関する最新情報やルータの技術情報、高度な利用方法などをご覧ください。
<http://www.rtpro.yamaha.co.jp/>

ご質問／お問い合わせは

本機に関する技術的なご質問やお問い合わせは、下記へご連絡ください。

RTA55i専用サービス窓口 (ネットボランチコールセンター)

TEL:03-5715-0350 (土日祝日を除く9時～12時、13時～17時)

ADSLルータ専用お客様窓口

TEL:03-5715-3575 (土日祝日を除く9時～12時、13時～17時)

電子メールでのお問い合わせ

- Webお問い合わせページ: <http://NetVolante.jp/>
- メールアドレス: support@netvolante.jp

ヤマハ株式会社

● ネットボランテコールセンター

RTA55i専用サービス窓口

TEL-03-5715-0350

ADSLルータ専用お客様窓口

TEL-03-5715-3575

土日祝日を除く9時～12時、13時～17時

● 電子メールでのお問い合わせ

Webお問い合わせページ <http://NetVolante.jp/>

メールアドレス support@netvolante.jp

V927510



この取扱説明書は大豆油インクで印刷しています。

この取扱説明書は無塩素紙 (ECF: 無塩素紙漂白パルプ) を使用しています。